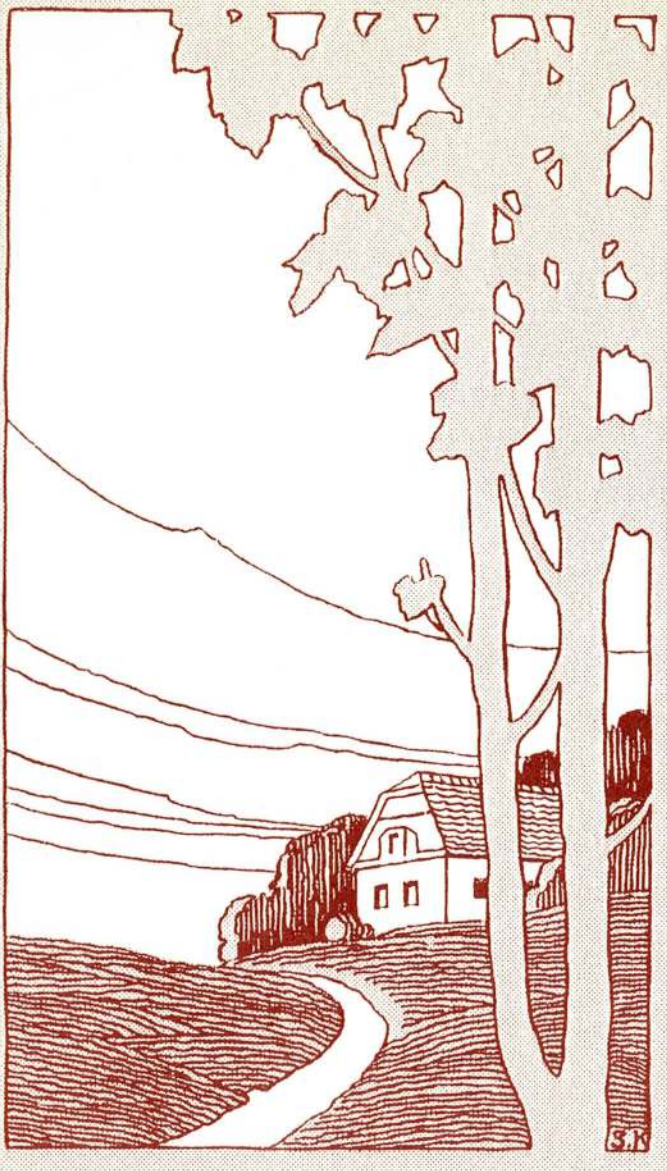
大正九年二月一日印刷　大正九年二月一日發行（毎月一回）

建築ト社會



第三輯
第三号

大正九年　三月一日
日本建築協會

日本建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ榮實ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術家又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込ミ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其資行ニ付會外ニ於テ責ニ任セザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムヘシ

前項ノ規定ハ賛助員ニモ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニモ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　主　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トモスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應シ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ囑託委員トモスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員長代行ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ豫告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　建築ニ關スル重要事項ノ議決

三　會誌ノ發刊

四　建築ニ關スル講演會ノ開催

五　建築ニ關スル展覽會ノ公開

六　建築ニ關スル視察

七　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

八　建築ニ關スル有益ナル事項

九　理想的建築ノ計畫

十　其他建築ニ關スル有益ナル事項

十一　

十二　

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ前後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スヘシ

特別賛助員ハ特別賛助員會年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助員會年額金參圓ヲ本會ニ前納スヘシ

但六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助員其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

本會ノ財產ハ理事長之ヲ管理ス

第二十二條　本會ノ財產信權債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產信權債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年二月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

懸賞

改良住宅設計案當選發表に就て

本號に於て右審査の結果を發表すべく豫定の處、審査上の都合に依り來る四月號本誌上に於て發表すそこに變更致候

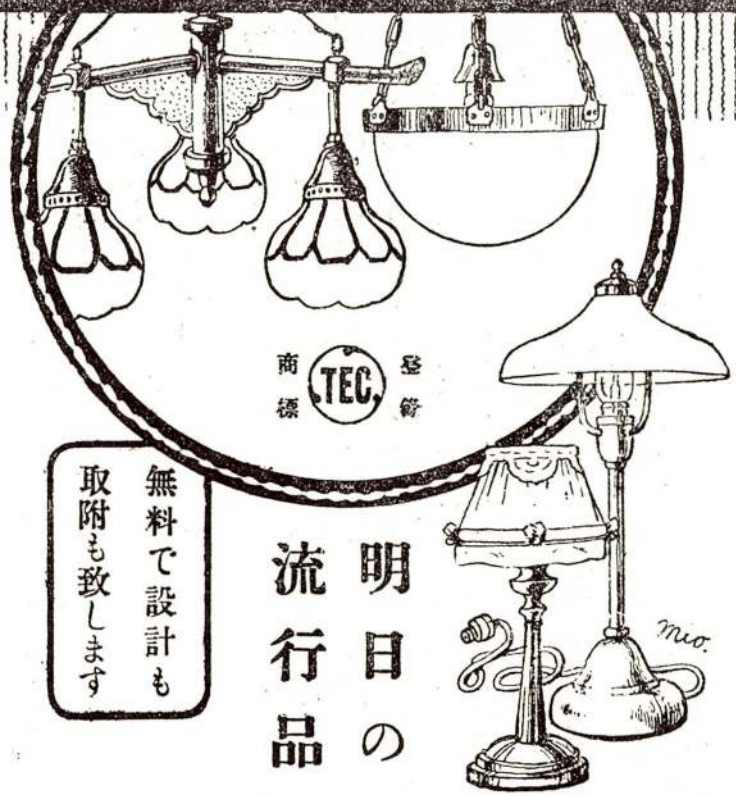
日本建築協會

═本誌の値上げ═

再三印刷料の値上げと、紙價の暴騰とに依り余儀なく本誌の代價を本年二月號より「**金五拾錢**」に改訂致候、但し既に前金を拂込まれたる分に對しては整理の都合上其前金切れとなる迄從來の例に依りて取扱ひ可申候

日本建築協會

優良な照明器具



登録商標

無料で設計も取附も致します

明日の流行品

神奈川縣川崎町

東京電氣株式會社

販賣出張所	東京市京橋區銀座尾張町一ノ一 電話銀座 一三七〇、一三七二	仙臺市大町五ノ一五	電話 長一三二
	大阪市西區阿波堀通一ノ五 電話西町 長 六三〇、八九八	札幌區南一條通西四ノ二	電話 九八九
	門司市西本町三ノ二九 電話 長 一六、六八七	大連市山縣通四五	電話 一二五五
	名古屋市中區南大津町二ノ三 電話本局 長 二五九八	上海南京路泉首五六四	電話中央 三二六七、四九〇七

D-2

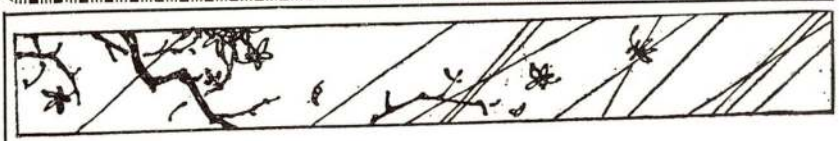


『建築と社會』第參輯第三號

目次

口繪　フォレスト・ヒル（紐育郊外）住宅經營（二色版）
　　同其其一部及鳥瞰圖（一、二）（寫眞版）

△卷頭――物價の騰貴と建設事業 …… 内務省都市計畫課長 池田宏 …… 二
△都市計畫事業と財源（一） …… 子爵 榎本春之助 …… 九
△吾が傳統の血潮と住宅觀念 …… 大阪高等商業學校長 武田千代三郎 …… 一四
△都市計畫と文化的計畫 …… 工學博士 佐野利器 …… 一七
△大都市の建築物（A） …… 辯護士 高島春雄 …… 二三
△辯護士として欲しい家 …… 法學博士 葛野壯一郎 …… 二八
△居構百選（其三） …… 會員 村田重治 …… 三三
△我邦に於ける建築木材の趨勢 …… 林學博士 伊藤清造 …… 三七
△京都古建築觀（補遺の二） …… 特別賛助員 江村郊邨 …… 四一
△廣義の都市計畫 ……
〔邸居寸觀〕
△新聞記者として見たる名士の邸（二） …… 讀賣新聞記者 梅谷孫吾 …… 四五



〔都市と社會施設〕
△英國に於ける住宅政策……大阪市發表……五一
〔女流の住居觀〕
△私の研究した臺所の構造……料理大家……龜井まき子……五八
〔漫　錄〕
△米國へ行くまで……會　員……波江悌夫……六三
〔訪れの記〕
△市井の隱者ブオルドさん(二)……ゐ　む　ら……六九
〔藻　苑〕
△俳句……芦田秋双選……七三
〔資　料〕
△大阪市接續町村下水道調査綱要(第貳輯第十一號より續く)……七五
□時報……七九
□會報……八九

附　錄

△ブタペスト建築條例(第參輯第一號より續く)……一五頁

G.E. CHEMICAL PRODUCTS.

ジーエフ防水剤

GF. Waterproofing Paste.
GF. Trowel Coating.
GF. Dampproofing Coating.
GF. Acidproofing.
GF. Cristalrox,
GF. Mastic Cement.
GF. Timber Life.
GF. Floor Enamel.
GF. Brick and Cement Coating.
GF. Galvanized Steel Coating,
Etc., Etc.

ジーエフ塗料

GE
YOUNGSTOWN. OHIO.

TKS

製造元　米國ジエネラル、フアイヤープルーフキング會社

輸入元　中外貿易株式會社

◉ジーエフ防水剤
◉ジーエフ防水防濕塗料
◉ジーエフ防酸塗料
◉ジーエフ室内裝飾塗料
◉ジーエフ床用塗料
◉ジーエフ金屬防蝕塗料
◉ジーエフ木材防蝕塗料
◉在庫品豊富◉

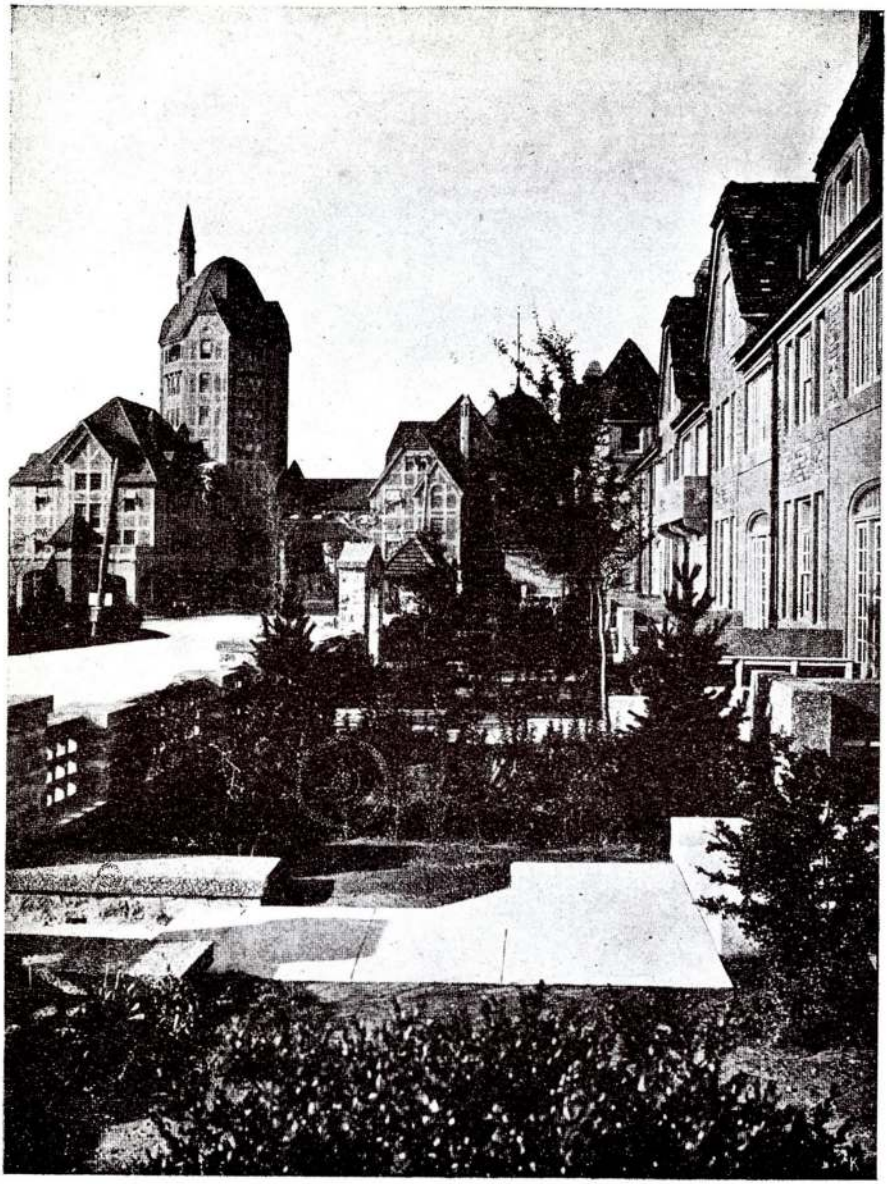
販賣元　東京市京橋區傳馬町一丁目

株式會社 東洋工業社

電話京橋 一二八〇・二二〇・四長三〇四五

出張所　大阪　名古屋　小倉　紐育

S.G.

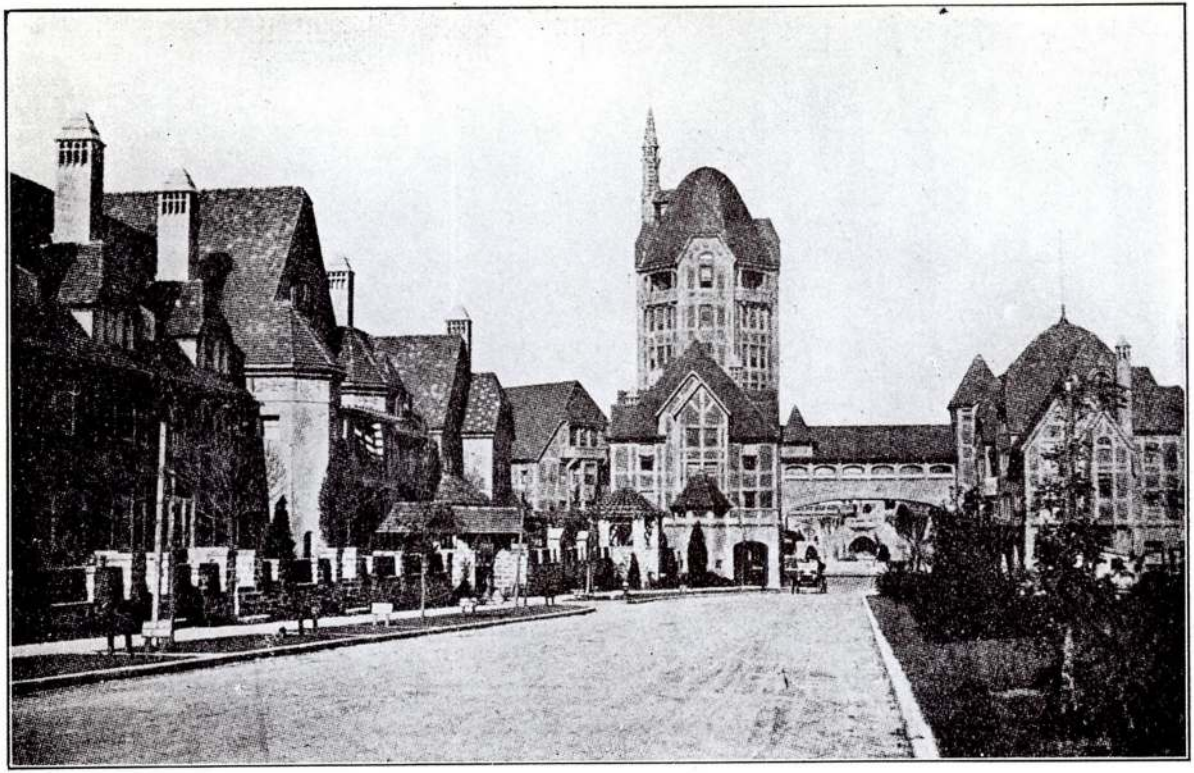


フォレスト・ヒル（郊外育組）に於ける住宅經營

フォレスト・ヒル(紐育郊外)住宅經營地の鳥瞰圖



フォレスト•ヒルズ(紐育郊外地)に於ける住宅經營の一部





近時の物價は、生活の必需品たると否とを問はず日に月に昂騰して已まない、其結果は國民一般の生活難を益甚だしからしめつゝあるのみならず、國家の凡ゆる文化的建設事業の澁滯を來さしめんとするに立ち至つて來たことは寔に悲まざるを得ざる處である。之を大にしては軍艦や兵器の製造、鐵道、港灣及道路の修築より都市改良の各種事業一として其施工の前途に困難を感せざるはないのである。殊に都市住宅の缺乏と都市建築の貧弱なる狀態は現時の物價を以てしては殆んど之を救濟するに途なからんとするを見ては、吾人はこの物價騰貴の趨勢は我國の文化的發展を沮止する最大難關たるを知らねばならぬのである。成金輩の跋扈や土地會社の濫設は或は物價騰貴の趨勢を利用するを便とすれども、我國家の健全なる發展を蠹毒するの大なるを考ふれば、爲政家たる者は如何なる犧牲を拂ふとも、此際英斷を以て其調節策を講ずべきではないか。

物價の騰貴と建設事業



都市計畫事業と財源

内務省
都市計畫課長　池田宏

（甲）

▲都市の膨脹的可能性と
▲災害と都市膨脹の實例

（本編は全氏の講演を記者の筆記せるものによりて作成せり、故に文章上の責任は記者の負ふ處也）

由來、都市なるものは、云ふまでもなく自然に膨脹する處のものである。奈何に之を抑制せむとするも爲し得ざるものである。斯の膨脹發展の勢ひたるや頗る旺勃たるものにして、實に自然の一大趨勢なりと謂はざるを得ない。今此處に殊更ら實例を引くまでもなく、人も識る通り亞米利加の市俄古の如きも、一時は殆んど全滅に近いまでに酷い大火災に遭遇して、其舊態に復することは、到底絶望の外なしとまで考へられたのであつた。然るに、事實は豫期に反し、其後十五年を出でずして、之が復舊を見た許りでなく、益々興隆の機運に向ひ、曾て殆んど亡びた處の市街は、如今世界に於て多く其比を見ざる迄の一大發展を遂げてゐる。其他、近くは、彼の桑港の如き、曾て非常なる災害に逢着し、其當時の損害は、實に五億五千萬弗にも達したと稱せられてゐる。而も、是亦數年ならずして復興したのみならず、却つて災害前よりも更に一層な發展力を以て膨脹を遂げつゝある。單り亞米利加抔に於ける例許りでなく、我邦の都市に於ても、曾ては隨分大きな火災に遭へ

る都市もあつた。されど、都市の生命なるものは、災害の爲に決して絶滅するものではない。寧ろ反對に、都市は災害に遭ふに隨つて益々發展を爲すものであつて、其旺勃たる勢ひは、奈何に之を抑壓せむと欲するとも、到底之をなし得ない、即ち發展に發展を重ねて行くべきものである。或は都市の現在に於て、寔に困つてゐる狀況より、所謂社會問題等を捉へて論ずる處の社會學者といふような人々が、都市の生活を呪ひて、或は、農に歸れ、歸農せよといふようなことを勸むる者があつても、彼樣な叫びを以ては、到底、都市の人口增大及び膨脹發展の勢ひを阻止することは出來得ないのである。

▲都市の膨脹性は恒久的なり

▲其發展は中心を得るに在り

都市の斯る現象は、之を今日までの事實より稽ふれば、寔に恒久的な生命を有するものであつて窮りなき發展性を有するものと謂つても可い。現に、大阪市の如きも、現在まで瞬く間に斯る發展を遂げ來つた事は今更ら云ふ迄もないことである。然らば、大阪市の現在は、是が絶頂であるかといふに、決して爾うではない。現に、市俄古の如き殆んど再び起つ能はずとまで考へられてゐた處の都市が、今日に在りては人口二百五十萬を算し、而も今後益々興隆を極めるといふ事實より推測せば、今より十年後即千九百三十年頃には人口一千萬を超ゆるならむとの豫測を以て、所謂偉大なる、市俄古の都市計畫を立てゝ之を實行しつゝある。伯林の如きも、將來人口は一千萬となるべしとの計畫を以て進みつゝある。而して、斯くの如く、市俄古又は伯林抔が、將來人口の膨脹一千萬

に達せむとの計畫を以て進みつゝあるは事實であるのみならず、斯る現象は、一面に於て、例へば彼の大倫敦となつて事實上に之を證據立てゐる。されど、若も、都市にして其地を占めず、世界に於ける交通の中心であり四通八達の中心であるといふことに於て、其資格無き地位に在らば、彼樣に發展を遂げ得られざるは勿論な事である。或は政治上の大なる中心なりといふが如き地位に在らざれば、到底斯る發展を遂げ得られないのである。我邦に於ては、東京を政治上の中心として伯林に比すべく、大阪は政治の中心にあらざるも、經濟の中心として、又、交通の要衝として世界に其覇を唱へ得べき地の利を占めてゐる處の大なる都市である。恰も、市俄古が合衆國の眞中に於て交通の要衝に當りつゝ、其興隆の勢頗る急激なるものあると等しく、又、紐育が市俄古と異つて海の要衝に適當なる形勝の地位を占め、而して世界に其覇を稱してゐるのと等いのである。夫れ斯くの如く、大阪は寔に好箇な地の利を占め、隨つて、其前途は頗る多幸なりと謂ふべしである。

▲都市の發展を助長するは市民の義務

▲其膨脹發展に順應するの施設を要す

斯くの如き發展を爲す事確實に認められ、漸次發展して止まないのが都市の生活なりとせば、之に對して適當な計畫を樹て、而して、斯の旺勃たる勢氣の拔け場所を考へて遣らなければならぬと同時に、斯の事は特に大都市の爲すべき仕事である。斯る發展に應ずるの計畫を樹て、之に對し全力を擧げて之が建設の業を大成するといふ事は、我等市民共同の義務にして、今更此處に縷說するまでもない事である。而して、斯樣な計畫を樹てゝ之を實行することは、其都市の膨脹發達の度が

進むに從つて、市民の之に對する義務、責任といふものが愈々加重あること多々なのである。單り之れ許りでなく、都市の膨脹發展に從つて、之に順應する處の施設計畫を實行せずんば、到底、近く世界に覇を稱することの出來得ないのは勿論、他の都市と比肩して、少くとも其の都市の發展に並行する事は出來得ない結果となる。彼樣な計畫は單り街路の系統を正し、而して其仕事を實行するを以て出來得すものではなく、是には各種の施設計畫が必要である。殊に衛生上の計畫、或は下水の計畫、乃至は、大なる都市の將來に應ずる處の、水道給水計畫等、斯る衛生上の計畫は、素より經濟上の偉大なる都市なる限り、斯の經濟上の都市として有する處の使命を全ふして以て、其名に恥ぢざる各般の施設計畫、殊に大阪の如きは其港灣及び此の港灣と通ずる處の水運や水利の開設計畫の如き、或は、所謂高速度鐵道機關の如き、殊に、斯の高速度鐵道は單り旅客運送のみならず貨物の運輸就中市內に於ける小荷物の運送、其他、阜頭、停車場、卸賣商等の商業地域、或は倉庫等に通ずる貨物の急速運輸機關の如き施設も、之を都市の責任とし、又、其都市住民全體の義務として完成せしめなければならぬものである。其他、公園の計畫の如き、或は現在に於ける人及び將來の市民の健康を增進する運動場の計畫の如き、其他、多數なる消費者の爲に各種な共同經濟の施設を爲すが如き、或は中央食品市場設置の如き、其他社會政策上の要求に基ける各種の施設計畫の如き、算へ來れば、大都市として恒久的に市民全般の利益を企圖し、其福利を進め、公共の安寧を維持するに必須なる重要の施設計畫なるものは頗る多いのである。

▲我邦には世界の大都市たる施設無し

▲不便と不利と浪費を忍ぶ我都市民

然らば、斯くの如き計畫は今日我邦に於て實現されてゐるかといふに、遺憾ながら實現されてゐないのである。斯る狀態は、殊に戰後に於て世界の都市と其覇を競はなければならぬ處の我大阪に於ては、到底忍び得ざる事であらうと思ふ。現に、吾々の日常の生活に於て、都市の共同の設備に於て不滿足な點が多々あると思ふ。之等は、單り、愉快であるとか、不愉快であるとかいふ問題ではなく、頗る不便で、不利益で、寔に無駄な生活を爲して居り、極めて浪費をなして居る。而して、甚だ複雜であり毎日大層な損を爲してゐるのである。其浪費や損失はは直ちに金錢に見積ることの出來得るものも多々ある。即ち時間の損失の如きは夫れである、又、種々な物の運搬、例へば原料を工場へ運搬し、又、製造工場より之を商品として搬出し、又は種々な貨物を毎日消費する上に於て、或は日々吾々が仕事をなす上に、又は用事を足す上に於て非常なる損失を受けてゐる。之等の損失は金錢にも見積り得る寔に見易い損失であるが、從來は斯る生活に慣されて、其不便なり損失なりを自覺しながらも、餘儀なく之を諦めてゐるようなことであらうと思ふ。殊に衛生上の損失に至りては頗る大なるものがある。其他、各種の病氣に罹ることの損失、疾病に因る處の損失と云ふものを考へてみたならば、頗る大いものである。素と團體を成し都市を形るのは、何人の爲なるかと云はば、开は勿論吾々の爲である。即ち克く吾等の健康を維持し得て、相互に幸福であり、吾々の能率が十分に緊張してゐるといふことは、都市の興隆を圖り人類の福利を增進するに於て、

最も重要な事であり、最も大切な見逸すべからざる問題であると思ふ。然るに、現在の事實が斯る狀態なりとせば、吾等都市民として到底默認し得ないのである。

▲都市計畫實行と否とにより生ずる利害

▲殊に我邦にも其苦き經驗の事實を有す

斯の如く、有形無形に於て頗る利益のあるやうに考慮し施設し行くことは、即ち都市計畫の仕事である。都市計畫を遂行するに於ては、斯る不利益や損失や消費抔を克く省くことが出來得る。殊に、都市計畫を遂行すると然らざるとに於ては、其處に顯著な相違のある事の一例を前述の桑港に採らん歟、蓋し、思ひ半に過ぐるものがある。彼の桑港には、都市計畫として保安上に充分な措置を考慮せざりしが爲に、前述の如き大災害を生じ、幸にして同市の再興を見たりしも、其再興の爲に三億五千萬弗といふ非常な損失を生ぜしのみならず、其再興に方りては、更に對震と防火を兼ねたる保安上の施設を爲し、之が効用を十分ならしむる費用として五千萬弗を費したのである。若も當初相當な研究を爲したならば、同時に五千萬弗も費さずとも非常に廉く出來得たことゝ思ふ。假りに、其燒失の善後策に費した金と倣しても、五千萬弗の金を最初其計畫に投じて置いたならば、恰當、件の三億五千萬弗を消費せずとも可なりし事と思はる、約り、それだけ冗費を掛けた結果となつたのである。斯る事例は單り桑港許りでなく、我大阪に於ても其例がある。即ち先年淀川が氾濫したとき、幸にも其對岸の水災で止まりしが、若も其とき大阪市の側に於て水災があつたならば果して奈何に成り行つだであらうか、蓋し、想像するだに慄然たらざるを得ないのである。斯の淀

川の改修計畫は、吾々の先輩が、吾々の事に膺らざる當時に於て考へた處の計畫であつて、素より計畫夫れ自躰に於ては過誤なかりしことゝ確信するも、今回增補工事を施行するに方りては、最初の計畫と同じものに復舊したのではなくして、堤防の增築を行はんとするのである。元來は、最大洪水面上三尺ならば可いとした計畫であつたものを、今回は五尺といふことに爲した、即ち、餘裕を五尺といふ事に爲したのである。是は、勿論單純に餘裕の問題である、結果が良いとか悪いとかいふ批判は控ゆるも、若し最初に淀川の改修計畫をして一千萬圓の巨費を投ずる際、尚ほ二尺の餘裕を取つて置いたならば、即ち、今日此の增補計畫を行はんとする處を最初に施設したならば、一千萬圓の巨帑を費して後間もなくして水災を蒙つたといふような慘事は免れ得たであらうと思ふ。之等も其當初の計畫に於て、都市の計畫といふような意味の綜合的組織的の計畫を以て事を企てざりし結果と觀られる。若しも、淀川の工事が、最初に、恰も桑港と等しく、今日の增補工事のような計畫が出來てあつたならば、六百萬圓の增補工事費は節約し得たのである。而も、對岸の人命財産等の損失も免れしめ得たのであらう。

斯様な事實を稽へてみると、今日の文明生活、文明の利器の必要に意を用ひて、深く都市の將來を慮り、現在の生活が奈何に不自然であり、奈何に不滿足であるといふ事を觀て、其缺陷を補ひ、將來頗る完全に極めて秩序ある處の都市生活を爲し、經濟の都市に恥ぢざる經濟的の生活、頗る利便なる生活をなし、又、都市全體の能率を上げしむるに必要なる施設計畫は、一日をも緩ふすべからざる事業である。（續く）



吾が傳統の血潮と住宅觀念

子爵 榎本春之助

□□徹頭徹尾日本式論者

私は、元來が、餘り歐米の品物を好まない人間である。約り、極く舊弊な、所謂舶來嫌ひであるので、いまだに、時には隨分不便な思ひをしながらでも、總ての日用品すら、日本物で、出來るだけ間に合せて居るといふやうな譯だ。

それは、別段に事竪しく、國產奬勵のなんのといふやうな、深い意味とか理由とかゝあるのでは無く、只單に、日本人なるが故に矢張り日本の物が好きなのであらふと、自分自身すらが先づ漠然を思つてゐる位の處なのだ。

そんな具合であるからして、住宅なども、徹頭徹尾日本式論者であつて、外國風の建築はどうも、溫か味とか親し味とかゝ薄い點許りでも私は嫌である。外國建築は、云はゝわれわれが持つて生れて來た血潮とは、如何しても調和の取れないやうな點があるやうで、餘り物事に頓着しない人間だが、洋館にだけは住居する氣にはなれない。

廣々とした、風透しの良い日本座敷の趣きは洋館としては容易に味はれないものだらうと思ふ。

□□慾には際限が無いが

日本建を絶對なものとして、さて、その現在の日本建にも、非常に澤山の欠點はあるのだが

これは住む其人、造る其人の、財力や職業趣味性にも依る事で、且つ職業によつて、それに適合するものが必要なのだから、一概には云はれないが、今此處に『いくらでも金はやるから、貴樣の好きな家を造つて見ろ』といふ特志家があつたとしたら、私は如何なる住宅を求むべきであるか、約り、自分の理想の住宅とはどんなものか——慾を云へば限りはないが、最少限としても、それでも仲々注文はある。

═門　構═

門構ねといつて、門を構ねることが、如何にも偉そうに聞ねるが、私は如何しても相當の門を備へることが必要だと思ふ。それは只、見榮ねとか外觀とかから許りでは無しに、大は大、小は小なりに、之れ迄もなく住宅は一箇の城廓だから、その門が——何にも堂々とする必要はないが型許りでも存置して無いといふのは、濠のない城のやうで、城其ものの威嚴からいつても來訪者の感じからいつても、ぼんやりとした物足りない引締らない思ひがして、何となく不謹愼に見ねるやうに思はれる。

門が立つてゐて、『これから內は誰々の家だ』と無言の中に常に來訪者へ明らかな感じを與へて呉れる門の仕事も決して馬鹿には出來ないのではあるまいか。

□生活身分相應の玄關

═門から玄關まで═

門から玄關までの間も、相當な面積があつて——廣ければ廣い程結構だが——何かしら植込みでもして置きたい。常盤木でも草花でも、すべて感じの良い造へにして置いて、家族の出入、來客の出入にも、生々とした氣持の良い印象を與へるやうな工夫が欲しい。

別に、門を入つてから二町も三町もてく〳〵歩るく程の馬鹿廣さは要らないから、柴垣か何にかで、出入に其の家の庭園の一部が見ねる位にして置いても宜しい譯だ、こうすると、特別な事をしなくても一擧兩得といふ事になる譯になるから。

玄關

或る論者が『玄關なんてほんの虚禮的なものだから我々の生活には必要がない』と云つて居ると聞いたが、私は決してそんなものではあるまいと思ふ。式臺張りの威かめしいものや、辯護士とか醫者とか、特種な職業の者は別としても普通人でも、その人相當、身分相應、生活相應の玄關が欲しいと思つてゐる。

その理由は大体に於て、相當な門を構ゐる事を必要とするといふのと同じ意味である。であるから、敢て金屏風を立て廻し、名書の衝立を必要とするのではなく、たゞ相當威容ある清潔な玄關であれば宜しい。

□日光利用に無頓着だ

═骨組のしつかりした家═

最近の都會の住家を見ると、他の材料も然樣ではあるが、就中、建築の柱などは蚊の脛のやうに細々としてゐて、よくこの足に屋根を上げてゐて潰れぬものだと思ふ位である。

私はも少し頑丈な、しつかりとした如何にも人間の住みそうな家が欲しい。現在のやうな建築ばかりでは、一寸した地震などでも他愛もなく打倒れて仕舞ふであらふ。お互に古い寺院のやうなも少しがつしりとした何處か力の有りそうな家に住みたいではないか。

═日光のよく當る家═

主人の居間から應接室、女中部屋の果て迄も、一日一ぱい、日の出から日沒まで日光の當り續けることを理想とする。しかしながら、元來が日本人は、日光といふ大自然の恵與を輕視し、之を利用し善用してその恵與に浴する方法を餘りに無頓着に過して來た。

從つてその建築法も、私共素人の眼から見れば甚だ斯の點に注意を欠いてゐる物も少なくはないやうで、私は、是を完全に取入れることを工夫して下さるのが、專門家の緊急のお勤めの一つであらふと思つて居る。

□私の一人一室主義は

═一人一室の理想═

私は、家族の一人づゝが、全く獨立した一室づゝを占有してゐるやうにしたいと考へて居る。下女から下男から主人から子供達迄、一つの城廓を持つてゐるといふ事は、總ての點から考へて大切な事で、殊に子供などには、自分一個を自分自身が處理して行くといふ、喧しく云へば獨立心の養成といふやうなことにもなり、夜、眠る時でも、各々は全く安眠を得る事が出來る。

═茶の間を談話室に═

一人一室の理想は、これが完全に實行されゝばされる程、從來のやうに、家族共が、寢そべつて話し合つたり、笑ひ合つたりするといふ『懷しみのある時』を得る事が出來なく成るから其處で、從來のお茶の間を、も少し廣くでもして、夕飯でも食つたら一同で集つて來て、ある時刻迄打解けて遊ぶやうにしたらば宜しい。茶の間を談話室に利用する譯で、その時刻後は銘々、自室へ引取るといふやうな事に成るのだ。これは現在の日本の生活狀態では、或は、實行に、多少困難が伴ふかも知れないけれどもそれは要するに訓練がつんでゐないからで、實行して少しすると、立派な効果を得る事が出來ると信じて居る。

□□應接室と小さな廊下

═應接室は少し離して═

應接室は、來客とほんの用談を交へるだけの室だから、そんなに大きな立派なものは必要ではないが、たゞ、來客と主人との對話が、家族に聞ゑる事は兎に角、家族達が、句駄羅ない話をしてゐるのが、來客の耳に入るのは、身に覺ゑのあることで、甚だ面白く無いものだ。で、私は此一室だけは、少し家族の居間などから引離して、全く獨立した一室として、此室の事は此室だけといふやうな風にしたいと思ふ。離れ座敷の樣式を此方に應用するので、都合によつては此室だけは、或は洋風の室にした方が宜しくはあるまいかとも思ふ——効果に就ては

別段考へて見た事もないが、現在の私の家はそんな具合に成つて居る。

——廊下を多くして——

日本の住家は、御承知のやうな不完全な、連絡的な室を並べてありながら、その癖廊下といふものが甚だ少ない、これは、一家が殆んど一身の如く團結し一致して、お互に、隱し立てる秘密のない生活を、昔から繰込して來たのだから、其邊から行けば當然な事だが、昨今では然樣許りも行かぬであらふし、第一、室の秩序は勿論、衛生上からしても、も少し廊下を多くしなくてはいけないのである。室と室を縱橫に廊下で仕切る位の事は、そんなに大した面倒無しに實行し得る筈である。

□□建坪と同じ位の庭園

——便所は明るく廣く——

日本の便所もまた、日本獨特のものであるが私は常つて、ある友人から、西洋式の便所を勸められて、それを、造へて見た事があるが、矢張り、我々の用達の時の姿勢といふやうなものと馴染まない上に、どうも、却つて不潔な氣持がして、遂々、また之れを取壞して、元の通りの日本風にして仕舞つたことがある。

便所といふものは、一日に僅か數分間より居らない場所ではあるけれども、明るく、廣く、清潔にする三つの仕事を怠つてはいけまいと思ふ。特に日本式にあつては、隨分之れに意を注がないと一寸入つても、臭氣鼻を衝くといふやうな事に成つて仕舞ふ。

——庭園は勿論廣くほしいが——

住宅に、眺むべき庭が無いといふ事は、一家内に女氣が無いやうな、寔に無意氣な、いけぞんざいなものでもあるし、そんな事よりは、先づ衛生上から云つても、理想としては、建坪と同じ位の廣さの庭は、是非欲しいものである。常盤木よし草花よしではあるけれども、衛生上から云ふと、餘り日光を遮らない程度の、大きな太い樹の、一本や二本は必要だ。が、これとても、こう住宅が缺乏し、土地が高くなつては仲々實行の出來ない相談だが、先づ理想は理想とし、希望は希望として申上げた次第である。



都市計畫と文化的計畫

大阪高等商業學校長　武田千代三郎

『わたしに都市計畫に就て何か話せと云ふのですか？、それはちと勝手が違ひはしませぬかネ、わたし抔に开麼意見の持ち合せはありまんナ、——わたしが元の如く知事だつたら意見がなければならぬといふのですか？、それはあります、併し、今回發表された都市計畫に對する批評抔は抜きにして、只つた一とつの事をお話しましよう』、斯くて、氏は素朴なそして、頗る溫譲な態度で淳然として下の如く語られたのであつた。—記者

□都市計畫は、云ふまでもなく現在の計畫であると同時に、悠久な將來に對する計畫であらねばならぬ。此處に悠久といふ言葉を使ふのは、わたしの考へてゐる事の意味を充分に言ひ表はさないのであるが、約り、わたしの所謂悠久とは、一世紀や二世紀の先きを云ふ許りではない極端に云はゞ、恐らく其都市の無窮性と並行する事を云ふのである。

□『將來』と云ひ、又は『永遠』と云ひ、乃至は『百年の長計』と云ふが如き意味の考へは、今更わたしが云はなくとも、其計畫の當局者には充分にある事と想ふ。けれども、都市の計畫其ものが『理想』に出發する以上は、縱し、事實は理想通りの實行が出來得べきや否やは凡てに於てが未知數である、今よりして、百年二百年の先きではない、之等の年所を超越したる『永久性』といふ事を、先づ何處迄も計畫の中心に有つて貰はねばならぬ。

□之を例へてみれば、現在我大阪の都市計畫が其地域に於て、畦畔耕牛の聲長閑に、雜草離々たる郡部迄も取り入れた事は、將來の膨脹を見越したのではあらうが、尤一とつ理想的に云ば東は自然の境域たる生駒山系を限り、南北は隣縣の境界迄を包括し、即ち、一口に云はゝ、大阪府の大部分を以て都市計畫地域と做す如きも其一例である。

口謂はゝ、現在の都市計畫は、恐らく我大阪都市の有らん限り、其都市膨脹又は都市形成の基調ともなるのであるから、將來幾百年後の我等市民の子孫が、幾度も毀き毀しては建て替へるといふよりな事は容易に出來得る事ではない。勿論『金』といふ事を度外視したならば、或は出來得る事かも知れぬが、それでは、都市計畫なる事に悠久性といふものを重要視せない結果となる口更に今一とつの例を擧げむに、彼の師團移轉の問題の如き、移轉後に於ては、斯る大地積を何にするかといふ事が重要な問題である。最も之を住宅地と成し或は工業地と成して、總に一部を公園抔に充つるとせむか、是も或は可ならむかなれど、わたしは、我大阪が如今の發展を遂げ又無窮の膨脹を爲さんとするのを、歷史的に後代の市民に印象を與ふべくアノ城廓を其儘存じて、例へば豊公を紀念すべき其他の施設を爲し、其地積は擧げて一大公園たらしめたい。口此處に住居地や工場地を得なくても、之等膨脹地域は、城東生駒山麓まで殆むど無窮である而も、實利的にのみ斯る好地跡を毀き毀して仕舞はん歟、千古の名蹟を喪ふ許でなく、何處の邊か斯る好箇な大公園地があらうか、一且び之を喪はば、我大阪市は比較的多くの時間と費用を要する交通機關に藉りて公園地に行き得るの不便を幾代までも忍ばねばならぬ結果となりはしまいか。

口元來、都市計畫といふ事は、單に都市の有形的施設の完備許りの意味ではあるまいと想ふ。一面に於ては都市の文化的施設に就て所謂百年の長計を樹つるのも、亦都市計畫の一とつではあるまいか。即ち、之を例へば、都市の建築物や其他有形的施設は恰も人間の骨骼で、其文化的施設は人間の精神である。都市を全體として一個の人格者と觀れば、斯の二つの施設は両々

相俟つて、茲に都市體の完備を得るのであると想ふ。

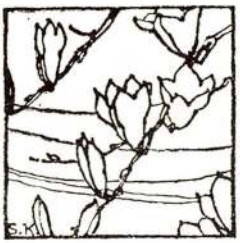
□されば、わたくしの考へとしては先づ斯の文化方面に直接すべき學校や神社や公園や斯ういふようなものは、最先に充分其位地の最善と境域の廣きと善美を期し、而して後工業地區や商業地區或は住居地を按排するようにして欲しい事實は之と正反對で、商工住居等の地域を充分に且つ最善に取り入りて、纔に剩餘地を之等文化方面のものに振り當てるような事は、蓋し餘りに功利的で、都市の健全を度外した遣り方ではあるまいか。

□神社の如きも、外界と離れて、所謂神秘な場所たるような施設なるを要し、學校の如きも、熟踏又は騒音な外境と何等距りのない位地や設備では、學校としての目的は充分に達せられない。公園の如きに到りても、都市の煩塵を避け心行く許り自然に接して心神を養ふといふ事は今の如き公園中より市街の雜踏を透見し得るような設備では望み得られない事である。

□奈何に『富』といふものが現代文明の著しき目標と云へ、只市民をして實利一方にのみ燥奔せしめ、我等都市の膨脹を遂げた處で、夫れは決して健全な都市ではない、既に紐育の如きが之を證してゐる。全市の如きは假令世界の大都市として誇るに至つても、今は却つて餘りに物質的な爲呪ひの都市となつてゐるではないか、全市から精神的に優美な何ものをも看出す事は出來得ない狀態である。

□文化的施設としては勿論是許りではないけれども、凡そ都市精神の健全な發達を助長する處の斯る設備は、何ものよりも先きに充分な計畫を施し、而して、之を中心とし、之を包容した處の形體的都市計畫といふ事が第二次に施さるべきものではあるまいか。斯の意義に於て、わたくしは、現在計畫されある我大阪都市の改造でも此處に充分な考慮を旋して貰ひ度いのである

□素より、都市計畫の如きは長久な計畫を要するのであるから、遽に何事も注文通りには行くまいけれども、斯る形體的な改善計畫あると同時に、都市精神の向上誘掖方法をも其計畫の反面として眞面目に攻究施設を要する事である。故に、都市計畫は亦他面に文化的計畫ではあるまいかと想ふ。（文責在記者）



大都市の建築物

(A)

工學博士　佐野利器

大都市と因果關係

□風吹きと簟笥屋の古諺
□今朝私の口に入た味噌

古諺に曰く『風吹かば簟笥屋が儲かる』と斯の意味は、風吹かば塵埃が飛ぶ、塵埃が飛ば、眼病者が多くなりて盲人が殖へる、盲人殖ゆれば三味線が賣れる、隨つて猫の皮の需用が殖へて猫が殺される、鼠は跋跑す、斯くて簟笥を嚙られる、仍て簟笥が賣れて簟笥屋は儲かるといふ因果關係だとの事である。引例甚だ奇矯なりと雖も、之を都市の生活なることに當て符めて考ふれば、頗る其因果關係の似たるものがある。而も、斯る極て短時間な風と簟笥屋の關係許りでなく、凡ての事項が復雜に斯の因果關係を重ねてゐるように考られ、聽て、是が村落と都市との間に著しき差異を有する所以である。由來都市なるものは、唯村落を聚めたのみであらば、一部分と一部分との間に大なる聯絡は無い筈である。然るに、都會は時間的にいふても南も北も西も東も、悉く關係のある生活を有してゐるのである。南の端の人が電車に乘つて眞ん中へ出て來て嚔をした爲に、其晩北の端の人が熱發したといふ風に聯絡爲てゐるのであると想像される。即ち、大都市は、唯人の集合でなく、其處に大都市生活といふ一とつのものを造つてゐるのであらうと考へられる。仍で、市區

改正事業等に於て、例へば、東の端に道路を造るときに、西の人は何等關する處無しいふ感が得て有り勝である。若も斯る感があつたならば其者は即ち大都市の殖民にあらずして、隣村の住民でもあるかの如き思想であると謂はなければならぬ。例へば、村落に於ては、臺所で用ゆる味噌は昨年から 置の中に這入つてゐるが、今朝私が食べた味噌は、恐らく昨日は私の見も知らない何處かの町の倉庫に在つたのであらうと想像する。昨日の中に荷車に積まれ、人に押され、種々な道路と様々な交通機關の間を縫ひ乍ら、問屋から小賣屋に運ばれ、諸種な人の手を經、種々な帳簿を潜つて、今朝私の口に這入つたのであらうと考へられるが、斯の點は、即ち『風と簞笥屋』との關係の復雑なる組合せをなしてゐる處の一例にならうと思ふ。

都市の有機的生活

□都市計畫は絕對な有機的研究
□生活機能の增進は其主要問題

斯くの如く、都市の住民は、萬人が一箇の生活をなしゐるのである。即ち、萬人が聯絡ある處の生活をなしゐるのであると考へられる。換言すれば、都市の生活は、機關生活であると云ひ得る、即ち、之を所謂有機的生活といふのである。有機物は放任して置いたならば腐敗することは誰も識つてゐる事である。都市も其の生活に何とか都市らしき組織を立てなければ、都市生活は腐敗しないであらうか、都市が腐るといふ言葉は、有機的生活である處の都市生活を表現した場合に起る處の事情を、最も強く適切に現はした言葉であると考へる。而して所謂都市研究は、即ち斯の機關の研究である。其中で殊に絕對的であるものを、所謂都市計畫であると稱せられてゐるのであらうと想ふ。是は如何にして都市生活に組織を立てるか、是れは、都市生活自体が複雜で、種々な事項を包含してあるだけに、隨分多くの事項があらうと想ふ、即ち、組織立てる事項も非常に多いことゝ考へられる。其中で、建築物に關して述べむに、是

に就いても多數事項を有するが、先づ第一に

生活の能率を增進　するように組織立てるこ

とか必要である。生活といふのは、唯暮らすといふ意味ではなく、働くといふ事も含まれゐて之等は、斯の能率を增進するといふ語で大抵の事が云ひ現はされてゐるだらうと想ふ。即ち、住居には住居の能率を增進する、商工業に於ては商工業の能率を增進するのである。然らば、能率を增進するには奈何に爲たらば可いか、といふに、凡てのものゝ能率を增進するには一つの大法則があらうと想ふ、即ち、成るべく多數な事項を統一して、共同的に大規摸に爲て行く、といふ事が凡ての能率を增進する處の大原則であらう。建築の問題も矢張り同樣にして、出來得る限り同樣な事項は之を統一して、大規摸に共同的にするといふことが、一つの大切な事項であらうと考へる。斯の原則を外にしては、所謂能率增進は望まれないのである。共同的といふことは、得て氣が附かないようであるが、道路に就て考へてみても、是は歩くときの共同物であらう。又、上水は、一方から云はゞ用水の共同であり、下水は、下水の共同であり電車は走る一時の共同であらう。其他、凡ゆる産業は、元家内工業であつたのであるが、今日では悉く大きな資本の大企業組織と成つて能率を非常に增進してゐる。建築の事も、敢て別な法則に依りて支配されるのではないと考へるのである。

大規模にして共同的な事業

□横面に膨脹する住居と道路の關係

□是も聽て生活能率を增進する要點

尤も、**田舍の村落に電車の**必要がない如く、ものには限度がある、現在日本の事を稽へてみたならば、大規摸にして共同的にやつて行くべき事が澤山あらうと想ふ。即ち斯の事を主眼とし、商業地域内にあるべき建物に就て述べむに、大都市の相當な大道路に間口が二間又は三間位にして、高さ二階位の店がまだ澤山軒を連ねてゐる、斯る小さな建物が銘々に澤山拵へ

られてゐるといふことは、隨分損な話である。何故ならば、第一に、

▲道路の利用　に就て損がある。即ち、二倍にも三倍にも建て得られる處の土地を利用せざることの損がある。第二には、

▲其建面の聯絡　に就て損がある、即ち、家が低くければ、同樣の生活をなすに就て自然横擴がりに面積を取つて行かなければならぬ。單り其場所許りでなく、市全体が横擴がりの生活を爲さなければならぬ。實に、斯の擴がりを聯絡すべき凡ての事柄に就て損がある。例へば、道路、交通機關、電燈、瓦斯といふような凡てのものゝ延長の損がある。又、吾々相互の往來に時間を失れ丈け費す損があり、或は營業上の交渉の上にも非常に損があると想ふ。第三には、

▲商店の利用　に就て損がある。即ち、小さな店が澤山あるといふことは、之を利用する上に於て市民の損がある。東京市の如きは、小賣商店の類が非常に多い、例へば、菓子屋の如き、人口三百人未滿に付一軒の割である。肴屋や八百屋抔に至りては、御得意の數が幾等か多いのであるが、それでも、五百人或は六百人、千人以上を相手に爲てゐる小賣屋の數といふものは寧ろ少いのである。三百人乃至千人の市民を相手にしての小賣商あるとき、市民が其營業費や生活費を負擔しなければならぬことになつてゐて、隨分莫大な損失であることは想像に剩りある。斯樣な事を稽へてみると、大街路に小さな建物のあるといふことは、市民都市生活の全体から云つて餘程能率の小い結果になるのであるされば、須らく敷地を合同し、資本も合同して大きな建物を作り、共同し得るものは共同して事業を爲し、若し建物が大きければ其の間を貸切りて使ふといふように進むべきであらうと考へる。斯く云はゞ、何んだか小賣商店を嫌つて、爰に貧富の懸隔でも勸めるような結果に達しはしないかの惑ひを懷くかも知らぬが、それは、市民全体の能率を增進することとは別問題である。大きな建物を造るといふ事になると、場合に依りては建物の所有者と使用者とが別にな

る結果を來すなれども、寧ろ斯の傾向に進むべき筈であり、却つて然るべきものではあるまいかと想ふ。それは私の承知してゐる人に斯ういふ例がある。大阪の某貿易商店であるが、大正六年頃に事務所の建築に就て計畫し、其敷地を買收して種々研究し、而して計畫を進め、既に工事に掛らむとした際、其商店の事業は既に舊來の倍に膨脹して、竟に其計畫を遂行し得なかつた事があつた。斯くの如く、事業は漸次に膨脹するのである。故に家を造らうと思ふときには、成るべく大きなものを造つて、若し不必要な部分があれば、差當り必要な分だけ使用し、他は貸切るといふやうに爲て、將來自己の事業が膨脹したとき、それを取り返して使用する、斯ういふ順序に進むのが、家を建てる人の爲に最も都合が良からうと考へる。餘り大きな家を段に造つたならば、自然に家の供給過剰を生じはしまいかと疑ふ者があるかも知れぬが、東京や大阪の如き大都市に於て、一方には絶へず膨脹に應ずべく計畫に遂はれてゐるのに、家の過剰を考へる人は、約り、大阪は發展しないのであらうかと考へるのと同樣である。

大家屋と道路の關係

□昔の道路築造の條件と分の要件
□苦き經驗は既に銀座街頭に在り

併し乍ら、大きな家を造るに方りては、豫め攻究すべき一とつの事項がある、开は、大きな家と大きな道路との關係である。小さな道路に大きな家は建てられない、家は道相當な大きさしか建てられないのである。大きな家を造つて、其敷地の數倍に利用しようとするならば其中の何割かは通路に捧ぐるの覺悟を要する、然らずむば大きな家は建てられないのである。蓋し、大きな家を建てゝも、交通不能になる結果、無用に期する虞があるからである。奈何なる場合でも、昔の道路は、荷車の行き交へに十分であつた、即ち荷車が行き交へるといふ事が道幅を決める必要な條件であつた。人間は其間を縫ふて歩けば可いとしたもので、人間は其の

勘定に這入らなかつたのである。然るに、今日の街路に於て最も稽ふべき事は被の自動車である。今の道路は、自動車が行交ふことが出來得なければ道路の役を爲さい、と云へるのが必要である。次には、歩道のない道路は道路としての役を爲さない、と考へるのが至當である。歩道がなければ到底危險で歩けない。自動車は人を殺すものである、轢かれたら死ぬ、斯ういふ機能をなしてゐるものが自らの傍を駛つてゐるされば、到底、歩道がなければ道路を爲さぬと考へるのが妥當であらうと想ふ。更に大街路であるならば、其他に荷車も通ふ、電車も駛る、之等が自由に交通することが出來なければ大街路を成さぬと云はなければならぬ。終りに、元來土地を大に利用しようとするならば、先づ自動車が停滯し得るだけの幅員を有つてゐなければならぬ。其門口に自動車が停滯して差支のないだけは幅員がなければ、土地を大に利用する事が出來得ない。其一例として、私は自分の最もよく知つてゐる場所の事を引用したい、それは東京の銀座通りである。銀座通りは、元來は二十間に計畫されたそうであるが、都市計畫のときに何時も出て來る反對、即ち、多過ぎるといふ反對が勝を制した結果、十五間に狹められたとのことである。然るに、今日はあの通りに自動車を停めることが出來得ない。自動車を停めて置かば、幅員が狹くなつたと同樣であるから、危險で停めて置かれない、爲に警察で禁じてゐる。從つて、自動車を停めることが出來得ないようでは建物が發達し難いのである。若し是が最初の計畫通り二十間であつたならば、什麼建物にでも利用することが出來得たであらうと考へられる。被樣に稽へると、大切な位置に在る處の道路が狹いといふことは、土地を有つてゐる人に非常に氣の毒な結果を來すのである。要するに、前述の如く、能率增進の趣旨から土地を利用しようとするならば、其幾割を割つて大道路と爲すといふことに吝であつてはならぬ。



辯護士として欲しい家

辯護士
法學士　高島春雄

一

近頃のやうな、斯様に、土一升金一升といふやうな世の中に生れて來ては、我々、忌でも都會生活をせねばならぬ者にとつては、住宅問題などは、諸種の問題中に於ても、先づ第一番に困難な、行ひ難い仕事の一つであると思ふ。

勿論、住宅に關する希望もあり、理想もあり抱負もあるんだが、其の實現は、さて却々面倒で、あゝもしたい、こうもしたい、と思ふ事許り多くても、大抵其の半分は、希望なり理想なり抱負なりで終つて、その儘、世の中に生れ出ずに死んで仕舞ふ始末だ。

金があつて、權力があつて、其上に、住宅などの事を心掛ける人であれば、それは話以外で寔に、住心地の良い便利な家が出來るであらうが、我々は我々で、まづ分相應な事を考へて見ねばなるまい。

二

平屋結構、二階建結構、要は、その住宅が、清潔で、便利で、落付きがあつて、住んで心地がよろしければ良いのである。たゞ理想としては廣々とした平屋建が、二階建に較べて、ゆつたりとして便利ではあるが、それは、都會から離れた郊外地とか、地方とかでなくては、思ふ通りにはならぬのだから、私は、自分の商賣を標準にして、二階建が宜しからうと想ふ。

人家稠密の中で平屋建が、充分な日光を受け理想通りに仕様といふのでは、建物の周圍に餘程の空地を造らなければならぬが、二階建にすればそれ程でもなく、日光に對する目的が、先づ達される譯である。專門家に云はしむれば、平屋建でも、或は容易に此目的が達されるかも知れないが、それは要するに、何處でか、如何なる樣式かに於て、多少の無理は免れまい。

三

二階建として、其處への梯子段は、正面の玄關から直ちに付けるのだ、扉を開けて入ると、その玄關は一坪か二坪かの、相當な樣式を備へて、全く獨立して、二階へ行くより外、他の室とは何の連絡もないボックスとでも云ふ風にして置いて、來客はすぐに二階へ通れるやうにする。しかし、この所謂ボックスは、稍ともすれば、下品に成り易いものだから、其處の樣式といふものには、充分なる注意をせねばならない

二階は總て洋式で、此處に於て所有すべき室は、應接室、事務室、研究室と、外に三坪以上の露臺が欲しい。この露臺は、出來るだけ廣く造つて、草花の鉢でも、青木類でも澤山並べて藤椅子位は用意して置きたい。自分を始め事務員達が、氣休めの休息をしたり、稀には喫煙室にもなり、電話室にもなり、晴天の時には、大いに利用したいのである。

勿論南に面した方に造り、電車通りの近い處などで、塵埃の飛んで來る邊は、ちと贅澤だが硝子張りにでもしたいものだ。

四

應接室は狹くともよろしいから二つ以上を必要とする。これは商賣の關係上、扉とか、壁とかを充分に堅固にして、互の談話が他の室へ洩れ聞へないやうにせねばならぬ。私などは殊に大きな聲なので、一々依賴者とお話をすることなどが、他人に聞かれて、良い事もあれば惡るい事もあるが、多くは秘密なことなのだから、私は現在でも、この應接室には、充分に氣を注

けて居る。狭いといつた處で、どうしても六疊位は必要だが、この室は、明るく氣持よく、そして何から安心の出來る、氣の置けないといふやうな感じのする室にしなくてはならない。私の友人の或る男は、建築費の三分の一を、理想的な二つの應接室に掛けたといつてゐたが、事實、有り得べき事だと思つて居る。

五

事務室は、第一の條件が明るいといふことだ廣さなどは、自分の仕事の狀態に依て、自から違つて來る事ではあるが、出來るだけ廣くして各人の卓と卓との間に多少の餘裕があるやうにして置き度い、餘りにぎし〳〵にして置いてはお互に仕事が仕難い許りでなく、衛生上にも餘り感心出來ない事ではあるまいか。

それから、是は住宅直接の問題では無いけれども、事務員達の椅子のことだ。役所などでは高等官連中は何れもふつくりとした素破らしい椅子に腰を掛けてゐるが、判任官や雇員等のものと來たら、よくあれで長い時間辛房が出來るものだと思はれる位に粗末なのを使用して居るのを見る。役所許りでなく我々の仲間にも、事務員へ平氣で藤張り椅子位を與へてゐる者がある。

しかし、私は、これは、理想許りでなく、實際に行つてゐる事であるが、事務室の諸氏に對しては、完全な氣持の良いものを使つて貰つてゐる。自分が良い椅子を望むやうに彼人達も同樣で——單に斯うした溫情的の思ひやりでは無く、詰らぬやうだが、一つの椅子が仕事の結果に及ぼして來る影響は、眼にこそ見ないが、大變なものであらふと思ふのだ。

がさ〳〵な、小さな椅子で仕事をしてゐると大きな軟らかい椅子でしてゐるのと、誰が考へても、大變な相違だ。私は事務室に於て、自分が使用するより以上の品を彼人達に與へるのは要するに彼人達が、落付いて、責任を感じて、自働的に、熱心に働いて呉れる大きな原動力の一つであらふと思ふ。從つて卓の如きも當然、

然りだ。

書き遅れたが此室の戸障子は、光線の直射を避ける爲めに總て磨硝子にする方が宜しいと思ふ。

六

研究室は旁ら主人の書齋を兼ねる事にしたい即ち、主人の思索室で、書籍も參考書類も此室にあつて、主人が落付いて一日一ぱいでも此室にあつて、事件を研究し、法律上の思索をするに良いやうにして置く。矢張り日光の直射することは必要だが、この光線を上手に殺して受入れる方法を取らないと不可ない。で、窓は常に薄いカーテンでも垂れて居るやうにして、其上をまた、厚いカーテンを使用する事の出來るやうにして置き、壁なども、相當色彩を選んで、陽氣でなく、然りとて陰鬱でなく、おつとりとしたやうにせねばならぬ。

窓なりカーテンなりを總て取除けると、眼ぶしい位に明るいが、日頃は、どちらかと云へば薄暗い方で、約り、陰氣に近い方で、主人が不在の時にだけは扉も窓も明け放して光線を入れ風を入れるが、主人が研究にかゝる時は、靜まり返り淀み返るといふやうなのが私は好きである。

或る大家は此研究室は、非常に明るくしてあるが、扉一枚の隣りに、三疊位のそれは薄暗い室を造り、寢臺を置いて、何か深い考事はこの室に入り、寢てゆつくり考へるといふ樣にしてゐる。

私は、これ程の必要はないが、研究室の片隅に寢椅子の良いの位は欲しいと思ふ。

七

普通の事務員許りではなく、主人の外に辯護士が居るやうな場合には、會議室といつたやうな處も必要だし、研究室も主人の他の共同室も入用だが、私としては、先づそんな必要がないのである。

此外に、此二階に、小さな食事場や、水道も

瓦斯も、化粧室といふやうなものゝ小さなのもそれから少くとも小便所位も欲しいが、食事場や化粧室などは、有れば有る程結構だが、無ければ無いで、どうやら濟まされぬ譯でもない。たゞ、水道と煩事、瓦斯と、小便所位は如何にしても入用であらふ。

一体が、二階と階下とは全然別な世界であつて、從つて、階下へ一寸行きたいにも、先づ玄關から一度外へ出て、改めて階下の入口から入つて行くといふ具合に成るのであるから、お湯が欲しい、水が欲しい、便所だといつて、一々出掛けては餘りに面倒だからして、乙の二階にそれ位のものは備へて置く方が、便利でもあり氣持も落付いて良いのである。

八

階下に就ては、即ち主人の眞の住宅で、職業に依る特種なものでは無い。約り人として求むべき、平屋建の理想の住宅などだから、それは申せば數限りも無く注文がある。門から住宅入口迄の間に多少の空地を存せしめて、其處に青い木の葉でも見たいのも勿論だ。

しかし、此方には、全く初對面といふやうな客を迎へる準備だけは要らない。餘程親しい人達が出入する位のものだから、客間とか應接とかの必要なく、そんなものは、主人の居間で間に合せて濟むのだから、ほんの家族許りの水入らずの住居なのである。

それに、主人の研究は事務所に於て行はれるのだから、書齋の必要もなく、萬事全く奥様の天下へ主人がお客に來た位の家庭本位の程度でよろしいと思ふ。

居間の具合とか、座敷と座敷との連絡の樣子とか、日光の取り具合とか、便所や勝手に對する自分の考とかは、何れ機會を得て再述する事として、今はたゞ、南に向つて造るべき、居間の廊下から見わる庭は、必ずバルコニーに出れば、この庭が見わ、家族の者も居ながらにして眺めて居り得るといふ事だけは、是非とも忘れてはならぬ必要なことであるのだ。（談、文責在記者）



居構百選

（其二）

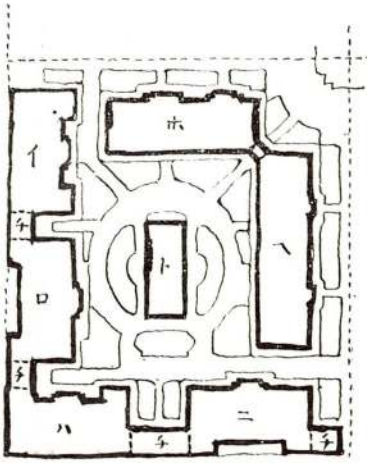
會員　葛野壯一郎

八　勞働者向共同住居

伊國　ミラン

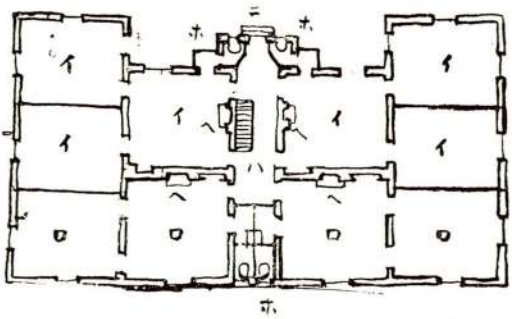
第八圖は伊國ミラン、ヴイア、ソラリに於けるウマニタリア協會の經營にかゝる勞働者向共同住居の配置で有ります。以下少しくアルフレド、メラニ氏の記述によつて、同國に於ける此種級住宅經營の現況を記してみませう。伊國の大少工業都市に於て、下級勞働者向住宅改良事業に對し考慮しはじめたのは、勿論英佛には後れて居るが併し可なり以前、即ち今世紀の初めルズアチ規定の發布を以て起源として居りますそれ以來チーブルスにしてもヴエニスにしてもフローレンスにしてもローマにしても、皆それ〳〵此下級住宅改良事業に大少努力して來ては居るが、とりわけ伊國第一の工業都市としてミラン市の此方面に對する研究は、一層著しきものが有つたので有ります。第八圖の共同住宅

第八圖



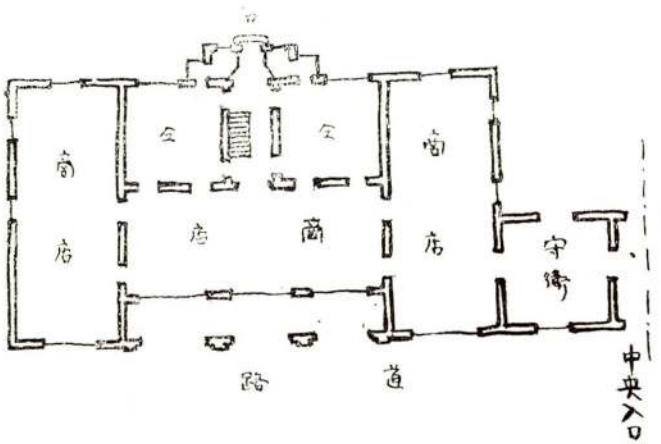
經營の衝に當つて居るウマニタリア協會の如きも此地に設立せられ、下級住宅及び是れに附隨する勞働者の生活改善事業に力をつくし、現在異常の好成績を擧げて居るといふ事で有ります。ミラン市に於ける此種の事業で特筆す可き最初のものはカロッタ、セレシア夫人の經營で有りますが、是れは不幸にして餘り成功しなかつた其後を承けて起つたのが此ウマニタリア協會で有ります。此協會の設立せられたのは一千八百九十二年で、ジー、エム、ラウリア氏が不幸なる下級民救濟の目的を以て其全資産一千萬リラを提供したのにはじまつたので有ります。其後利殖の結果資金は一千三百萬リラに增し　其最初の目的とする下級民の救濟即ち彼等に適當な職業を與へるといふ事から關聯して、其住宅改善事業にも歩を進め譯で有ります。單に住宅事業のみに就てならば、其後同市に起つたエンテ、オウトノモの如き一千八百萬リラの資金を擁し、一層活躍して居るものも無いではないが、其着手の早き事と其經營の巧妙なる點に於て、ウマニタリアを度外しては到伊國に於ける此種事業を語る事が出來ないだけの成功を收めて居るので有ります。ウマニタリア協會の最初の經營は、即ち本圖に示すヴイア、ソラリに於ける共同住宅で、其設立は現今より約十年以前で有ります。最初の投資額は二百萬リラで、七百の家族に對し完全な住居を提供すると共に、是れに必要な小兒保育所、幼稚園、浴室食堂等の設備を追加したので有ります。設計者はギオヴアニ、ブログリオ氏でルイギ、マゾッチ及びルイギ、アリエンテイ氏が諸設備及び其實施に就て助力したので

第九圖



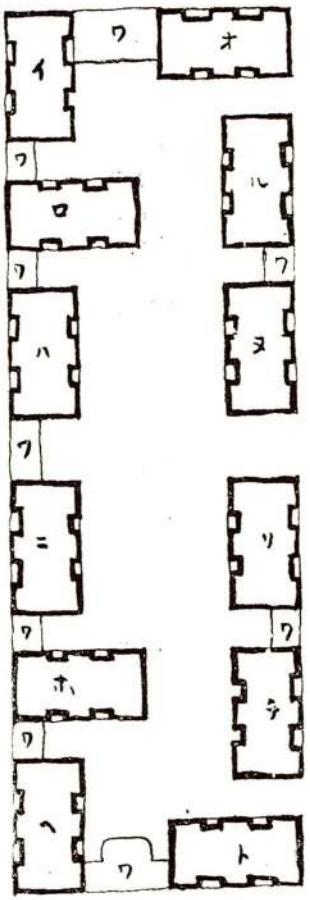
有ります。敷地は約間口七十間に奥行七十五間即ち五千坪餘の廣さを四分し、是れに大少六棟の共同住居を配置し、中央には廣々とした中庭を設け其處に集會室が置かれて居ります。第八圖は敷地の四分の一配置を示すもので、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)の六棟及び(ト)の集會室を示し、表側各棟をチなる二階建を以て連結して居ります。各棟は四階建とし、一室一戸、二室一戸、三室一戸の三種に分け、一室の大さ平均約十一疊敷で有ります。第九圖は其代表的間取を示すもので、中央中庭の側に出入口及び階段室を設け、(イ)(イ)の三室一組、(ロ)(ロ)の二室一組各二組づゝ四組四階を通じて一棟に十六戸を包擁する計畫で有ります。圖中(ニ)は出入口(ホ)は便所(ヘ)は炉で、間取は至極簡單明瞭、此種のものとしては最上のものと考へられるので有ります。屋根は一部分是を陸屋根として一般物干場に當て、其他は地下室と共にやはり貸せる樣に出來て居る。暖房瓦斯、給水、電燈、排水、塵芥捨等一切の設備を完備し、一戸毎に(ホ)の便所(への炉設け使用上何等不便を感じない樣になつてをります。庭には澤山の芝生と樹木を植ゑ、外觀は頗る簡單で

第十圖



はあるが近代的清楚の樣式に據りて非常な好感を與へるのみならず、敷地の一隅には洗濯場、婦人の仕事場、炊事場、幼兒保育場、浴室等の外に獨身者及び夫婦共稼ぎ者の便利のため簡易食堂をも設けて居ります。また第十圖に示すが如く或棟の階下を特に賣店として居る。圖は第

第十一圖



八圖ニに屬する階下の平面で、二階以上は他と同じく住居に當つるので有ります。單に物質的方面のみでなく、圖書室、講演室、幼稚園、小學校まで附屬して居るので有ります。それで他の借家よりは遙かに家賃が安價に、然も恊會としても必要の百分の三半位な利率を擧げて居るといふから、其經營の妙極を巧めたもので有る事は明らかであります。我が大阪市の如きも塲末即ち天滿とか今宮とか云つた細民窟の改善には、從來の樣な長屋式ではなく今少し進んだ形式を以て徹底的に改造して欲しいもので有ります。アーキテクテユーラル、レコード一九一九年八月號)

九　勞働者向共同住居

伊國　ミラン

第十一圖は前に擧げたものと同じく、伊國ミラン、ロットトールに於ける勞働者向共同住居の配置で經營者は是亦同じウマニタリア協會、設計者も同樣ギオヴアニ、ブログリオ氏、モリヂオ、ヤングとギオヴアニ、ヴエシアニ氏が補助となつて居ります。ヴイア、ソラリに於ける同恊會第一回の計畫が意外に成功を收めたに續いて、第

二回として此ロットールを選び經營に着手した譯で、此計畫は圖の如く(イ)より(オ)に至る十二棟から成立ち、其内の八棟が三階建其他は四階建とし、各棟を連續するに(ワ)なる平家建を以てし屋根を陸屋根として居ります。各階の間取は前の例と殆んど同じで、中央に廣間階段室を置き各左右に二室一組及三室一組の各二組づゝ即ち一階四家族共同住居の形式で有ります。是等の共同住居に於ける居住者の色別を擧げてみると

鐵工及電工……四十三
印刷工……三十六
書記及配達人……三十二
石工、セメント工、塗工……十七
木工、仕立工、靴工……十九
使用人(工場)……十八
掃除夫、門衛……十七
教師、産婆、雜……十二

合計二百四家族で前に擧げたものと合すと、ウマニタリア協會經營の共同住居に四百三十家族人口約二千人を包擁して居るので有ります。

家賃としては一般に一室年額邦貨五十圓位の見當で、其最高のものでも三室一組と別に距れた臺所及テレースを附屬して年額百七八十圓といふ事で有ります。管理の方法としては自治制度で、各家族を代表する五人の委員を選擧し、其れが萬事の切盛りをして行くといふ事で有ります。(前同)

英國の勞働住宅者

英國に於ては、已に二千有餘の建築會社を設立し(細民住宅の建築を目的とす)社員は八十四萬餘人に達し通例年四分の純益あり。今英國に於ては其公債證書の利子は二分五厘なるを以て、年四分の利益は決して薄利と云ふべからず。又右建築會社にては年賦を以て家屋を現住者に賣渡すの方法あり、斯くの如くするときは、一方に於ては勞働者中少しく餘裕ある者は數年の後に一家屋の所有者となるの望あるが故に努めて儉約を爲し、又大に家屋の保存に注意し、一方には會社は速に資本を回收することを得て益々其の事業を擴張するの便あり。



我邦に於ける建築木材の趨勢

林學博士　村田重治

本編は、記者が親しく同博士に接して、其高見を筆記したるものに係り、記者に提供されたる多少の材料と相俟ち斯の一文を成したるものにして、其文章上の責任は勿論記者に在り
—郊郵—

●●【建築木材統一の要あり】●●

今や、我都市の建築物は、頻々として洋式化し來り、之を主要都市たる所謂六大都市殊に東京及大阪の如きは、現時の趨勢を以てせば、全然西洋式建築物を以て滿たさるゝこと、蓋し敢て遼遠ならざるべきを信ず。されども、這は、勿論主要都市に於ける概觀にして、一旦び其他の建築界に眼を轉ぜむ歟、我邦の建築物は今尚日本式建築の勢力牢乎として拔くべからざるものあると共に、其數の上に於ても尚依然として優位を有することを首肯し得べし。

而して、其用材の如きに至りては、種類品位寸法等區々にして、吾人は之より生ずる當業者即ち單り林業者、木材商のみならず建築家等の不利不便は想像に剩りあるを信ずるなり、之を例せば、其寸法の如き東京、大阪、名古屋の三大都市に於てすら相異り、其他板の厚さの如きも例へば六分板と稱するも、實際に於ては五分又は五分五厘なるが如き、地方に依りて多少の相異を免かれず、されば、建築業者に於ても其實際を調査したる後にあらざれば注文を發し能はざる不便あり、木材商も亦直ちに其相當する注文に應じ能はずして其販路に制限を受くるの

不利あり。茲に於て乎、吾人は、斯くの如き區々たる市場品に對して之を統一するの要あるを思はずむばあらず。吾人は、曾て、其統一を試むべく、全國の林業家及び木材業者を以て組織せる日本木材聯合大會に毎年斯案を提出せしも、終に开が實行を見るに至らざりき。這は、要するに、木材商の取引關係上容易に實現し能はざる事情存するを以てなり。されば、吾人は其統一の實行を木材の供給者に望んで、所謂百年河清を待つの愚を學ばんよりは、之を其需用者側たる建築家の實行に俟つ事は寧ろ容易に其効果を擧げ得べきを信ずるなり。斯の點に於て建築當業家の省慮を望まざるを得ざる也。

●●【大工級建築者の教育】●●

斯くの如き統一難を感ずる更に一の原因は、前述の如く、今尙日本の建築界に比較的優位なる勢力を有しある日本式建築は、主として、所謂大工級の建築者によりて設計さるゝの實狀なるが故に、彼等の設計は、得て傳統的或は因襲的なる守舊思想に支配され、其處に新思想による設計を得難きを以て、其供用する木材の如きは區々たるを免れざる事も、蓋し、其統一を爲し難き一原因なるを惟はざるべからず。されば、建築界に於ても、斯る大工級の人達を網羅せる團體的開發機關を設けて、夫れ等の人々に一種の敎育を爲し、或は學者等の理論家と屢々相接觸して其意思の疏通を圖り、以て其腦頭の改善を爲すこと、維れ木材統一に就て主要方法の一なりとせん。其他、山林局又は御料局等より賣渡す木材は、努めて其寸法を一定するが如きも民間の木材統一を助長する一方法たるを信ず。

●●【木材價格の暴騰】●●

近時、我木材の價格は暴騰を告げて、今尙殆んど停止する處を知らざるものゝ如し。惟ふに這は、主として世界的原因就中歐羅巴に於ける原因が我邦に波及せる結果なるを信ず。蓋し、之を木材貿易上より觀察するも、從來輸入國たりし中歐諸國は、露、墺匈、那威、瑞典等より

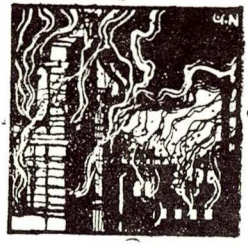
輸入されありしも、露國の西部及墺國の森林は酷く兵燹に罹り、或は過伐されたるのみならず國内は尚混亂の狀態にあるを以て、當分は勿論將來も恐らく從來の如く木材を輸出し得るの餘祐なかるべし。又、那威、瑞典の如きも、從來は英獨其他に多量の木材を輸出せしが、這も亦等しく濫伐せる結果は、從來の如く多量なる木材を輸出し得るの餘力なかるべし。果して然らば、從來木材の國際的需用は、之を亞米利加及加奈陀、其外極東に俟つの外なかるべし。

されど、亞米利加の狀態に就ては、國富論の著者ハーゼ氏は說いて曰く、『同國森林の年伐量二十三億石に上り、此年伐量は著しく過伐にして生長量の三倍に上る』と。又客年春季に、紐育駐在の我總領事は報告して曰く、『追年國内消費及輸出增加の爲め過伐となり、採伐量は生長量の二倍に達し、蓄積は千九百十年に比し約二割五步を減ぜり』と。之等の所見に據りて將來を忖度せん歟、亞米利加も亦等しく最早木材輸出の餘祐なきに至り、現に其輸出を禁ぜむとの議あるもの〻如し。其他、英領コロンビヤ、オレゴン州及ワシントン州等は、所謂米松の本場にして豐富なる森林を有せるが、這も亦近年無節制なる過伐に陷れるもの〻如し。縱んば尚ほ可成りの生產力を有するとせんも、英國が參戰以來傳統的な自由貿易政策を放棄して、今や事每に保護政策を採らんとするに徵さば、本國及濠洲等自國領域外に木材の給供を禁止するに至るべきや、蓋し想察するに剩るあり。斯くて世界の木材貿易の趨勢に大變化を來たし、隨つて東洋の木材界も亦著しき打擊を蒙るに至るや、必ずしも杞憂にあらざるべし。斯くの如きは、畢竟、戰亂に由る必要に迫られて森林を過伐して而も戰後は其復舊に木材を要する事業の多きに因ること勿論なりとす。而して、我邦に於ても參戰後四五年來は、木材の消費量と補充量相伴はず、即ち、伐採と植林相並行せずして、遙に伐採量は累超せり。由來、山林なるものは、其或面積に於ける樹木の生長量と伐採量との並行を以て原則とす。然るに、事實は斯くの如く兩

者の均衡を失して、今や木材難の歎を聞く、蓋し、一面より見れば、自業なりと謂はざるべからず、更に我邦に於ける、木材貿易狀況をを觀る歟、大正七年に於ける木材輸出額一千七百八十萬圓にして、其輸入額は一千二百三十萬圓なり。即ち、五百六十萬圓の輸出超過額となるもパルプの輸入超過額五百七十萬圓なるを以て、大體に於ては輸出入の均衡を得在るも、我國内に於ける木材需給の關係は纔に均衡を保ちあるものゝ如きも、無論外國への輸出は殆んど絶望にして、寧ろ、今後は甚しきに至らんか。要するに斯くの如き、世界的原因が、如今我邦に於ける木材價格の暴騰を來せる主要なる原因なるべし。

□ **大阪城とコーロンの城塞** □ **コーロン**(獨逸)で其ステーションから足を運ぶと直ぐ先きの方に、例の青葉の下蔭傳ひに川岸を繼ふて數分間進むと、其處に廣い〳〵公園造りの道路がある。それは市政家が特に見落してはならぬリングストラーセ(Ringstrasse)であつて、昔封建時代に隣藩の襲來を防ぐ爲に市を圍らして築いた城塞を利用して 新に設けた道路である。元來市はこの城塞の内部に纏つて居たのであるが、市の發展に伴つて住民は段々城壁外に迄はみ出す樣になつた。之を見て取つた市は此城塞全部を五百九十萬圓で政府から讓受けて、舊市街を周つて八角形の公園作りの廣い道路を設けることにした。其設計は云ふまでもなく斯道の專門家を煩はしたもので、道路の中央には草花や樹木を植へてあつて、何の事はない大道の中通りに花壇樹園を築いたのである。

□ **都市計畫に好箇の一實例** □ ゴヂックの禮拜堂が空を支へて高く廣場の上に聳立してゐる。夏ならば



京都古建築觀

（補遺の二）

特別賛助員　伊藤清造

去る十一號まで拾有五回に亘りて京都の古建築に對する吾人の卑見を述べた、而して、餘りに回數を重ぬるの多き爲客年の本誌最終號を以て一先づ打ち切ることにした併し乍ら、其結尾を見ずして稿を畢るのは奈何にも物足らぬ感なきを得ない、仍つて、前號より更に兩三回に亘りて掲ぐることゝした。

第參章　結論

五、織豊時代（其二）

○東寺金堂　同東門　同年
御香宮表門　同中門　同年
妙心寺三門　慶長四年　清水寺鐘樓　同年
北野神社　慶長三年　同西門

妙心寺勅使門　慶長十四年
三十三間堂南大門
東寺南大門
西方寺湘南亭
○大德寺唐門
○大德寺勅使門
仁和寺本堂

五、德川時代

大德寺眞珠庵

○同　孤蓬庵
○智恩院本堂　寛永十六年
○同　山門　元和五年
○同　經藏　元和二年
方丈
唐門
○南禪寺三門　寛永五年
清水寺本堂　寛永十年
八阪神社本殿　正和二年
萬福寺諸堂
○東寺五重塔　寛永十八年

（一一）

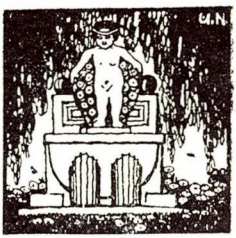
緒論の後節に於いて論じた所の、美學研究の方法論上の主觀主義と、客觀主義との特徴に就き吾人は各論を終つた後に於て、尙多少の具象的要論を試みようとするものである。美學研究の方法論上の原理からすると、主觀主義と客觀主義とは、兩者互に併用せらるべきことは、已に明瞭な事であるが、その兩主義のいづれかに重きをなし、美學の立脚地としてその主義を主張して居る事は已に述べた通りであり、又吾人は主觀主義を以て美學の本來の歸結であることも論じ盡したのであるが、此處には他の方面から多少この問題を活かして考察してみようと思ふ主觀主義、客觀主義といつたような抽象的術語を他の言語理論學上の術語を借りて言へば、前者は演繹的であり、後者は歸納的である。又他の術語の積極的消極的の二つを以つて代用たることも出來るのである。又心理學上の術語によつて前者を心的內的と、後者を物的外的とすることも可能である。已に述べた如く、主觀主義の方法論は演繹的であり、積極的であり、心的であり、內的であつて、哲學の純理論又は神秘說直覺法等と同じ行き方である。今、美學を假りに藝術の方面のみの狹義な範圍とし、且つ當面の對境を藝術品に限定してみるならば、吾人の美學が論求する所は、かくかくのものは美しい、又は、これは美であると斷定した當然の歸結として生るべき藝術でなければならない。吾

人は、批判的地位にあつても、創作的地位にあつても、常に斯の用意と信念が必要であらうと思ふ。今少し斯の原理論上の見地から具体的の立論を試みて見るならば、自個の見地から美しいものであると信じた形式に突入すべきが、藝術的良心の本來の使命であると思ふ。かうして生じた建築が正方形であつても、長方形であつても、内に内接しても、外接しても、或は此等の幾何學的圓形に全く何等の根據がなくても、吾人は眞個の藝術を建設すべき時期に際して、何等顧慮する必要を認めないのであつて、同樣に數理的關係の有無をも伺ふ必要がないのである。美くしい形が測定の結果黄金律の比例を有してをつたといひ、或は正方形であるといひ、或は三の倍數である等といふ事實を根據として吾人は自個の美を表現すべき形式を是に求むる理由を認めないのである。強いて之に拘泥せんとする時に、吾人は客觀主義の弊害を認めざるを得ないのである。客觀主義又は積極的歸結的物的外的と稱する處は、多くの過去の作品中の種々なるものを詳細に研究して、これ等が共有する處の特徴を拉し來つて美の必然性とし、是れをやがて生れんとする藝術に應用せんとするものである。例へば、希臘の Partbeeou の細部が七限度許の比例であるといひ、又、多くの自然形が正三角形を基礎としてゐるといひ、是を美の必然性と稱して藝術的に應用しようとするのは、吾人は消極的、物的、外的歸納的であると稱するに何等の障害を得ないのである。吾人は、藝術家の眞個の製作的心理に深く入つて、其爾ある所以を斷言し得るのである。極端に立論するならば、美しいと思ふて作つた藝術的作品に、それ等の客觀的標準を以て批判しようとするのは、寧ろ謬見であると云へよう、けれ共(假りに最高の審美思想の具有者として)かくして主觀的に生れはしたが夫れ等の作品は客觀的方法によつて測定してみると、多く共共通の數理的關係や幾何學的作圖に一致するのは何故であらうか。是は一般に美の普遍性に依るのであつて、藝術の理想の美が、嚮て百般に共通性を

有するの事實を證しゐるのであるが、其奈何にして普遍性を有してゐるか、奈何にして斯くは數理的又は幾何學的に深き關係があるかは、今日美學の主要なる研究科目の一つであつて、今日容易に論結すべき時機ではなかつたのである斯くの如く論じ來ると、結局は、主觀論も客觀論も同一の如く見ゆるけれ共、既に其出發の立脚地に於ては、以上の如く心理的動機の差異あるものではあつて、價値論上の見地から、多大の相異を認めなければならないのである。論をなす者、或は苦心して創作した作品が大して美しくもないとき、せめて已往の客觀的標準によつて少し美しいものを作つたが好いとするかも知れないけれ共、吾人は急激に理想の美に突入するの要を認めないのであつて、審美思の思想當然の過程を辿るべきであると思ふ。

建築の觀方と審界性

建築に於いて最も重要な觀方は何であるか。余はこれを「審美的の觀方」と云ふて躊躇しない。それは建築が美術の一種類に屬する事を許せば自ら明かであらう。併し審美的の觀方が必ずしも一つに限らない、余は尠くとも三回を擧げる事が出來る。先づ第一に來るのが美學の普通の組織から云ふ材料、形式、内容の三方面、又は形式と内容の二方面かに見る觀方である。この觀方は最も美學的であつて、本來の美學から云へば最も重要であらう。その意味で建築の審美的觀方の根本的又は純正なものと云つてもよからう。



廣義の都市計畫

江村郊邨

※故井上博士は、救濟制度要義に、獨のチグラー博士の社會問題と敎化事業の關係に就て論ぜる一節を引用して曰く『社會の平和に達せんとするの順道は、社會現在の組織を破壞することなく反て社會を組織する個人の風化を以て其本義と爲すことを要す、夫れ個人の風化は一々個人の品性と思想とを進めて社會共同の觀念を涵養せしむるに在り。勞働者をして其職を勵み其分を盡すは即ち已の幸福を進むる所以たることを覺悟せしめ、資本家をして其慾を制し人を愛するは獨り已を利するのみならず、併せて世の公益を扶くる所以たるを知らしむべし。斯くして、社會の各員をして凡て貴賤貧富を問はず均しく道義の觀念と相互の敬愛とを發揮せしめざるべからず、是を公共的精神と謂ふ。念ふに、公共的精神は竟に全世界を支配して、光輝ある戰勝者たるべきものなり。吾人は社會的精神の旗幟を望み其風を仰ぎて響應する者に對し最名譽ある從軍記章を與へざるべからず』と。

※惟ふに、近代に於ける都市は、往昔の如き單に產業的集權の一團體として存在するにあらずして、實に、公共主義の理想に基きて、都市夫れ自體の健全なる生活を遂げむとすると同時に都市民各自に對する福利の向上を圖るを以て目的とせり。換言すれば、近世の都市は、市民に都市生活より完全なる幸福を享有せしめむとす

を以て理想とせり。而して斯の目的に協ふて、都市民の福利を増進すべき方法としては、勿論斯る目的の下に經營さるべき幾多の事業存じ、例へば、衛生、消防、交通、教育、等僂指するに遑あらざるべきも、就中、學者の所謂教化施設の如きは、其基本的事業なりと謂はざるべからず。

※這回、我邦の六大都市に於ける都市計畫の如き、勿論、斯る近世の理想主義より出發せる施設なるも、都市形骸の齊整は必ずしも公共主義的都市理想の完璧にはあらざるなり。蓋し、都市民の福利を増進することは、近代に於て覺醒されたる人格的理想よりせば、各自が自由に而して均等に幸福の機會を捉へ得ること、維れ即ち都市民として、都市生活に於ける最要義たると同時に、都市夫れ自体は須らく斯の目的に向つて施設すること、近世都市行政の公共的想理に出發せる當然の責務なれ。

※然るに、現在我大阪市の如き、或は其他の大都市の如き、都市民として其大部分を占むる人々即ち下級市民、殊に、所謂細民達に對する福利的施設は、纔に限られたる二三施設の外、何等觀るべきものあらず、例せば大阪市の如き、市營住宅、或は共同宿泊所、乃至は公設市場等の福利的施設なきにあらざるも、遺憾ながら其大局に於ては多數なる下級市民の福利の上に左して著しき効果あらざるを奈何せむ。而して、都市としての教化事業に到りては、狹義の教育施設を除くの外殆んど忘れられすむば等閑視されあるの事實なきにあらず。

※今日の所謂社會的理想は、實に各自の生活手段に於ける機會の均等を得るに在り。換言せば各自は勿論他人と同樣な生活をなすの權利あると同時に其生活手段を獲るの機會は各自の前に均等に置かれざるべからず。社會主義者の所謂『平等』は、斯の意義に於ける平等なりと解するを以て相當とすべし。然らずむば、各自の資性教育、智能、境遇、健康等の千差萬別なる字義通りに『平等』とは畢竟一種の架空的想望たるに過ぎざればなり。

⁂而して、斯くの如く生活手段の機會均等なるを要すべきことは、今の社會思想を構成せる系統的淵源とも稱すべき十六七世紀頃の所謂『權利哲學』に於て『人類は凡て自然の狀態に在り、―自然の狀態にては凡ての人類は平等なり、奈何となれば其本質上(人格上)奈何なる人に對しても他の者よりは大なる義務、他の者に優れる特權を與へらるゝことを莫し』との思想が、今日の經濟生活の根底に貫流せる思想にして、所謂、政治上に於て認められて斯る思想が、如今の經濟上の思想に轉化し來れるなり。斯くして都市民は都市生活によりて享受せむとする福利の如きも、今日の思想にては、最大多數者の享くる福利の蔭には、等しく都市民として當然享受すべき幸福を犧牲とし、又其幸福を捉へ得る機會の極めて不均等なるに血涙を流しつゝあるが如き其事實の所在目睹し得ると共に、這は都市民として確に近代社會思想に逆行せる事實ならざるべからず。蓋し近代の社會的要求としては、最大多數の福利を庶幾するにあらずして、實に各自が自由に而して容易に捉へ得べく可能的に置かれたる福利ならざるべからず、維れ、吾人の所謂生活手段の機會均等なり。

⁂ジエー・ハルデン・スミス氏は、其著に於て『道德の自然なる目的は實に人類の幸福なり。人類の幸福は倫理上の目的にして、各人が個々の幸福を獲んが爲には平等なる機會を有するを以て至當とす。人類の幸福といふも、自己一人の幸福と云ふに非らず、又、他人の幸福と云ふにあらず、さりとて、最大多數の最大幸福にも非らず、實に公平に分配されたる幸福なり』と曰へり、這は、確に近代に於ける倫理的社會思想の進歩を徵象するものにして、等しく新カンド派の社會思想として、カシドの所謂『各人は手段にあらずして目的なり』の思想が今更高調さるゝ傾向より觀るも、所謂最大多數の幸福を庶幾する舊來の行政的思想は勿論都市行政としても最早現代のものにあらざるなり。

⁂若し都市は有機體として眞に獨立の生命を有

すとの說にして謬なくば、所謂都市計畫によつて完整されたる都市は、都市自體の生活形式に於ける改善にして又進化なり。而して、他面に於ては、都市構成の分子たる都市民各自も亦是によつて其生活上の福利を增進し得るや勿論にして、是れ嚮て都市進化の內容たり。されど、其實際に於ては、諸般の施設が所謂最大多數者の最大幸福にして、スミス氏の所謂『公平に分配されたる幸福』即ち生活手段の機會を均等に置かるゝことは、現在の都市計畫に於て果して庶幾し得るや否や。殊に、都市民敎化事業の如きは都市の內容即ち都市精神の完美を得せしめ眞に都市民の福利を助成する所以、都市民各自をして最も內容ある生活を營ましめ、嚮ては都市夫れ自體の身心共両美健全なる發達を遂げしむる所以なり。されば、現在の宗敎的敎化事業の如きに對しても、都市當局者が今少し理解ある態度を採り都市民生活の手段に向つて最も均等なる機會を供へんこと、蓋し時代の最も要望する處ならむ。

※大阪市の如きは、曾て、市民の敎化事業に對して、宗敎方面の利用を計畫し、市は、常に宗敎團體との諒解を得たる如かりしが、其實際は幾多の制限と干涉的希望を附し、少くとも我等基敎徒としては、殆んど骨抜きの感強きを禁じ能はざるものありき。吾人は是に就て言ふべき事の多くを有し在るも、要するに宗敎的敎化事業の如き純內的方面の施設は、都市計畫の主要なる一內容たるを信ずる也。



新聞記者として見た名士の邸宅（二）

讀賣新聞記者　梅谷孫吾

＝大木伯爵の邸＝

一、青葉の間に屋根瓦

大木遠吉伯の邸宅は、目黒の火藥庫の裏手で雜木林が茂り合つて、都會近くといふやうな氣のしない非常に閑雅な處にある。私がお訪ねしたのは、何んでも眞夏の暑い盛りで、朝非常に早かつたものだから、目黒の終點で電車を降りると、久しぶりで郊外に散歩にきた心持になつて、この邊の青葉の間をぶら〳〵と歩るいて行く。蟬時雨がして、火藥庫の塀に『危險に付き近寄るべからず』と書いた赤い札が、田舍道の旅でもしてゐる時に發見する何かの廣告のやうな心地がした。

飴色の塀が廻つてゐて、門といつても名許りの、頗る打解けた邸宅で、宿場などで見るやうなぞんざいな電氣燈が、赤黒い色に塗られた柱の上に傾いてゐるのが、妙にこう伯爵の『關ま

はなさ振り』を語つてゐるやうに見ゐた。

邸の周圍は總て林で、群がるやうな青葉の中から、屋根瓦が浮んでゐると云ふ圖で、矢張り遠吉伯は遠吉伯らしい家を買つたと、その時私は一人で微笑して、これを仰いでゐた。

二、應接に聞える話聲

門を入ると、正面がすぐに玄關だが、その前に、一寸した植込があつて、右手の方から心持ち廻つて行くやうになつてゐる。左手は竹垣で草花などの鉢を並べた庭の中が、しつかり見ゐるやうになつて居る。右手は車置場らしい小屋と、供待があり、勝手への口も見ゐる。

玄關は　平民理想の伯爵家にしては、ちと氣取り過ぎた大名風の構ゐで『おめゐ』と云ふ平民語を使ふ遠吉伯を訪ねて行きながら、矢張り『御前樣は御在邸で』と、やらねばならぬやうに出來てゐるのが輕い皮肉を覺ゐる。何者の住居の後を買つたのか、私は遂ひ聞き洩らしてゐるが伯爵は恐らくこの玄關に滿足はしてゐないことであらふ。

玄關を上ると、ラック塗りの西洋扉一枚が左手にあつて、其處が、伯の談論風發の應接室だ眞中に支那風の卓があり、東と北が窓で、その窓側に皮張りの寢椅子や、置物棚があつて、疊にしたら先づ八疊敷き位、ちと狹いやうに感じた。

南の方は、一帶の書棚で、西側に和洋折衷のやうな棚があり、先代喬任伯の筆蹟が掛けられてある。南東の隅の處に、極く簡單な硝子戸があつて、伯は、刻煙草の函と長い煙管を持つて其處から出て來た。

いろ〳〵な話をしてゐると、家族の人達が笑ひ乍ら話してゐる樣子、殊に令孃の若々しい聲などが手に取るやうに、その話の內容までしつかり解る位に聞ゐて來る。應接間から、三尺許りの廊下を距てゝ、すぐそこの障子の中が、家族方の居間らしいと思はれた。

何事にも『ざつくばらん』の伯爵の住居としては別段不思議でもないが、私——即ち伯の稱する『おめゐ』の方が、何んだか濟まない事をして

ゐるやうな心地がしてならなかつた。

窓からは、敷き詰められたやうな芝生や、處々に置かれた陶椅子や、平和な庭の有樣が、腰掛けたまゝに眺められる。

═寺內伯の邸═

一、官邸のやうな私邸

寺內伯の邸宅を訪ねたのは、後にも先きにもたつた一度で、しかも非常に忙しい際だつたから、落付いて見る事も出來なかつたが、大體に於て、『官邸風の私邸』と云ふ印象が一番大きかつた。

官邸風の私邸——其處に寺內伯の眞面目があると思ふ。あの麻布の邸宅は、よく、故伯の官僚思想を体現してゐるのである。私邸は飽迄も私邸で、何處かに温か味とか打解けた軟らか味とかゞあるものだが、實に寺內伯邸は、內田外相の私邸のやうに『日曜の學校』と云ふ感じはないけれども、如何にも近寄り難い、勢權を誇るといふ感じの深かい邸である。

母屋は純粹の西洋建であるが、その癖、門やら塀やらは日本式の、あつさりとしたもので、檜の門柱には、故伯在世の頃から、たゞ『寺內』と二字だけを書いてあつた。近頃電車で通つて見ると、標札は新しくなつたやうだが、矢張り『寺內』と二字だけを書いてある。

二、一驚した玄關の內

門內の左側に、一つの建物があつて、最近には、自動車の運轉手が住んでゐた、その横手が車庫で、その奥が馬小屋になつてゐる。寺內內閣を組織した時には、伯も餘程嬉しかつたと見えて、評判な所謂『新聞屋』嫌ひも、この運轉手室を開放して、大いに連合の記者連を優待したものだ、と社の同僚が云つて居た。

一面に玉川砂利が敷き詰めてあつて、門の突當りが西洋窓、一寸右手に寄つて、平凡な玄關があつて、更に左へ行くと、窓の下を通つて、勝手口へ折れて行くやうになつてゐる。

玄關を入つた時、實は記者は一寸吃驚した。と云ふのは、大抵の屋敷では、正面がすぐ廊下とか廣場とかになつてゐるのに、伯の玄關は急

に箱の中へ入つたやうになつて仕舞うのである

先づ正面が、高い板張りで、六尺位の上からだけは美しい大きな硝子窓で、中に置いてある植木鉢の青葉が見えてゐる。左は張り詰めて行塞がり、右手がまた正面と同じやうに塞さがれてゐる。

吃驚してぼんやりしてゐると、その右手の隅の方が開いて、然樣、三尺位の硝子戸になつて開いて、其處から人が現れて、應對した。『官僚は官僚らしい家を造るものだな』と、實は私は低い聲で呟かざるを得なかつた。

═犬養氏の新邸═

一、軟か味のない西洋館

犬養木堂氏は、去年の暮に麹町の六番町の小ぢんまりとした洋館を手に入れて移つた。話によると、佛蘭西へ行つてゐる松井慶四郎大使の家だつたとか云ふ事である。左へ入ると所謂中橋文相だの、島田沼南老だのゝゐる大臣横町で『此邊へ御輿を据ゑるやうでは木堂先生も大臣臭くなるぜ』と、當時、われ〳〵仲間の輿太話に時々上つたものだ。

壁塗りの塀の、南端と北端とに門があつて、南の方は玄關へ、北の方は勝手口へとなつてゐるが、勝手口の門が、本通りからは近い方にあるので、不謹愼な連中は、此方から入つて、砂利をざく〳〵と音させながら、南玄關へ來る樣子だ。

純然たる西洋館だが、正面の邸内も廣くは無し、植込みも少ないので、餘り感じの良い邸では無い。小ぢんまりとはしてゐるが、も少し、軟か味がつかなかつたものかと思つたが、これがまた木堂一流の例の方策を表してゐるやうで面白いものだ、と實は好な處へ感心した。

二、一寸良い第一印象

二三段石段を上つた玄關（右手から迂廻するやうになつてゐる）は、丁度、母屋へ眞四角な箱でも喰付つたやうになつてゐて、何んといつたら可いのか、天井のある露臺を下へ持つて來たやうな四坪許りのものだ。が、何んだか、馬鹿に頭から押し被ぶさるやうで、古ずんだ煉瓦の

色などから、一寸廢墟氣分があるとでも云ふほか、多くの洋館で見るやうな華やかな樣子の見ない玄關だ。

扉は、花の摸樣のある硝子が入つてゐて、これだけを引放して見ると、隨分美いものなのであらふけれども、周圍が總て、沈欝な色で包まれて居るので、沙張り引き立たず、却つて薄暗い室內が反射して、硝までが黑く見えてゐる。

扉を開くと、低い——極めて低い天井の廣間で、左手に藤椅子やら本箱やらがあり、絨緞なども敷かれて、先づ、すぐに應接をするやうになつてゐる。第一應接といふ格のものだらふが、扉を開くとすぐ『室內だ』といふ感じを與へるし萬事に都合の良い思ひ付きだと思つた。アメリカ式の、打解けた遣り方とでも云ふのであらふ

突當りの左り手に、二階への梯子が見えては居るが、窓といふ窓には、薄いカーテンを張りその窓は小さい上に、何れも光線が直射せぬやうな處にあるので、此玄關は薄ぐらいよりとしたもので、極く落ついた——悪く云へば少々陰氣で窮屈だが、仲小路氏の應接を純洋式にしたやうな感じがあつて、寢臺さへ持つて來たら、この室で一日一ぱいの生活をしても宜しいと私は思つた。

═原首相の私邸═

一、餘りに小さいので

私は新聞記者といふ商賣をしてゐながら、實は去年の八月迄、原敬氏の邸を知らずに居た。勿論、私共の知りたい要件は、大抵側面攻撃をやるか、然もなければ御大に正面の一騎駈けをやつても、大概は官邸で濟んで終ふので、政治記者なら知らぬこと、私共の知らなかつたのも實は無理ではないかも知れぬ。

丁度、板垣伯が危篤で、見舞がてら其邸で河野廣中氏に會う約束で、御成門で電車を降りると、ぶら〳〵芝公園地內の伯邸へ行く爲めに、增上寺から左へ入る細そい通りをやつて行くとふと『原敬』と云ふ粗末な名札の出てゐる家が眼に入つた。

黑い板塀が何んかに包まれて、小さな門で、

低くい家で、正面の玄關でも、一寸した判任官位の住みそうな廣さだ。白ペンキで奇麗に塗つてあるし、その邊の掃除もよく行屆いてゐるから、先づ見榮らしいといふ惡口だけは免れるがそれでも絶對多數黨の總裁として、內閣の首相として、一寸意外の感に打たれた。

少なくとも門內に十坪や廿坪の廣場があつて自働車でも俥でも玄關へ乘つけられ、二階の明るい窓でも見ねばならぬ人なのだ。

二、正面にある支那額

この時はまあ外の用事を抱へてゐたので、其儘に通り過ぎたが、それから暫くして急に訪問せねばならぬ要件が出來てやつて行つた事があ

門から玄關まで、三間もあるか無し、右手に勝手口が見えてゐて、門內に植えた僅か許りの植込みも、流石は平民宰相、感心といふのか、關はな過ぎるといふのか、『私邸』などゝ、むづかしい事をいふよりは、矢張り『お宅』といふ言葉が適當だ。

扉を押すと、一坪許りのコンクリートの土間で、正面が白い壁、左右に細そい廊下が出來てゐる、正面の壁には、眞黑い處へ青い字を彫つた細長い支那の掛額が二枚掲つてゐる。一寸見た處、實に窮屈な位に狹そうだが、しかし何處となくふつくりとした温か味のある明るい印象の家である。

一口に云へば物懷しい打解けやすい感じの玄關、木堂氏の新邸とは正反對で、私は泌々『多數黨はこの玄關から生れたな』と思つた。

私ばかりでなく誰方でも、原氏の私邸を初めて訪問する人は、きつとその豫想に反して、餘りに、構へが小さくて、纏りすぎてゐるのに驚くであらふと思ふ。

俳文紀行

（二二〇年前の紀行文）

岩田の小野を過ぎ、鵜沼の里に暮ければ、あやしの伏屋に舍る、左右まばらに、薔薇槿籬を壁とし、風もたまらぬ簀子のうれだてゐに、藁の莚一重を敷ける、正業の家妻、飯の生栄にいぶせき調度とりまがひ魚油のひかりかすか也



都市と社會施設
英國に於ける住居政策

（大阪市發表）

緒論

戰後英國に於て最も緊要なる大事業の一は國民の爲めに完全にして衛生的なる住宅を供する事なり。吾人の目的は將來立派なる建築、豐かなる收容力を有する住宅を過住（オブアークラウディング）を防ぐに足るだけ建設するに在り。即ち住宅は充分なる光線と新鮮なる空氣を要するものなれば徒に長き單調なる列に建設すべきにあらず。

廣濶なる土地、程よき庭園は單に健康の爲のみならず亦家庭としての快樂を得る爲にも必要なれば住宅計畫にも又土地割當にも健康を思ふと同時に美觀に對しても斯の注意なかるへからず、尙新設住宅及其の圍繞物の計畫は云ふ迄もなく、既存の住宅と雖も、或は不完全なる或は非衛生的なる者ある時は充分適當たらしめ、又は全然破壞せざるべからず、詰り過ぎたる貧民窟の地域、狹隘なる路次——是等は多くの我英國の都市の美觀を害し、疾病其他の災害を惹起

しつゝあり――等は取り除きて清潔ならしめ適

之等は總て理想に過ぎずと思惟さるゝやも知れざれど戰時中に起りたる異常なる化變よりして遠からず吾人が此等の事業を悉く成就し得べしとの望を與へられたり。勿論其れには時を要すべし、されど吾人は徐々歩一歩と進み、其各一歩をして安全確實なる歩とせざるべからず、而して吾人が戰時に現はせる精力と熱心とを以て進み行かば此の英國の改造は必ずや實現されむ。此は吾人が自己に負へる義務のみならず、總てを放擲して海外に奮闘せる同胞に對する義務なり、即ち一度戰終りて歸國する人々に對して適當にして衛生的なる住宅の供給を保證せざるべからざる義務あり。

そも住宅問題は這般戰爭の影響として初めて勃發したるものにあらず、唯戰亂の結果一層緊急となり難事となりたるのみ。戰前に於てすら勞働者の住宅は相當の標準より觀れば甚だ不足し居たるなり、人口の一定の割合、時には實に異常なる割合の人々が狹隘なる街路の住宅や共同家屋の分室に溢れて、そこに必要なる光線をも空氣をも空地をも與へられずして哀れ過住の狀態にて其日を送り居たり、是等の建物は既に人々の生活に全く堪ゆべくもあらぬものにして殊に戰亂中年を重ね行く毎に此の狀態は益惡化せり。

現下の住宅問題は實に左に示す數項より構成せらるとの事なり。

(一)住宅の不足は英蘭(イングランド)、及威爾斯(ウエールズ)にて三十萬戸乃至四十萬戸と注せらる、尙此の數字中には貧民窟の住宅壞廢より生ずる以外の不足は全然數へられず。

(二)多數の住宅は人の住居に適せざる不完全且非衛生的なる家屋なる事。

(三)多くの都市に於ては貧民窟の地域は詰り過ぎたる狹き路次街路より成立せる事。

故に本問題を解決せんには

第一 設計建築共に優秀なる住宅を豐富に得る事

第二　不良住宅は之を閉鎖し或は破壊し又は充分修繕せしむる事

第三　多數都市の美觀を害しつゝある貧民窟の地域廓清並に改良を圖る事

等なり。今是等を遂行するに必要なる方法を示すは本篇の目的とする處なるが先づ之に先立ち戰前の狀態を簡單に觀察し此狀態の改善に如何なる手段が採られしや及何故當局者が其の目的を得ざりしかを見ん事必要ならむ。

戰前の狀態

一九一一年國勢調査報告に依れば人口の十分の一以上は過住の狀態にて住居しゐたりき。而して國勢調査當局の採りし過住の標準は極めて簡單なるものにして、即ち居室を加へて一室に二人以上の割合を以て居住する時は過住と看做されたれば。假に二箇の寢室及一箇の居室ある住宅若くは共同家屋内の分室に六人以上居住する時は等しく過住なりとし、十四才以下の小兒は半として數へ入られたり。人口の十分一が此の標準に照して過住狀態にあるは如何に住宅問題の重大なるかを示す者なり。時には過住の原因が一家の必要とする室に對する使用料の支拂不能に因る事あるべく、是等は貧因が除去せられざる限り住宅問題最後の解決は期し得べからずと云ふべし。斯の如きものを外にして尙多數の國民は單に住宅の豐富に得らざる爲止を得ず過住の狀態にあるは疑もなき事實にして今や我等同胞は所謂『住むに家なし』の狀態にあるなり是等住宅不足の狀態は都市や地方の一部に限られたるものにあらず全國到る所如何なる都市に於ても、又如何なる村落に於ても等しく同樣の狀態に瀕せり。勿論中には豐に住宅の供給せられし地も無きにあらざりしかど、國勢調査の示せし數字或は衛生官（メヂイカルオフイサホブヘルス）の齎せし報告を檢する時、明に斯の傾向の意外に廣く蔓延せるを見るべし。問題は唯住宅の不足並に之に伴ふ過住のみにあらず、現に住居せし住宅の多數は都市地方共に荒廢せる非生的の者にして之等の多くは採光十分ならず且つ濕潤なり、各地の市邑（パラ）都市（アーバン）、地方（ルーラル）の衛生官の報告は之等悲慘なる狀態

を證明せり、多數の住宅は如何に出來得る限りの修繕を施すとも尙滿足すべき狀態に復することと能はざるのみならず、尙それ以上に多くの住宅は事實全然手も附けず放棄せられ、現在の狀況にては合理上人類の棲息に適せずと云ふべく而も此は都市にも地方にも等しく存する所なり

何れの都市にも多少空氣、光線の不充分なる住宅の充滿せる地域あり、此の如き地域にては街路や路次は極めて狹隘にして日光もさし込まず、其の狀況は單に箇々の住宅を改善するのみにては不可なり、全地域の廓清並に改善の必要あり、之等貧民窟の地域は概ね大都市に存するが亦極めて小さき都會や時には村落にさへ存せり、之等は疾病を傳播長助せしめ肉體的にも精神的にも健全なる生活を阻害せり。

上述の狀態を例示する爲に二都市及二地方衛生官の公報を引用せんに、之等は全く手當り次第に抽出されたるものにして他の諸地方の衛生官の報告に比し何等優劣の存するものにあらざるが故に地方名は揭げず、名を揭ぐるは此等特定の他の狀態が他に比し著しく不良なりとの觀念を注入する虞あればなり。

都　市

(一)當市には四萬戶乃至五萬戶の背中合せの住宅ありて此の大半は建物、塀等にて圍まれたる地にあるか、或は短かき阪上にありて街路に面する背部の家屋にて閉じ込められたり。此の階級に屬する家屋の多くは荒廢しつゝあり、故に之等家屋の所有主は絕ず增加し行く維持費を投ずるを無益とし漸次其修繕を怠るに至れり、一九一二年に九百二十六戶の住宅は人の住居に堪へざるもの指摘されたり。

(二)當地に於ける古びたる住宅の多くは滿足なるものと思考されず、日光や新鮮なる空氣は健康の保全に或は疾病の輕減に缺く可からざるものなるに是等は過住の貧民窟や換氣作用の不十分なる住宅にては到望み得べき事にあらず當地にて此の如き住宅尠からず。

地　方

(一)諸所の村落にては善良なる新居を求むるも

の尠からず其後多數の古き住宅は閉鎖され破壞され代りて此等の新しき住宅建設されたり又或る村落にては村民の住宅狀況徐々に頽廢したるより風紀は頓に紊亂せり。

(二)昨年(一九一七年)檢閲されたる四十九戸の住宅は何れも倒壞せしめて全然再築せざれば住居し得ざるものなりき。而かも此の中四十戸迄は過住狀態なりき、此如き場合に於ても借家人の住むべき住宅の他にあらざる限り過住輕減は不可能事なるべし。此地を通じて斯く迄住宅拂底の無ければ更に多くの家屋は何等の顧慮なく閉鎖されたりしならん。

以上は戰前に於ける住宅の狀況なり、今之等の狀態を救濟せんに如何なる手段の採られしやを見ん。即ち其成敗は共に吾人が將來期待せる住宅改良の計畫に至大なる關係を有すればなり。

住宅狀態改善の試圖

十九世紀及現世紀に於て勞働者の居住狀態を改善すべき目的を以てしたる各種の條令通過可決されたり。現行條令の骨子は實に一八九〇年の住宅條令なるが其の條項は其後各種の他條令特に一九〇九年の住宅及都市計畫條令に依り修正され且擴張されたり。加之公共衛生條令(特に一八七五年の條令)中許多の條項は本住宅問題に干與せり。而して總て是等條令の下に地方當局—i.e., the Borough or Urban District Council in the towns and the Rural District Council in the counties, and in London for some purposes the CountyCouncil —即ち都市に於ては市邑都、市區議會又州に於ては地方區議會、而して倫敦にては或る目的に限り、市會が地方自治總務省の一般監督を受けて本令を實施すべき責任者たるなり。(地方當局者は其の職務遂行上時に衛生官、調査官、衛生監督官等を雇傭する事あり)

即ち本住宅條令に依り地方當局は勞働者階級に住宅供給を行ふに當り頗る廣汎なる權限を賦與され居り、時に現存住宅買收を行ひ或は借入れ、而して之を改造修理し造作を附し、又時に

は當局は自ら土地の購入を爲し（必要なれば强制的に）住宅を建設し得。或は單に土地を買收して道路や下水道を作り借地人が其地に勞働者階級の爲に改善したる住宅を建設し、或は維持する條件にて貸付けを爲し得、又、單に住宅の建設に努むるのみならず借家人の爲に商舖、運動場、花園等を設け得べき權限ありて總て是等の目的に對し當局者は政府より出來得る限り低利にて資金を借入るゝを得、而して地方當局者が上述の權限の行施を過りたる場合は其の地に家計を營める住民四名は地方自治總務省に其の由訴ふるを得べく同省は精査の後至當と認めたる場合は適宜施行を命ず。

政府は是等權限を地方當局に賦與し加ふるに住宅條令中勞働者階級の住宅を建設するに當り團體又は個人より公債の募集を許可せる條項あり團體若しくは個人は此の目的に對し家屋價格の五割までの公債を所有し得、特に公利協會—that is to say, co-operative or other societies registered under the Industrial and Provident Societies Acts and limiting their profits to 5 per cent)即ち、イダンストリアル、アンド、プロヴイデント、ソサテイス條令の下に登記せられたる同協會若くは其の他の協會にして其利益を五分に制限せるもの）は六割六分三分の二の多額を所有し得。

戰前數年間住宅建設に於ける地方當局の活動は著しきものありしが之を相關的に綜合する時は此等の權限はさしたる効を奏せざりき。而して地方當局が、許可されたる公債資金を以て建設せる住宅數は各三月末に於て一九一一年は四百六十四戸、一九一二年は千二十一戸、一九一三年は千八百八十戸、一九一四年は三千三百三十五戸、一九一五年は四千四百八戸にして是等の數字より見る時は年々著しき增加を示し居れり。然れども戰爭の前年に於てすら其の建設されたる住宅は勞働者階級の住宅不足を補ふに要するものゝ僅かに一小部分に過ぎざりき。

次に地方當局には既存住宅の標準を昂上せしむるに付ても亦廣汎なる權限ありて、法令に依

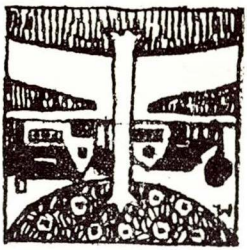
り過住を防止し、衛生、便益の最低限度を限定し、更に進んで住宅條令に依り各管轄内の住宅を時々檢閲するを要す。若し如何なる住宅と雖も健康保全上危險且有害にして居住に不適當なりと認たる場合は該住宅が居住し得べき樣相應修復さるゝ迄居住の目的を以て使用するを禁止すべき閉鎖命令を發し得、其後住宅修復されず或は修復の見込なきか、或は全然修復不能なるものある時は破壞命令を發せざるべからず、又一定の家賃を徵收せる住宅にして合理上人の居住に不適當なるが如き場合は地方當局者は家主に精細な修繕を爲す樣戒告を與へ、家主が之れを履行せざるに於ては當局者自ら修復して其れに要せる經費を家主より徵收す。又住宅其のものは不適當にあらざるも他の住宅の障害となるが如きものある時は其の所有主に相當の賠償金を支拂ひて該住宅の倒壞を命じ得。殊に一九〇九年の條令通過以來各個住宅處理權限は顯著且進歩的なる効果を奏せり。かくして所有主の費用を以て適宜修復されたる住宅數は一九一一年の一萬九千四百六十三戸より一九一四年の六萬七千六十五戸に增加せり。斯の如く著しく進歩改善の實を擧げ益々奬勵しつゝあるが尚多數の住宅は改善されずして殘されつゝあり、又地方當局者中の或る者は地方自治總務省の激勵にも拘らず其の權限の執行を過り多數は全く不適當なる施設を爲せり。

要するに問題は住宅拂底の一事に盡く故に借家人にして他に居住すべき場所を得ざる限り地方當局者は其の住宅を不適當なりと認めたる場合と雖も尚此を廢するには躊躇せざるを得ず。

建築と遺傳基金

市有地利用の爲獨逸にては遺傳借入基金なるものを設け、市より之に資金を供給し、市有地に遺傳し得べき家屋を建築し、之を私人の有として年賦にて其代價を償はしむるの方法あり。土地は六十一箇年の永代借と爲し、地代として地價の二分五厘、建築費の七割五分は之を建築者に貸與なし、二割五分は之を自辨せしむ。



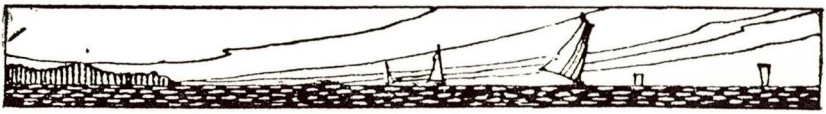


女流住居觀

私の研究した臺所の構造

料理大家　龜井まき子女史談

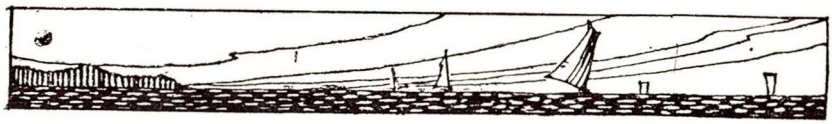
私は長い間、お料理のことに沒頭してゐる人間ですから、建築についてのお尋ねがあつても、やはりお料理室――つまりお臺所に關することの外、別に申上げることもない樣です。一體お臺所といふものは、第一には立働きに便利なやう、時間や手數のかゝらないことが何より必要であります。それから、食料品なり食器なりの、保存のよいやうにすることです。如何に便利であるからと言つても、日光の當るところへ食器棚を取りつけたり、竈や焜爐の近くに漆器類を入れる場所を設けたりしたのでは、徒らに物を損じさせる許りであります。その次には、見たところも感じよく、綺麗にして、きちんと美觀を呈して居ることが必要でありませう。お臺所は物置と異つて、主婦なり下女なりが一日の大部分を費す室ですから、氣持のよい所として置くことは極めて大切であらうと思ひます。



日本の從來のお臺所には、斯の點で餘程注意が足りない樣です。

それで、戸棚ですが、これは各自で色々に工夫を要する所でありまして、私の考では、中は三方をペンキで塗ると、鼠よけになる上に、兎角外部よりも内部は掃除の面倒なものですからその缺點も省けると思ひます。そして戸棚の前戸はなるべく硝子戸にしたいものです。戸棚の桟を細かく打ちつけまして、中に入れるものゝ高低によつて、棚の段を高くも低くもするやうに致して置けば寔に便利だらうと思ひます。それから下は勿論、板の間にしまして、そこへはリノリウムかオイルクローズを敷きますか、又はその儘にして、拭き掃除を怠らないやうに致します。中にはお臺所の大部分をたゝきにして、必要の部分だけ床板を張つて、草履か何かで働いた方が便利だとおつしる方もありますが、それには私は賛成出來ません。左なくしても婦人は冷え勝ちの者でありますから、雨天や寒中に、たゝきの上などに居たら堪つたものではありません。その上器物を損じ勝ちでもありますから。これは何うしても床板を張らなくてはなりません。ただ、その床板の汚れないやうに、食物や液汁をこぼさないことに注意すると共に、絶ねずきれいに拭きませんと、汚みや黒垢抔がついて、寔に体裁の惡くなるものです。

それから戸棚の構造は成る可く三段にしまして、一番下の段には丼、や皿や鉢のやうな重いものを入れ、大小の順に揃へて並べて置きます、中段には小鉢や手汐皿や小丼の蓋物のやうな物を並べて置きます。そして揚げ蓋の所へは、燗徳利や瓶のやうな脊の高いものを納めるやうに致します。次に上段には、茶碗、湯呑などを並べまして、その傍らにお汁用の椀を伏せて置かれ、茶碗蒸などに使ふ陶器

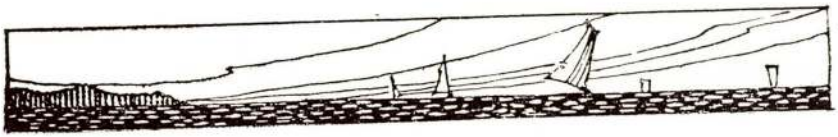


の碗は、中段に並べるといふ風にして置けば宜しからうと思ひます。斯ういふ風に工夫して造りますれば、戸棚は必ずしも然う大きい物でなくても間に合ふものです。

大體から申すと、お臺所は普通の貸家のやうに一間四方の所へ流しもあれば履物も脱ぐ所もあるし、お竈も置かばねならぬ、七輪もお茶碗伏せもといふ風では始末につかないのですが、併し少人數の家庭ならば、そんなに廣いお臺所も要るまいと思ひます。現今のやうに、切り詰めなくては生活の難かしい世の中では、居間や寢室もろくにない樣なのにお臺所だけ巾をきかせてだいつ廣く取つて置く必要もありますまいから、其處は臨機に從つて、さう無暗に廣く取るにも及びますまい。殊に水道や瓦斯の便のある都合の家であつたならば、お臺所は何んなに狹くても間に合ふ筈です。

それから、火の用心の設備には特別の注意をして置かなくてはなりません。お竈や七輪には必ず金屬張りの臺を用ひるのは無論のこと、壁も羽目板をむき出しに置いてはいけません。柱も勿論です。これ等には鉄力板か何かを張ると共に、相當の距離を置いて七輪でも据ゑつけなくてはなりません。現に壁の煤に燃え移つて、それから棚や柱にまで火の移つたやうな例もあります。又飛び火といふのもまゝありまして、炭のばちゝゝと爆發するものなどを使ひますと、何んな所へ炭の缺けが飛んで、大事を惹き起さないとも限りません。隨つて火のある傍へはバケツのやうな物に常に水を入れて置くと共に、小箒を備へて置きまして、萬一火が他に移つたやうな場合には、バケツで水を吹きかけるやうに致さなくてはなりません。

それから、或る方などは床下の利用法を盛に唱へられまして、漬物を入れたり



炭を入れたりすることを勧められます。現に多くの家庭ではさういふ風にして居りますが、私は臺所の床下は漬物などを入れる所でないと思ひます。漬物室のない所では、床下の他に置く所がありますまいから、止むを得ないでせうが。それなら最初から建築に注意しまして、お臺所は床を幾分か高く張りました上に、お臺所の周圍はトタンで張り且つ床下はコンクートかたゝきにて詰め、土鼠抔に侵入されない様にして置かねばなりません。そして空氣抜きとしては、頑丈な鐵網を張つて置きます。そして隅に水口を造り、掃除をする時に水を流して洗ふやうにしたいものです。この水のはけ口も鼠や土鼠の入らないやうに、鐵網で蓋をして置きます。

床下の一部に炭箱を置くことは悪いことではありません。斯うして置くと、幾分炭に濕りを持つて炭の持ちをよくする上に、炭があたりの濕氣を吸ひ取りますので、乾燥のためによろしいのです。又野菜の貯藏は床下に限ります。これは特別な設備を施しまして、暑熱に蒸む、寒冷に凍らないやうに致します。寒い時は、お竈の眞下になるやうに暑い時は、氷箱のやうな物の附近へ置けば適當でせう次に最も注意を要しますのは、床下を利用した場合の揚げ板の閉め方です。揚げ板の隙間から塵埃の入り込むことは申す迄もありませんから、最も注意を要します。

次に土間、即ち勝手口の入口は、なるべくたゝきにしたいものだと思ひます。踏み板を置いて、こゝから上り下りをするやうにした家が多いやうですが、その踏み板の下は、よく蛆やなめくじなどの居るところでありますから、甚だ危險であります。若し强いて踏み板にしますなら、必ず五日目に一度位はその裏を洗つて、日光に干し、且つ土間

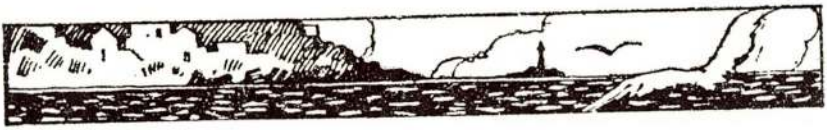


は風通しをよくして、きれいな砂を　いて置き、芥や埃の溜まらないやうにしなくてはなりません。

尚ほ、若し日光がよく當らないやうな臺所でありますと、せめて空氣流通をよくして、濕氣を拂ふやうにしなくてはなりません。それには從來の引窓をもつと大きく擴げるがよいと思ひます。そして上に頑丈な金網を張りまして、泥棒の用心に備へ、雨降りの時でも明るいやうに、引戸の代りに硝子を用ひることにしたいのです。若し月明の晩など泥棒に覗下ろされる惧れがあると思へば、黒の布でも天幕を張るやうな工合に張つて置きまして、日中に卷き收めるやうな裝置にして置けば宜しいでせう。その外空氣の流通をよくしますには、高窓をあちこちに幾つも明けるもよいでせうし。斯うして一部分づゝ改善して行かうとすれば、幾分も方法がありませう。但しこれは費用の問題でありますから從來の儘で我慢するなら、できるだけ空氣の流通の好いやうに窓や戸を開け放して、埃や臭氣が外に出て行くやうにすることです。それから、流しは普通の立ち流しでありますがこの上部即ち洗ひ物や料理などするところは、亞鉛板を敷きまして匂配をつけて水の流れるに便利なやうにして置きます。そして同じく亞鉛で作つた管で水の通路を作ります。これは隅の方に取りつけまして、その末は下水に落ちるやうに致します。流しの下も成る可くならば、亞鉛板で張り詰めるか、たゝきにでもして置けば、そこに桶や野菜の入つた笊を納めておくことが出來て便利です。

几童

乾鮭に名利のあぶらなかりけり





漫錄

米國へ行くまで

會員　波江悌夫

（二）

（三）遺算成金

「お前が洋行するとは意外だね」

とS君は大きな聲を出す、

「お前はきつと虱を湧かしながら平氣で毛唐を訪問するぜ」

といひながらハ、、、と笑つた、自分は苦笑せざるを得なかつた。

「さう見ねるかい。これでも鄉に入りては鄉に從へ位の理屈は知つて居るぜ」

「そりやそうかもしれない。だがね多年の習慣を打破るのは却々むつかしいものだ、僕なんか未だに煙草を止める事が出來ない。」

ハ、、、と自分は笑ひ返した。

「要するに過去を以て將來を推し、已を以て人を謀る譯だね、まあ來年の二月には歸つて來るから其時君の豫言が適中するか、どうか御目に掛るとしやう。」

「なんだ、たつた三ケ月」と眼を見張つたが、S君は此度は自分の金緣の眼鏡から脇



に下つて居る金鎖を眺めて悉ういふた。
「おや何時の間に金縁の眼鏡を買つたのだい、それから其時計は什うしたのだ、やつぱり買つたのか」
「これか』と自分は親爺の形見を取出した親爺が死に際に此時計を箱に收めて叮嚀に黒い紐を仕舞ひ込んだ事を想い出さゞるを得なかつた。
「これは親父の大切な遺産だよ、親爺は死んだとき金を殘して呉れなかつたが、こんな立派な時計を置いて行つて呉れた。」
「さうか、それからお前の叔父さんから貰つたカフスボタンといふのは今付けてある奴かね」
「さうだ夫れに違いない、赤銅の見すぼらしいボタンを見て叔父が呉れた奴はこれだこれもう形見となつて居る」
と答へる自分の顔を見て、S君はハヽヽヽと心地よげに又笑つた。
「お前は遺産成金だよ」
ウハヽヽヽと七八人の連中は思はず吹き出した。自分は亦苦笑を禁じ得なかつた
「此奴は却々持ちのよい奴だせ、此の前大きなニッケル時計を重さうに紙撚りで結ひ付けて居たから僕がそれは見つともない、これをやろうと銀の鎖を遣つたら、つい此間迄足掛七年餘りぶら下げて居た奴さ」
と褒めるのやら、くさすのやら解らない事をいふ。
「頭もどうやら物になりかけたぢあないか」
とK君は話頭を轉ずる、自分は此半月の苦心を想ひ出して思はず頭に手を遣つた。
「止むを得ず分けたのだからつらいやね、それに髪の強い方だから尚いけぬ。」
「そりや君の考へ方がいけない、止むを得ず分けるのぢやないせ、僕の頭の如きは昔の武士が身だしなみとして塵一つ留めぬ結髪の香を誇つたと同じ意味の分け方だ」
「すると貴君は洋服も其御積りで着て居ら



れますか」

とI君が傍から口を入れる。

「さうさ、御互にさうぢやないか、誰しも其覺悟があつてこそ近代的生活の眞髓を得らるれのぢあないか。世の中には隨分と譯の解らぬ奴が居つて彼奴はハイカラだと一喝してしまふ連中もあるが、本當のハイカラといふのは何も形に囚はれない、精神の働かし方に得度する處あつての事だろうぜ君なども此邊の理を執へ得たならば亦得る處が多かろうぜ」

I君は物足りぬ顔で恁ふいふた。

「それはそうかも知れませんが、私には何うしても貴君の樣に得度が得られません、私はN君の樣に止むを得ず洋服を着て居るのです、今に吾々の生活の向上と共に我國特有の服裝が出來上る迄の方便として着て居るのであつて、決して好んで着ては居りません、從つてN君が頭を分けるのに苦勞した氣持に同情するを禁ずる事が出來ないのであります」

とI君は頗る眞面目に論じ出した。K君は大きな顔に細い眼を据へながら恁ふ云ふた。

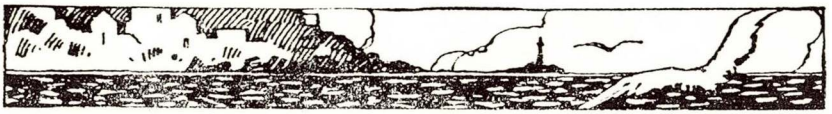
「どちらにした處でまだ〳〵若いよ、僕にいはせると洋服の着方だとか髪の分け方だとか一々理屈を付けるのが心得の惡い事だと思ふ、どちらにした處で髪に手を入れ洋服を朝晩着て居るのだから夫れを着けるのに一通の注意を拂へはよいので、其物に囚はれる必要はないぢやないか、馬術の先生が『鞍上人なく鞍下馬なし』といふたことは決して馬に限らんよ、洋服にしろ髪にしろ問題にする丈野暮の骨頂さ」

と、ゑらい處でK先生一流の觀方を說明した。此時S君は突然叫んだ。

「そこへ行くと遺算成金は悟つたものだね」

一同、ハ、、、、ウハ、、、と又笑つた。

(四)注意と注文と希望



「百聞一見に如かず」といふ諺がある、實際行つて觀て來ねば眞相は解らない、だから行つて來るのさとはいふものゝ果して見物して來れば解るかといふと却々そんなに容易く眞相の解るものではない。

A君は語氣を強めて恁ふいふた。

「あれも見やうこれも研究しやうとやたらに心を使つた處で、十の内一二しか得る處はないものだと思ふね、先づ氣を落ち付けて心靜かに呑氣に控へて冷靜な眼を放つだね、さう却々甘くは行かぬに相違ないが、やたらにあせるのはよくない樣だ」

B君は僕の肩を叩いて

「得た處がない樣で何か握つて來るものだよ、行つて來た丈で、ボンヤリ廻つて來た丈でも、行つた丈の甲斐はあるものだと思ふね」

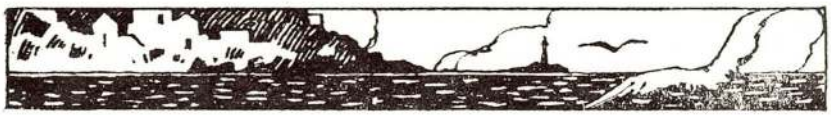
C君は皮肉な笑を浮べて

「願くば皮相な觀察はして呉れ給ふな、底の底迄徹視して貰いたいですな、今し世界的活躍をやつて居る國民が根底に如何なるものを養ふて居るかを見て戴きたい、豈夫れ建築界といふ專門の扉を開くのみが能でない、小學校敎育の樣子なども是非參考のため窺ふて來て下さい。

D君は

「本で學んだのでは實際本當の所が解りませんよ、是非々々緊要な處を撿べて來て下さい、例へばコンクリートを近來樋で流す事は寫眞で大體は首肯し得られますがね、愈假枠へ導く處で如何に彼等が處理をするかゞ解らない、床を作る場合でも彼等が如何に平滑に仕事をするかの要點が解らない況してや器械力の應用と假枠の運轉工夫に至つては全く其急所が解らない、コンクリート構造に於ける龜裂の問題の如きは全く如何なる程度に取扱はれて居るか、或は仕事の程度に於ける取扱などはさつぱり解りませんね。」

E君は眞面目な体態で自分に恁ういふ



た。

「隨分洋行せられる學者が多い樣ですが、何を觀て來られたか、何を感じて來られたか、少しも發表せられませんので吾々には失望を與へられるのみであります。或博士が此頃の若い者は自分の爲めに洋行するのであつて國のために出掛けるのだといふ觀念がない樣だと皮肉を言はれましたが、實際そうだとも思はれますね、觀て來たまゝ聞かれて來た儘をどうか惜まず隱さず發表して戴きたいものですな」

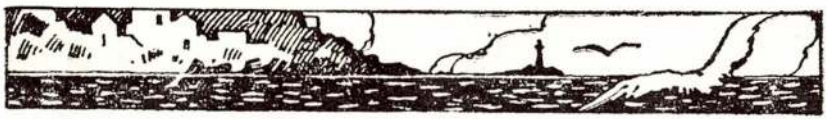
F君は金緣の眼鏡越しに自分の顏を窺いて、

「彼地へ行つたらピク〳〵して居たら駄目だよ何處迄もズウ〳〵しく押強く對等の權利を主張しなくては損だぞ、言葉だつてそうだ一々文法なんぞ考へる暇があるものか時候の挨拶だの御機嫌伺ひだの余計な事だよ、用事を述べて用事を聞いてさつさと歸つて來る丈の機敏と機智を巧みに運用しなくてはいけない、殊に亞米利加人は大いに語り大いに笑ひ大いに笑談を喜ぶ國民だ、堂々とやれ、悠々とやれ」

G君は罷々手紙をよこして恁んな事を書いて呉れた。

「今回の御渡米は、小生爲心よく兄のためにも又友人のためにも同時に亦大きくいつて斯界の爲めにも喜びとする處、兄が齎らさるゝところ必ずや吾人を稗益する所甚大なるべしと想察し亦期待す、たゞ風土氣候を異にし、且つ生活の狀態に一大變化を來すの折柄日夕緊張せる氣分の中に多大の研究と觀察とを試みられんとする事なれば呉れ〳〵も健康に留意せられて、使命を完ふせられん事を切望に堪へず。

（中略）所謂百聞一見に如かず唯生は兄の一見に俟つて兄より千聞の智識を得んと希ふは非か、否何となれば生は自己が自ら行つて觀んよりは、ヨリ多くのものを必ずや兄より得らるべしと信ずるが故に御歸朝の時



を樂しく待つ。」

G君の手紙は懇々と研究すべき注意事項を示して呉れた。自分が自分で造つて置いたものよりも明瞭に秩序正しく且多面な題目で、

『巨人の歩』を以て進んで止まぬ米國の現在の勢は寔にこれ「世紀の繁きでなければならぬ」大兄が炬の如き眼光必ずや此回の視察に於て……よしやこれが短期間なりとするも必ずや先人未見の事實をも捕へてよく徹底的の觀察を遂げらるべきを信じて疑はず、或る意味に於て今日の米國を學ぶ、即ち今日の世界を學ぶ所以也、單なる技術者以上に高き眼を具へて洞察せらるゝ所は必ずや吾人に對し現代の人として要すべき新しき智識を齎らさるべきを信ず。」(後略)

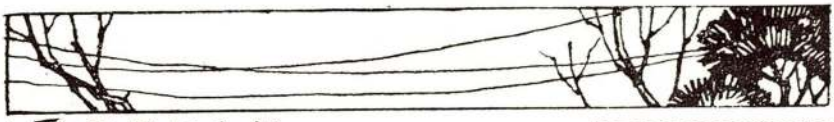
H君はニコ〳〵しながら自分に頼んだ、

「僕には亞米利加の女を研究してくれ給へ何觀察するのは譯はないやね、君は既に京の女と難波の女と神戸の女との比較論を僕に發表したちあないか、亞米利加の女は如何に彼の國のパートを働いて居るかを觀て來ればよいのだ、何むつかしい事があるものか、それぢやこうしやう、君が歸つて來た時僕が僕の爲めに色々と質問を放つから君はそれに答へ得る丈の要領を得て來るのだね、ハヽヽヽ、そんなに眞面目な顔をせんでもよいよ」

恁んな風に各人からの注意と注文と希望を貰ふて自分は出掛けたのである、まあ什うしたらよいでせう。

◆動物の進化と住居◆

隱れ場所に對する吾等の必要は家を建設する樣になつた第一の動機である。此の必要は何より先づ吾等が溫血である爲である。冷血動物と稱せられるものには其必要はない。彼等の血順は其環境の溫度と一致するもので、之に伴ひて活潑に成り又不精になる。





訪れの記

市井の隠者ヴォルドさん

‖家相見君と僕の續き‖
‖Mさんとの珍問答‖

ゐむら

註に曰く、ヴォルドさんとは、決して外國人にあらず、さりとて、日本人の名前にもあらず、記者が第三次の訪問として、それがし家相見君に會せるとき、同君の顱頂光輝燦爛として、頗る世智の圓熟を語る、對座相接する處、閃光、記者の十一度近視眼鏡を壓して將にスパークせんとするの概あり、茲に於て、記者は之を電壓（ヴォルト）と名く、豈に必ずしも敬意を失するにあらざる也。

▲西撕の丁家相見君の凄まじき鼻息に、我建築協會第五部委員會より簡派の使命を果し得ず、次いで、北浪華の巷街に、M家相見君と、ブローベラーのように目まぐるしい程活動的な世間を他外（よそ）にして、珍問答に可惜半日をふいにせる記者は、最後の使命



を果すべく、某れの日、記者の所謂ヴォルド家相見氏を。河畔の僑居に訪れた。

▲路次口をすつと突き當つて、奈何にも都會生活の煩縛から駈け離れたかのよう閑寂な一構へ、けれども、遖に商賣氣の漂へる『何々館』の門燈と、例の白ペンキ塗りの電話番號札が相並んで、斯の陰寂な軒先きから見下してゐる態は、什うしても、澁茶の十德を被て俥賃でも値切り倒してゐるかのような氣持がした——記者の神經は、隨分仕事に忙しい癖に斯麼なつまらない事を思ふのかナ——と今此の筆を執りつゝ思はせた。

▲玄關の履脫ぎの處へ立ちて『ものもう!』と遣つたが、家中は森閑として何の答へもない、鸚鵡を眞似ること二三回、漸く『へイー』と氣の無さそうな返事をして、横の方からのそりと出て來たのは女中さんらしい。

『先生は!?』

『いやはりまツ……お上り』

記者は、案内でもすることかと躊躇してゐたが、一向そんな風もない。

『どちらへ?』

と訊いた。

『エ、どうぞ……其處からお上りツ、奥の方だす』

▲是では大分浮世離れが徹底してゐるな、と思ひつゝ、勝手につかく〳〵と奥の方へ上り込んで行つたが、其處は、腰硝子の障子を透して、剪栽の植へ込みを背景に八疊許りの室、平机を二三脚置いて、炭の香薫しく火の熾にいこつてゐる大きな丸火鉢が一つ放り出してある許りで、誰も居なかつた其處が『受付』といふ格であらうが、何んの事はない鄕社の社務所といふ格だ。暫くつくねんと待つ間に、すーツと入口の襖が開いて、衣摺の音も淑やかに記者の側に座つて目禮した一人の婦があつた。其風姿から推すと、什うやら藝者らしかつたが、ヴォ



ルドさん信仰の『亡者』の一人だと肯かれた好な一人の男、前垂れ掛けに縞セルの羽織まあ何處かの太物屋の番頭さんといふ風姿だが、亦も『亡者』來と思ひの外、彼れは机の前へきちんと踞座して、

▲雖て亦、そさくさと這入つて來た三十格

『お先きの方はどなた？』

と訊いた。記者は、

『エ、わたしです』

彼れはぢろりと記者を見遣つて、俄に態度も叮嚀に、猫撫聲も可笑しく、恰當、何處かの神社でお守りでも出すかのよう極り切つたと云はん許に、

『一代を鑑定なら五圓、一度なら二圓でムいます！』

▲記者は拔からぬ顏で、

『易をみて貰ふのではないのです、此度家を建てますので、家相をみて貰ひ度いのですが……』

ハイ〳〵、家相でムいますか……夫れなら、先生が二階に居らつしやいますからお上りになつて直々にお話し被下い』

記者は、前の女中さんと云ひ、此の男の答と云ひ、余り忽体振らない解放的な處あるには、ちよつと氣に入つた。

▲仍で取り付けからつか〳〵と二階へ上つて行つが、六疊許の中央へ大きなタープルを一脚据へて、六十許りな、品の良い、そして奈何にも好々爺らしいお爺さんが、傍らの瓶掛けに松籟を響かせて、香の立て籠めそうな木炭を差しつゝありしが、記者を見るや、

『さあー、どうぞ此方へ！』

物腰を却々叮嚀である。

『貴方が先生で？』

記者の間に肯きつゝ、

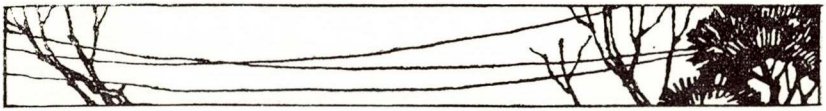
『何をみるのでございます？』

『エ、ちよつと家相をみて頂き度いのですが、是から建ようと思ひますので……』

斯く云ひつゝ記者は持參せるプランを其前に展開した。

▲被れは夫れを徐ろに見遣つて、

『實は家相抔は大阪へ來ましてから余り遣らない事にして居りますが、併し長崎に居りましたときには家相の方も隨分遣りまし



たからみて上げない事もありませんが、こういふものは研究をせねばなりませんから、今邊にといふ譯には參りませんなア』

記者は拔からぬ顏で、

『イヤ、それは勿論只今でなくても可いのですが、何んなら此の設計圖を御渡して置いても構ひませんが……』

▲彼れは好々爺そうに眦に皺を湛へて微笑乍ら、

『それでは、訂正の出來るように鉛筆でも一間を一寸の割で書き直して來て頂き度ふムいますな、それによりて、わたしが訂正してみましょう』

『エ、どうぞ幷う願ましょう』

▲是で幕となるのだが、彼れはターフルの抽出かしら、活版刷の小冊子を一冊取出して徐ろに之を繰り乍ら、

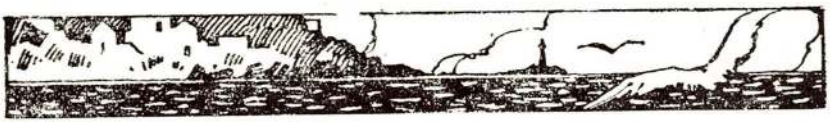
『一体、家相といふ事はちやんと家の相と出來る事が因果的に定まつてゐるのですよ、斯の書冊にも、例へば、主人の居間が什うであつたならば、斯ういふ災禍が起るとか、雪隱が斯うであつたならば、什うなるとか、もう何事も決して爭はれないですなア、わたしは從來斯ういふ事を種々實驗して居ります』

▲奈何にも因果律の大哲理にでも悟入したかのように、彼れは『何の不思議があるものヅか』と云はむ許りに記者の顏を打ち守つた、そして、更に言葉を續けて、

『わたしは、長崎から、K、E氏がM新聞の社長になつたとき一所に來たのですが、今は隱居で、斯うやつてまあ一道樂に遣つてゐるのですがな、金なんぞは要りません生活だけの金はありますから、金が欲しくて遣つてゐるのではありませんよ、是がわたしの隱居仕事ですからなア』

▲そういへば、成る程何處かに忻揚たるものがほの見へてゐる、記者は思ふに、此の世智辛い、そして、余程文化的に人の理想も進歩してゐる現代に、金などは要らぬとは、矢張り東洋派のオールド・タイプだなと。併し、彼れには此處にプライトがあり生命があるのであらう、と記者は玆意を拂ふべく肯いた。

▲此の問答の中にも、瓶掛けの湯のたぎりは松籟の響きも愈々妙へに、所謂市井の大隱を思ひ出されて、斯う思ひつゝも彼の頭顱を更に見遣れば、心なしか結迦扶座の羅漢式とも覺へられ、辭去尙其眦の微笑と共に、強く記者の印象溫乎たるものがあつた。（畢）





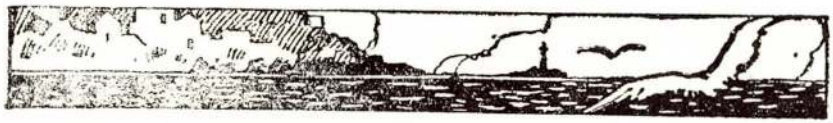
俳句

秋双選

後ろぐかと崖下闇の蛙かな　月斗
朝東風にぬれたる藁乾きゆく　同
推茸をつくる谷間や東風の吹く　同
二階の戸繰るより今日も東風日和　同
山の影が水田にうつる蛙かな　同
蛙ゆく水輪ひろごり流れけり　伏兎
とび落ちし蛙と別の心かな　同
稲荷山へ爪先上り東風が吹く　同
廂から舟へ干す竿東風がまく　宋斤
草踏んで蛙の闇に足ぬるゝ　同
樽を砂に肩よりづらし東風寒し　同
山におされて小村灯しぬなく蛙　草十
袋地に奥まり住みぬなく蛙　同
雪殘る比良稜々として東風の湖　同
蛙なくや傘着て月の大いなる　童
野を焼いて戻れば雨の蛙かな　同

〔藻苑〕

野遊びの疲れにあるや夜の蛙　同　苦水
植ゑし木は芽をふき東風にゆれてゐる　同
古き記臆をよび起されて蛙きく　同
苗床の覆取つて見し朝の東風　同　淡紅
泣かされた子が握つてゐる蛙かな　同
女工歸れば靜かな東風の野面がな　同
曇る空蛙が一つ浮いて來し　同
あけくれの蛙に生きて無口なる　同　蘭山居
ひこばえの白きがゆるゝ東風の空　同
曇り吹く蛙の闇にのまれ行く　同
畑土のぬくみに出でし蛙かな　同　廊如
梅林になぐれ烟や東風つよし　同
嫁に來て聞く初蛙さびしくも　同　草瓦子
下町へ働きに出る朝の東風　同
野に近き町の灯りて蛙かな　同
真の池に夕靄下りて蛙かな　同
辛夷動かぬ高き東風吹く山家かな　同　風石
弓射場の砂に來てゐし蛙かな　同
艫を押せば濁り深さや東風わたる　同　一歩
戸洩れ灯は水田にありぬ鳴く蛙　同　秋子
東風草に拂ひ落せり袂糞　同



東風吹くや尾をふつて除し朝の鳥　同　子
強東風に鳴る風鐸の青みかな　同　翠
追ふ牛に蛙次ぎ〳〵蛙を飛ぶ　同　笠
蛙浮く濁りの中の日ざしかな　同　音
東風ふくや芽ふくよかに沼芒　同　舟
日を浴びて樋の口の泡に蛙浮く　同　禾
勵きし田に雨きく夜頃蛙なく　同　草
蛙野や又も跣足で戻りし子　同　音
綿埃戸口にはたく蛙かな　同　舟
蓮されど芽かたき樹々や東風の庭　同　禾
東風の緑にこぼれて青き摺餌かな　同　葵一
餌に飽きて東風に羽叩く雞もあり　同　路
温き風雨運び來る蛙かな　同　路
東風吹くや二月の冷骨に入る　同　堂
芹伸びし池を濁して浮き蛙　同　蘇風
藥蛙採る人に夕日の眞赤なり　同　窓
内海に舟動かざる東風の晴　同　竹
東風の晝畑の蜜柑の覆取る　同　一稻
東風空や梅檀の實に微動あり　同　兼山
東風心たゞに出て見る野路かな　同　士
東風の濱大風靜かに下しけり　同　千
街路樹に東風吹けり高き建築場　同　茅花
雨あがりの山近く見ゆ東風吹ける　同　紫峰
晒場の布眞白なや東風に吹く　同　螺堂
野蛙や雨夜の空を黃うせり　同　三桠
雨の中に蛙の聲を聞く夜かな　同　青茅
雌の椿日陰となりて東風強し　同　水壺
便船へ案内さるる東風の濱長し　同　骨人
蛙の鄕に籠りて心嬌めんとす　秋刀魚
女騎りになれて蛙を淋しめり　月四　同

古池の泡立つ日なり木の芽風　秋　双
庭廣く小鳥がこぼす木の芽哉　同
畑ともつかぬ空地の木の芽かな　同
庭木の芽に吹く川風の快よし　同
普請なりぬ裏山木の芽一齊に　同
氷解くる日ざしとなりぬ鼓の中　同
氷浮く野川のうるみ鳥飛べり　同
水鄕の雨の一日や氷浮く　同
氷流るゝ鴨綠江の壯觀よ　同
氷解けて筧の音の夜となりぬ　同

俳句投稿を歡迎す

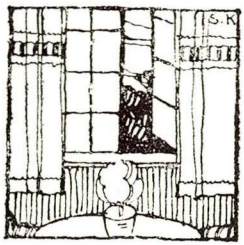
一、題　隨　意

二、締　切　毎月十日

三、選　者　芦田秋双宗匠

秋双宗匠は、浪華俳壇に於ける重鎭にして、嚴に一旗幟を樹て、其錚々の名既に世に定評あり。

四、賞　三首を限り聊か賞を呈す。但し選外と雖も更訂を加へて本誌に掲載すべし。



資料

大阪市接續町村下水道調査綱要（第二輯第十一號より續）

（前號迄既出）
▲總說
▲各說
豐崎町
中津町
鷺洲町
鶴橋町
中本町
城東村

鯰江町

東成郡鯰江町は市の東北隅北區相生町に接續し北は古市榎並に東は榎本南は城東村に隣す戸數約三千二百人口一萬二千五百八十九（大正四年末）鶴橋中本両町に亞ぐ大部落にして分て今福蒲生、新喜多、布屋の四大字とす府令第六十九號により汚物掃除法の準用區域に指定せらる只布屋は遠く楠根川上流に位し僅々四五十戸の農家集合に過ぎず

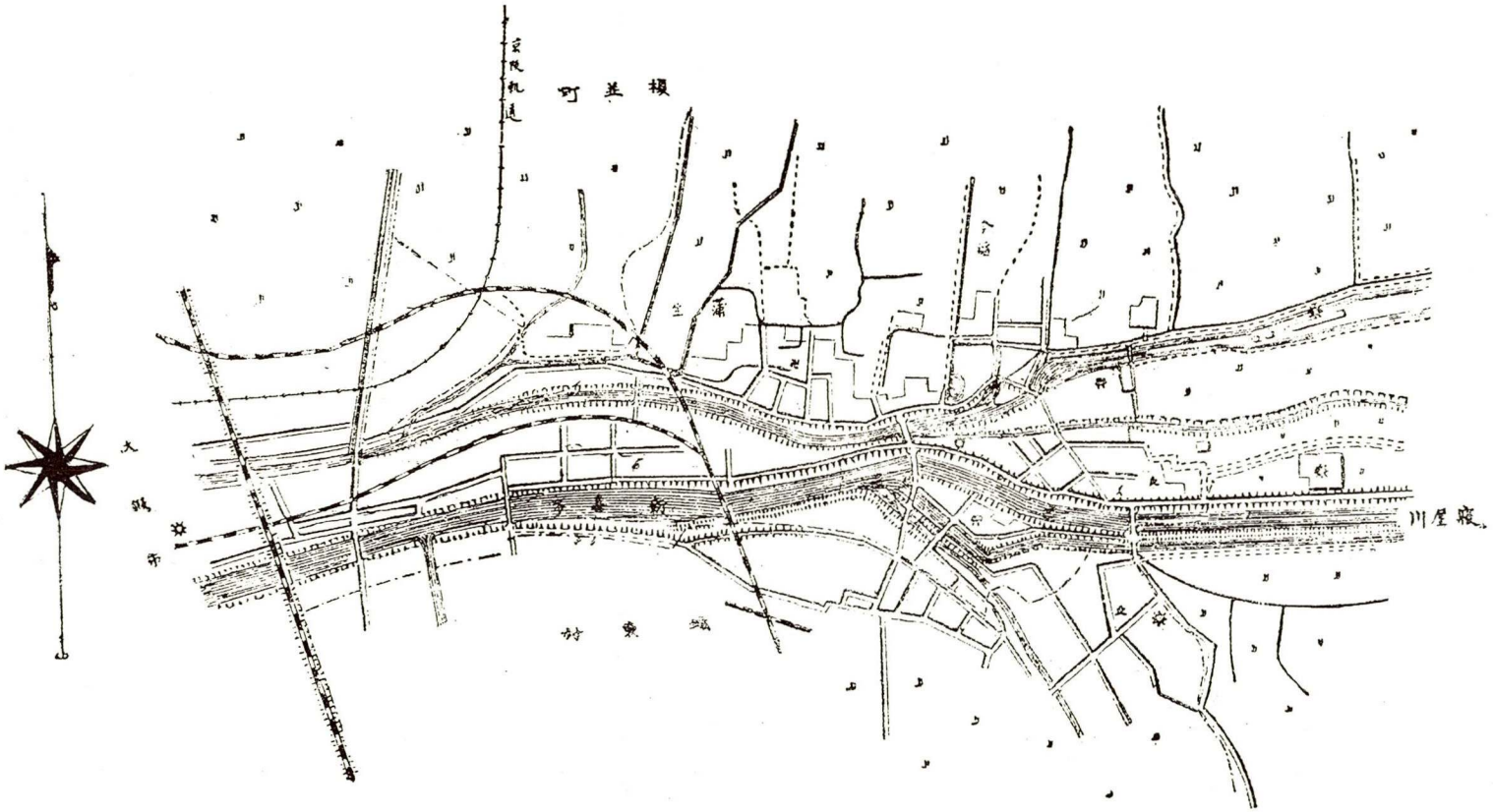
新喜多蒲生今福の三字は近年著しく膨脹發展をなし各種の工場筍立し特に川北電氣企業會社等の設立せるため大正三年には人口増加千に對する一八七●八の高率を示すに至り人家櫛比し恰も市街の狀態を呈す鯰江寢屋の二川は中央を東より西に縦斷し市に入り淀川に合す河幅鯰江は

約十間寢屋之に倍す両岸堅牢傾斜適度流勢先可なり北河内郡より來る灌漑用水通稱中井路五箇井路門眞井路と古市村に發する田用水路十五町井路とは今福橋上流に合して鯰江川となり榎並町の田用水榎並井路は樋上橋に於て市郡界を流るゝ西九箇井路は城東線鐵橋の下流に於て等しく鯰江川に入る寢屋川は遠く北河内星田村に源し當町に入るや新喜多橋下流に於て並流せし六郷川放出井路と城東村天王田より北折せし楠根川とを併合す

前記鯰江寢屋両川の沿岸人家の排水は直に家用下水により注入するを以て先づ難なく行はるれども蒲生及今福の農村時代より存ずる縱横無數の用惡水路は變じて下水道の狀態となり両岸水底共もと其目的に非るが爲疏通不充分にして到る處汚泥停滯又は門眞中井路等其適例たるべし茲に特記すべきは水經變更のために生じたる影響なり

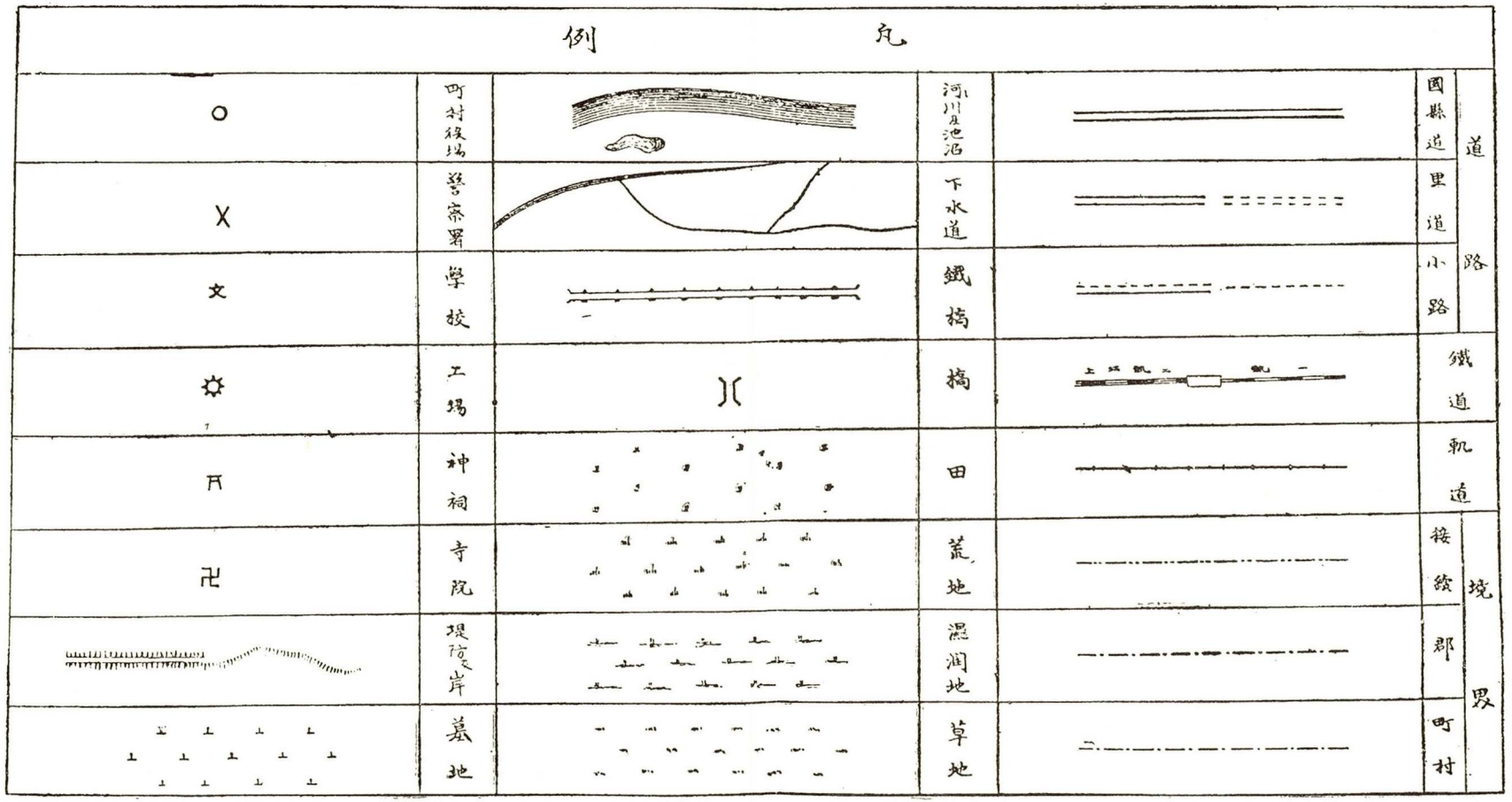
即元來中井路は今福より西へ十五町井路交叉して蒲生に入り數箇の枝葉に分れてより宮田四反田樋面北向の四小字を潤ほし再び合して鯰江川に並流し蒲生橋に於て同川に合流せしものなりき、偶々今福蒲生両部落の爭は野田街道を以て双方の灌漑用水を根本的に二分し今福は十五町井路以西に一滴の用水をも與へざることゝなり爲に中二ッ目四ッ目、五平、十五町其他幾多の田用水は盡く一の堰を以て鯰江川に連絡するに至り十五町井路は若干東折逆流すべきの止むなきに至りたる結果該部分約三十間を不潔不通となしたるのみならず溝幅の狹少と家用下水道の連絡不完全とは爾後益々增害の憂あり而して両部落紛爭の爲最も損害の大なるは水流を斷たれたる蒲生東部にして田用水路は漸次乾涸し塵芥汚泥水底を埋め凹凸を生じ勾配を失ひやがて所々水路を絶ち細長き溜水の斷續するを見るに至り甚しきは全く水路を消滅せしめたる箇所さへ生ずることゝなれり之が一部の復舊連絡の爲下水溝を築造したるものは即小字北向に於て秋岡氏邸北邊により此の附近約三四十戸の汚水を集むる幅二尺延長十四五間の一條あるの

東成郡鯰江町

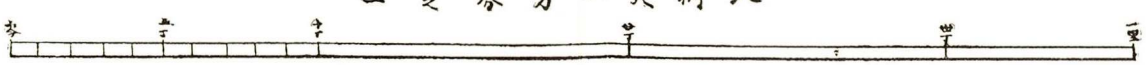


大阪市接續町村下水道略圖

凡例



比例尺一万分之一



みにして尚全たしと云ふべくもあらざるも舊中井路の殘影として察するに足るべきものなり蒲生の發展人家增加盛なる今日中井路の復舊連絡を目的とする下水道の根本的浚渫は目下の急務たると共に鯰江町に於ける一問題たるべきも宜しく私の紛爭を緩和し公の利益を增進するは町民の義務なるべし

大字今福南部八箇の井路の両岸戸數に比し家用下水溝の不完全なるものゝみによるは姑息なるべく宜しく土管等を敷設するの要あるべし

明治四十三年蒲生に編入せられたる野田は西九ケ井路と榎並井路との中間地區にして京阪電車蒲生停留場を中心として長足の進歩をなせり關西支線々路北方の下水溝延長約二十間の設置と榎並井路が樋上橋を開きて阻塞することなきに至りたるとにより非難なき宅地となれり

次に大字新喜多に於て通稱中通りと稱する路幅二間の東西に通ずる道路には東西約七町に亘り中徑一尺二三寸の土管の敷設あり大阪市東區玉造早瀨太郎三郎の私道なるを以て同人の費用を以て毎年二回之が浚渫をなすと云ふ今より八年以前の設置にかゝる其の浚渫を容易ならしむる爲要所に會所あり其疏通を便ならしむるため南北に通ずる同樣の土管と連絡す各戸の汚水は小土管により之に注入し盡く寢屋川右岸に排出す就中朝日橋脚下に落つる土管を幹線とす

通稱濱通りと云ふ道路にも前同樣の土管東西に約二丁敷設しありて等しく相互の連絡と疏通を計る成績頗る良好なり

終りに寢屋川の右岸喜澤は鴫野に接する小字にして東西に徑約一尺の土管延長二丁余の敷設あり北折して喜澤橋と新橋の中間に於て楠根川に落ち可なり疏通せり

要するに本町下水道の狀況は大部良好にして土管の敷設と鯰江寢屋川の貫流とは相待ちて排水を便ならしむるも今福蒲生間の紛爭の爲に蒙る阻塞を復舊するに非んば以て理想に近くこと得て望むべからず

鯰江町既往五ヶ年間人口及死亡率調査表

町村名	人口死亡別	明治四十四年	大正元年	仝二年	仝三年	仝四年	計	人口千ニ對スル死亡率
鯰江町	人口	九、九八一 一四〇	一〇、一三一 一六七	一〇、二八一 一五二	一一、一二一 二一一	一一、五八九 二七三	五五、一九四 九四三	一七

鯰江町既往五ヶ年間人口及傳染病患者率調査表

町村名	人口患者別	明治四十四年	大正元年	仝二年	仝三年	仝四年	計	人口千ニ對スル患者率
鯰江町	人口	九、九八一	一〇、一三一	一〇、二八一	一一、一二一	一一、五八九	五五、一九四	一
	患者	一	一一	一三	一四	一六	五四	

鯰江町既往五ヶ年間傳染病患者死亡及人口調査表

年次		赤痢	コレラ	腸チフス	パラチフス	ヂフテリヤ	患者數	死亡數	人口	前年ニ對スル人口増加率	人口千人ニ對スル患者率	人口千人ニ對スル死亡率	患者百人ニ對スル死亡率
明治四十四年	患者	一					一		九、九八一		〇・一〇		
	死亡												
大正元年	患者	一		一			二		一〇、一三一	一五・〇	一・〇九		
	死亡												
仝二年	患者			一		七	三		一〇、二八一	一四・八	一・一七		
	死亡												
仝三年	患者	一		二		一	四		一一、一二一	一八・八	一・一五	〇・三八	二八・五七
	死亡												
仝四年	患者	六		一		一	八	一	一一、五八九	三〇・八	一・二七	〇・三九七	三一・二五
	死亡	三											
計	患者	八	三	四	二八	四	五四	九	五五、一九四		〇・九七	〇・一六三	一六・六六
	死亡												



時報

大阪市都市計畫(三)

第一章　高速交通機關
第二章　鐵道及軌道
第三章　郊外地の開發
第四章　市內道路
第五章　舊市の路幅整理
第六章　路面の鋪裝
第七章　河川及運河
第八章　築港の擴張

第四章　市内道路

我大阪市内の道路は明治三十年接續町村編入以後の開發に係る新市に對して最も果斷の勇を振ひ一擧に新系統を樹立して嚴に之が敢行を期し若くは新開地將來の基準を確立して嚴に其の施設を拘束するの要ありと雖も舊市に在りては寧ろ在來の道路系統を重んじ特に交通の必要餘義なきものを選んで之が擴張若くは延長を斷するの外は成るべく路幅の整理と路面の鋪裝とに俟ちて着々其改良を實現せしめんに如かず蓋し彼の歐米に行はるる對角路線若くは環狀路線の如き理に於て頗る適切なるが如きも然も新市街建設の場合は知らず之を舊市に適用せんには却て角を矯めて牛を殺すの憾なくんばあらず。

街路の新設擴張に對する路幅は左の等級表に準據すべく路面電車を通ずる場合の最小副員は之を十間に限定せんとす蓋し十間幅と云ふも此內軌道敷三間半を除かば其左右僅に三間許を殘すに止まり自動車一輛人力車一輛の交通以外には唯一間未滿の餘地を步行者に剩し得るに過ぎず無論步車道の區別をだも爲すに適せざるなり十間道路すらも實に此の如し然るを不幸にして本市には八間道路を以て電車を運轉せるもの其延長少からざるあり即ち此の如きは現に日夕交通混雜の不便に堪へざるのみか今後自動車交通の頻繁を加ふるに方り頗る其危險に寒心せざる能はず彼の所謂南北線及び九條中之島線の一部の如き遂に忍ぶ可けんや次に市內多數の既設幹線たる十二間道路にありては稍步車道を別つの餘裕あるも然も其車道は各側辛うじて自動車二輛を通ぜしむるに止まり步道は僅かに九尺幅を許し能ふべきのみ即ち若し步道として二間幅の一層適切なるを看取するに於ては自から十二間道路の更に有利なる所以を認めざる能はずされば此以上の高級路線は之を別とするも路幅に對する本市將來の新標準としては路面電車に對して十間、及び十三間の二階級を採り彼の八間道路に至りては全く電車と關係なき荷馬車專用其他の目的に充つべく街路新設の場合は固より其擴張に方りても亦成るべく此方針に準據せんことを要す。

第一表　街路等級表

第一等	幅員二十四間以上
第二等	幅員十六間以上
第三等　第一類	幅員十三間以上
第三等　第二類	幅員十二間以上
第四等	幅員十間以上
第五等	幅員八間以上
等外	幅員八間未滿

茲に右の方針に基く調査の結果として新設又は取擴を要する幅員八間以上の市內幹線道路として通計五十二線を選定するを得たり（第二表參照）此總延長五萬一千六百二十七間にして之に明治三十六年以來本市電氣鐵道敷設の爲擴張せる幅員十間以上の道路延長三萬二千四百七間を加ふれば總計八萬四千三十四間となり東京市に於ける明治二十一年以降大正五年に至る二十九年間の市區改正施行線路中幅員八間以上のもの延長七萬九千六百四十六間に比して約四千四百間を超過すべし。

第一等道路

御堂筋線

第二等道路

川口線▲九條高津線の一部

第三等道路　第一類

南北線の一部▲難波木津線▲阪堺線▲松屋町筋線▲阪神國道線

第三等道路　第二類

堂島十三線▲梅田十三線▲城南線▲上本町六丁目線▲日本橋筋線▲湊町直通線▲福崎町線

第四等道路

長柄橋筋線▲梅田天滿線▲野江線▲天滿蒲生線▲谷町上本町線▲法圓阪町線▲玉造延長線▲東西線▲上本町九丁目線▲奈良街道線▲阿部野街道線▲木津霞町線▲西濱線傳法難波線▲同上延長線▲泉尾線▲野田傳法線▲櫻宮線

第五等道路

中之島十三線▲安治川北通線▲木津津守線▲千島泉尾線▲新千歳平尾線▲新千歳鶴町線▲千島町線▲千島平尾町線市岡木屋町線▲福崎石田町線▲田中町線▲新池田町線▲九條市岡縦貫線▲春日出線▲恩貴島南ノ町線▲島屋町線▲西島町線▲常吉町線▲海老江線

表路線の中には固より本市交通の大幹線として新設取擴げを要するもの尠からずと雖も其他或は電車線の連絡普及を以て主たる目的とせるあり或は荷馬車の交を旨とせるあり又或は稍局部的に新市開發の方針を定むるに出でたるものあるを以て一々採擇の理由を詳悉するの煩に堪へず以下特に一般交通系統の上に關係少からざるものを選びて之が説明を加へん。

（一）御堂筋線

本市の公館地區が將來中之島の新市廳を中心として其周圍に展開せらるべきは最早何人も之を疑ふの餘地なし從つて北に大阪驛より此公館の地區の中心を經淀屋橋を越に御堂筋を南下して難波驛前に達し以て南北二大交通中心地點と市の中心地區とを一直線に連絡すべき縦貫大道路が種々の意味に於て本市最高級の機能を達成すべき所以は之を縷説するを竢す故に本路線は是非共之を永遠の必要より觀して大大阪市の中央街路たるに恥ぢざる幅員と體裁とを具備せしめざる可からず審議の末之を二十四間幅に決せり即ち街路の中央に於ける電車軌道敷の兩側に夫々自動車の二列と荷馬車の二列とを並び馳せしむるの外別に一列の車馬を停留せしむるに足る寸法を採つて車道幅とし添ふるに各側三間半の歩道を以てせるか故に大都市中心の高級路線としては略合理の經濟的幅員たるを得んか惟ふに交通上是より小なる路幅の好ましからざるは勿論ながら又此以上に大なるものは其目的寧ろ數條の植樹地帶を點綴して街路の美觀を添ふるの趣旨に出で本路線の場合必ずしも之に倣ふに及ばじ

（二）南北線及日本橋筋線

御堂筋の中央街路を挟んで南北に是と並走するもの東に堺筋線あり西に南北線あり共に市の肺腑たる商業地帶を貫き交々相扶けて本市南北交通の要路たるも然も南北線にありては渡邊橋以南の現在幅員僅に八間なるに過ぎず又堺筋線にありても其南への延長たる日本橋筋三丁目より五丁目の間は是れ亦八間幅たるに止まり何れも路面電車以外車馬の往來に充つべき餘地幾許も存せず交通混亂の障碍最も甚しきものあるを以て須らく此際之が擴張を斷行して中央市街の面目を一擧に一

新せしおるを要す但し日本橋筋の路幅は之を其以北に準じて十二間に止むべきも南北線にありては其前途益々南北縦貫の意義を深うし即ち南には難波木津線を経て遠く市の南郊を貫き堺市に達する新幹線と連り北は大阪驛の改築につれて北野に延び十三橋を渡りて北郊能勢街道に合する直路たるべきが故に其廣きを利とし規格に遵ひ十三間幅を採れり。

(三)堂島十三線及西濱線

南北線と並行して西に堂島大橋より難波櫻川町に至る市電第四期路線は北に堂島大橋以北との連絡を講ぜざる限り遂に其利用の全きを得難く南には益々路線を延長して以て南郊開發の直路たらしむべきに如かず故に北は宜敷堂島大橋を越えて上福島方面を貫き鷺洲町を經て中津町に至り以て十三橋よりする北郊幹線道路との連絡を期すべく南は難波蘆原町を一直線に南下して西濱を貫き更に木津川の流れと並行して其左岸一體の工場地域に對する幹線道路たらしむるの要あり道幅は蘆原町以南を十間に堂島大橋以北は十二間に定むるを適當とすべし

(四)長柄橋筋線及松屋町筋線

北に長柄橋よりする北郊一圓の交通を受けて之に南に天王寺公園に結び若くは惹て南方郊外地に達せしむべき要路としては宜敷天神橋筋に沿へる電車線路を南北に延長すべく即ち北には天神橋筋六丁目以外長柄橋に至る十間道路の延長を圖り南には天神橋を渡り松屋町筋を一直線に南下して天王寺公園前に達する路線を十三間幅擴築せざる可からず。

(五)中之島線の一部

本市を東西に貫通する第一の幹線として此區間の交通狀態は到底尋常を以て之を律する能はずされば今日之を十六間道路に擴張して端建藏橋に及ばしむるの急務たるのみならず別に川口町に起り九條の中央を縦斷して市岡町田中町に延びて築港線に達する幅員八間の新路線を設定して之が副道たらしめざる可からず但し端建藏橋以北に至りては自から其交通系統三分せられ一は船津橋を經て西野田方面を指し一は御馬車を主として大阪驛への直路たる安治川北通りの新設八間道路を採り他は即ち人車の交通を主とし堂島川南岸に沿うて大江橋方面に向ふ可きが故に端建藏橋の改築を機として地形上能ふ限り其橋幅を擴め且其附近を整理するに於ては其以北に亘り強て道路擴張の要を認めず。

(六)傳法難波線

新市に屬する西區の一體は大小河川の爲に其地形數多に分裂し勢ひ箇々に縦貫路線を以て舊市との交通に資せるも横に是等を連貫すべき手段としては一路僅に九條高津線を存するに過ぎず之を將來の必要に察せば更に一幹線の設定を要望せざる可けんや即ち北に尼崎市を發して直路新淀川尻を渡り傳法四貫島春日出を經て安治川に達し對岸市岡町を貫きて尻無川を渡り三軒家を東して木津川を越え更に難波の中央を一直線に難波驛の南に出で以て本市の中央大街路と連絡せしむべきなり但し此間大河の横斷を以て問題とすべきも該河の連絡は姑く完全なる渡船設備に竣つべきものとし其以外に於ける幅員十間の路線を設定して部分的にだも尚且着々交通の利便を進め以て最後の理想

的連絡を將來に期すべし

（七）阪神國道線

本線は福島中五丁目に於て現在の福島線より分岐し阪神電鐵線路の南に沿ひ野田停留所に北折して西成大橋を越え稗島、歌島、佃島を經て尼崎に達するものにして其の幅員は西成大橋に至る部分を十三間とし其の以北を十間とすべし大橋の幅員は八間以上に改築の要あり。

（八）梅田天滿線

梅田角田町に起り東走して近く市の住宅經營地たるべき舊監獄敷地跡の南端を貫き天滿橋筋四丁目を南して空心町二丁目に出で既設電鐵線路と連絡して以て此方面に於ける東西縱貫道路の不足を補ひ且つ前記住宅地區の利便に供せんとするものにして其の幅員十間とす。

（九）天滿蒲生線

空心町二丁目より東して舊泉布觀の南端を經略一直線に淀川を渡りて東野田町を横貫し蒲生に於て古堤街道線及び玉造蒲生線と合するものにして其幅員は十間とす本線路は西に空心町二丁目に於て現在の福島天滿橋線と連絡し本市北部の中央を東西に横貫する大動脈を以て目すべく其の利用の大なるは勿論東郊開發に資すること亦少からずと認む。

（一〇）野江線

電鐵梅田善源寺町線の内櫻宮線舊水源地東北隅に起り東走して野江に出で京街道線を連れて南し蒲生に至りて天滿蒲生線に合するものにして其の幅員を十間とす本路線は以て市の東北郊開發に利すべきは勿論一面には天滿蒲生線と相俟ちて電鐵既定路線一部の修正に充つべし其然る所以は畢竟該既定計畫たる此方面の地勢に照して其規模狹小に失し其布置妥當ならざるに察し之を大局より觀道路系統の整齊と共に主要幹線の連絡とに就て稽査したるに出づ。

（一一）城南線

谷町三丁目に起り大阪城の南に沿ひて東走し官線城東線に至るものにして將來は更に郊外へ遠く放出停車場の南に延び南北縱走の假定縣道に達せしむべし本線路は西に谷町三丁目に於て現在の靱本町線に合し市の中心區地に至るが故に其利用の甚大なるを期すべく更に他日師團移轉の曉に至らば自ら該方面に於ける新住宅地區の中心道路として一段の價値を加へん其の幅員市内は十二間郊外は十間とすべし。

（一二）上本町六丁目線及上本町九丁目線

一は上本町六丁目より大阪軌道線に沿ひて東し霞町玉造線及官線城東線を横斷して暗越奈良街道線に連絡し他は上本町九丁目より東し天王寺勝山通四丁目に出で霞町玉造線及官線城東線と交叉して生野村に出で以て東郊縱貫の豫定幹線に連絡するものにて共に市内と東郊との交通上必須の施設たるのみならず上本町と霞町玉造線との軌道連絡上特に其必要を認む路幅は前者は十二間後者は十間となすべし。

（一三）既設電鐵路線の擴張

八間幅を以て現に電車を通ぜる路線の内南北線及九條中之島線の一部に對する擴築に就ては既に說く處の如しと雖も外に谷町線及上本町線の全部東西線玉造線西道頓堀天王寺線及曾根崎天滿橋線の一部の如き交通幹線として十間

幅に擴築の要あり但し交通の狀態に察せば其實行には尙數年を緩うし能はざるに非ず故に是等は先づ其建築法線を設定して豫め家屋の新築改築の規準たらしめ其着手に對しては相當の猶豫期限を附するを以て寧ろ適當の措置となすべし。

第五章　舊市の路幅整理

由來舊市の道路には其幅員に就て開府以來の制定ありと雖も後に軒下大道と稱し行人の來往を妨げざる限り道路敷に亘りて軒先の掛出しを認容したりし結果漸次道路敷を侵して家屋を建設するの弊を生じ當時の大阪町奉行數次之が取締を布達せしも實績多く擧らざりしが如く遂に下りて明治四年大阪府達を以て爾後家屋の新築又は改築の場合は必ず道路境界線迄後退して建築すべき旨を規定するに及び初めて纔かに整理の緒に就くを得たり之が進捗を期すべく大正六年度以降軒先切取に要する見積費用の半額を家屋所有者に補給し緊急を要する部分より序を追ひて幅員整理を遂行するに決し爾來之が實施を續けて今日に至れりと雖も固より此の方法たる姑め繼續年度を定めず只年々普通經濟の餘力により進行を圖れるに過ぎざるを以て其結果は幾分整理の速度を增加し得たるに止り未た滿足なる實績を擧ぐるに至らず是特に都市計畫事業の一部として舊市の全部に亘り迅速に軒先の切取整理を決行せざる可からざる所以なり。

舊市の道路敷を侵せる建物坪數は自然改築に因り絕えず異動するを以て正確なる數字を定め難きも大正九年度以後に於て尙約七萬一千坪を算せん故に本計畫に於ては此內擴張路線に該當すべき部分並に事業進行期間中に自然減少すべき推定坪數を控除し今後整理を要する面積を六萬七千坪と見做し軒先切取に伴ひ街角地を買收するものとし交通上緊急を要する部分より順次之が遂行を期すべきなり。

第六章　路面の鋪裝

市內道路の新設又は擴張に方りては必然是と附帶して鋪裝設備に出づべきは勿論能ふ可くんば進んで之を全市の道路に普及し且速に其遂行を睹ざるも一擧に其全部に亘りて之を實施するに當らず乃ち先づ市內主要路線の改良を程度として第一期鋪裝工事の範圍を定めんには恐らく左の標準に據るを適度とせん

一、市區改正道路の全部

二、路面電車敷設道路の全部

三、舊市にては幅員三間以上の道路全面積の約四分の一

四、新市にては道路全面積の約十分の一

五、築港埋立地にては幅員十間以上の道路及び貿易地帶內の要路是によれば市內に屬する第一期鋪裝面積合計八十六萬六千坪にして市內道路總面積百六十七萬三千三百坪の約五割に該り略以て全市の面目を一新せしむるに足らん、而して之に洩れたるものは第二期工事として更に、一般的普及の方途に出づべきや論なし、

路面の鋪裝工法に就ては木塊、石塊、アスファルト、混凝土、ターマカダム、マカダム等を以てするの一般なるも各優劣あり宜敷く街路の性質に見交通の狀態に察して路線毎に適當に之を選定せざる可らず即ち交通頻繁なるか又は美觀を主とする街路にありては木塊鋪裝の最も彈力性に富み且頗る耐久性あり併せて通行に快感を與へ摩損に不均一の虞少きを採るべく更に木塊の形狀寸法等に就て深く拘

所泥するなくば恐らく其利用の範圍を相當擴大せしむるを得ん本市の一等乃至三等道路の如きは實數く此方法を以てせざる可からず次にアスファルト鋪裝にありては歐米に於て頗る其利用の大なるに拘らず我國既往の實績よりすれば施工後數年ならずして往々其强力性を失ひ表面變質して脆弱爲すなきに至る此如きは是れ施工の不備に因るか將た品質の劣惡なるが爲が未だ得て辨せざる雖も交通頻繁の道路には寧ろ其使用を避くべく混凝土マーマカダム其他の鋪裝と共に四等道路以下に於て更に其比較を重ぬべきならん獨り石塊鋪は其質堅牢にして持久的なるを以て光熱の反射並に車馬の反響は忌むべしと雖も荷馬車道としては恐らく最も經濟的なるを得べく殊に本市に於ては其利用尠からざるべし。

鋪裝工事の遂行に方りて特に公私の理解を得て或程度まで同時に地下並に路上工作物の整理を遂げざる可からず殊に新市にありては下水道幹線の配置を先にせざる可からざる關係上鋪裝の施設に幾多の困難あり爲に或は鋪裝を路幅の一部に止め或はマカダム式を選ぶの外なき等實地に就て熟考すべき點甚だ尠からずと雖も一般に歩道の設けある場合は成るべく其地下を利用して數次發掘の要ある各種の配給支線を收め若くは進んで共同收容溝渠の設備に出づべく歩車道の別なき場合は路側一部の鋪裝を省くか又は之を輕易として特に埋設物の用途に充つるの外なからん。

第七章　河川及運河

我大阪市は流石に水の都なり五十餘を數ふる大小の河川運河は到る所に市内を貫流して齊しく水運に便ぜざるなく其總延長廿二里二十丁を算し此水面積百六十七萬三千坪にして殆ど本市全面積の一割に及ぶ又旺ならずや大正五年度以降市内枝川改修事業として百三十餘萬圓の繼續費算を以て護岸の修築整理並に河床の浚渫を進めつゝあるも之を都市計畫の目よりせんには未だ以て甘んずべきに非ず然も疏水の利と水運の便と併せ之を全うして水の都の眞生命を發揮せんが爲には一層の積極的方針に出で以て其迂曲を匡し其深水を增し若くは必要と共に河幅の擴張乃至新川の開鑿を決行せざる可からず。

市内河川管理の統一は即ち河川其のもゝ生命の爲たり將た本市自體の生命の爲たり都市計畫上特に此感を深うせずんば非ず。

茲に先づ最も見易き水運上の利便に稽へ若は土地開發の必要に察して本計畫に採用せる若干水路の改修若は開鑿を表記し且其重なるものに就て之を說明せん。

新　鑿

▲木場川（木場川瀧津大橋下流より西野田新家西之町を經て六軒家川に通ず）

▲今宮運河（南高岸町より南海鐵道に平行し今宮町に至り西折して木津川に通ず）

改　修

▲木場川（蘆分橋より瀧津大橋下流に至る）

▲堂島堀割（柳橋より大阪驛構内入堀に至る）

▲猫間川（生野村より平野川合流點に至る）

▲平野川（北百濟村より寢屋川合流點に至る）

▲寢屋川（德庵より天滿橋上流に至る）

▲東橫堀川（今橋より本町橋に至る）

▲西橫堀川（土佐堀川より道頓堀川に至

る）

▲江戸堀川（撞木橋より西北橋下流に至る）

▲京町堀川（東上橋より茂左衛門橋に至る）

▲海部堀川（阿波堀川より京町堀川に至る）

▲阿波堀川（阿波堀橋より豐橋下流に至る）

▲薩摩堀川（鳴門橋より島津橋下流に至る）

▲立賣堀川（新一橋より高橋下流に至る）

▲堀江川（堀江橋より水分橋に至る）

▲難波入堀川（浪芳橋より入船橋に至る）

▲鰹川（入船橋より船出橋に至る）

▲高津入堀川（船出橋より星池橋上流に至る間及道頓堀川より増井橋に至る）

▲百間堀川（鰻島橋より江島橋に至る）

▲古川（親和橋より國津橋に至る）

▲曾根崎川（出入橋下流より堂島川に至る）

▲長堀川（東横堀川より木津川に至る）

▲鯰江川（今福村より備前島橋に至る）

▲十三間川（萬歳橋より大和川に至る）

▲天滿堀川（樋之口下の町地内にて淀川より分岐し堂島川に至る）

▲逆川（安治川より六軒家川に至る）

（一）堂島川土佐堀其他の幹川

最に内務省の淀川改修計畫を以てすれば天滿堀川より下流の堂島川及び東横堀川以西の土佐堀川に於て沿岸整理の餘地尚少からざるに拘らず政府として之が遂行の意圖なきものゝ如く爲に舊態依然たる河岸の亂雜不揃を極むるのみか道路沿の部分は往々護岸の崩壞土砂の墜落に委して又顧みる所なし本市の中樞地區として殊に其美觀を誇示すべき大河にありて多年斯る不體裁を呈するもの能く慨ぶ可けんや宜敷之が管理を市に收めて直に其整理を決行せざる可らず況んや整理に伴ふ埋立地積一萬三千坪は以て道路の擴張共同物揚場の增大に資すべきのみならず別に河岸地を新設して好箇の一財源たらしむべきをや木津川の改修及之に伴ふ沿岸の整理の如き又齊しく共急務たるなり中津川、傳法川の整理に伴ふ埋立計畫の如きも之を都市計畫上の見地よりすれば當然市の手に收めて以て郡部に跨がる市區改正事業の好資源たらしむべく殊に安治川下流松ヶ鼻渡附近湊屋町石田町地先突出部約七千坪を切取り其河幅を百間以上に擴大して以て水運に便し海難頻出の危險を除くの急途に充つべく其對岸六軒屋川との合流點に於ける劍先切り取の如きも亦斯かる財源に俟ちて初て其實行を期すべし。

（二）木場川

近來尼崎市が工業地として顯著なる發達を爲してより以來同市より傳法閘門を經て本市に來往する艀舟の數著しく增加し且市の北方新淀川に沿へる長柄運河沿岸一帶の地域が工業地として開發せらるゝ結果同運河と安治川方面との水運亦特に囑目に値するものあり而して是等の方面と市の中心部との連絡は一に六軒屋川若くは逆川を以てするの外なく然も前者は甚しき迂路となり後者は幅員甚しく狹小に失し共に航行の不便と混雜とを免れず加之將來正蓮寺川傳法川の沿岸一帶の發達を以てせんには到底現狀の儘に放置する能はざるを以て之れと適應すべく木場川筋を幅員十五間に擴張し鼠島の南端に近く中津川と連絡して水利の增進を期すべし。

（三）今宮運河及難波入堀川

天保山運河及び千島町運河による安治、尻無、木津の三川を連絡する水路と相應じて更に東に木津川左岸の小雜畑に起り

今宮町を經て高津入堀川に通ずる今宮運河を開鑿し進んで高津入堀の一部並に難波入堀を擴張して道頓堀川に達せしめんには一面以て湊町驛との連繫を保つは更なり其沿岸一帶に工場地域を開發し併せて高津入堀の疏通を善くし且十三間川との連絡を通ずる等其利固より尋常に非ず水路の幅員は之を十間乃至二十五間とすべく其總延長約二千二百間たり。

（四）堂島堀割

現在大阪驛構内と堂島川とを連絡する重要の水路として鐵道貨物の水運に依るも其幅員甚だ狹小にして往々舟行の杜塞を見る況や將來驛の擴張に伴ひ又北方食料品卸賣市場の新設を以てすべきをや宜敷鐵道院と協力して能ふ限りの擴張を期すべく此延長二百五十間にして少くとも二十間内外の幅員を有せしめざる可からず之を本市東郊の開發に察し更に其衛生的必要に鑑みんには猫間川平野川二川の改修の如き頗る其急務なるを見る寢屋川尻の附替並に不用水面の埋立を決行し是等河水を適當に淀川本流に導き能ふ限り市内枝川への混流を避けて其汚濁を輕減するに力め併せて有利に右の埋立地を處分せざる可からず但し事や一市四郡に跨がり水利の關係上由來其解決を難んずるの狀なからずと雖も之を都市經營の大局より打算し來らんには疏水と水運とを先にせずして此方面の開發さるべき機會寧ろ絶無なるべきを如何。

（五）猫間川平野川及寢屋川

（六）市の西部方面に於ける主要運河

木津、尻無、安治、正蓮寺の四大川に依りて抱擁せらるゝ地域内の運河に就ては夙に民間各種の起業者に於て相當の計畫を立て府市の協賛を經て逐次其遂行に任ずるのみならず此方面土地開發の手段としても亦必然其實現を期待し得べきを以て何等市の事業としては新に此間に企畫するの必要を認めず茲に其幹線の目すべきものを掲げて配置の一般を示し併せて其の遂行を律せん。

▲安治川運河（天保山運河難波津橋より北走し湊屋町地先にて安治川に合す、安治川土地株式會社）

▲市岡運河（石田町より市岡町に至り安治川尻無川を連絡す、市岡土地株式會社）

▲千島運河（新千歳町より千島町に至り尻無川木津川を連絡す、千島土地株式會社）

▲島屋町運河（櫻島町島屋町地内を貫き安治川より正蓮寺川に通ず、佳友吉左衛門）

第八章　築港の擴張

本市築港義務工事の完了に尚數年を要する今日直に其以上の擴張を議せんは幾分尚早の感あるが如きも然も事實は然らず既に大阪港の眞價にして着々一般の認むる所となり且年一年著しき出入船舶の增加と内外貿易額の激進とを見るに於ては市は益々積極的に其施設の充實と其規模の擴大とを策して飽迄も商工都市の活躍を背景とする水運上の大機關を完成せしめざる可からず殊に此方面に於ける將來の計畫如何は西大阪全般の都市經營上第一の利害と及ぼすものなるを以て其細目に亘る施設如何は姑く之を措くも豫め大體の擴張方針に就いて備へざる能はず。加之大阪港の港域は現に南北の二大防波堤によりて抱擁せらるゝ水面約二百七十

萬坪を算すと雖此内大潮子潮平均水面以下二十九尺深に浚渫せられたる區域は僅に其四割約八十六萬坪に過ぎざるが故に近來の如く港内碇泊汽船一日平均三十隻を超ゆる多きは六十隻に上るの盛況を以てしては最早當面の問題として浚渫水面の不足を考慮せざる可からず即ち市は當に其殘工事たる二大突堤の完成と及び之に伴ふ陸上附帶設備との充實に向つて鋭意其力を致すべきのみならず又別に港内大浚渫の計を具して深水面積の増大を期すべく從つて該浚渫土砂處分の關係よりするも今日豫め港域の擴張を企圖して一定の埋立地域を劃し以て一面不用土砂利用の計を立つると同時に他面將來の貯炭場危險物置場を始め進んで一般的荷役の大設備に應ずる素地を構ふる必要あり況んや又是と同時に都市計畫上の考慮を逸す可からざるものとして北には正蓮寺川の港内取込問題あり南には木津川取込問題あり齊しく其沿岸開發の見地よりして切實にこれが築港との直接連絡を要望するの機運に會せるをや即ち北に正蓮寺川にありては本市北突堤の起點に近く其一部を切開きて新航路を通ずると共に是と平行する防波堤を築きて新淀川左岸の導流堤附近に達し其處に副門を開いて尼崎市方面よりする船舶の往來に便すると共に航路は東方に彎曲して正蓮寺川を溯り以て恩貴島橋下流の全部を海運に開放せんとするにあり即ち宜敷く内港防波堤の起點に近く其一部を切開きて該河を港内に取入れ一旦は之に代ふべき新防波堤を築きて大和川との間に廣濶なる船溜を造へ且そを周らすに適當なる埋立地を以てして該河口の利用を講ずると同時に順次全河の理整と浚渫とを進めて船圍場附近に溯らしめんには其利の及ぶ處殆ど豫測の外あらん若し夫れ將遠き將來を思へば更に此方面に一層大規模の埋立と防波堤工事とを施して現在の南防波堤以外に廣濶なる水面積を扼する理想的新港を營み北に正蓮寺川方面の計畫と對應して恰も翼を張るの構へを立て擧げて自由なる海陸連絡設備に供するの日あらん。

要は其實現の遲速を別とするも須らく今後一切の沿海施設をして此豫定方針に則らしめ公私の力を合せて着々其擴張と整備とに任ぜざる可からず無論本市の實力を以てせんには今日如是の期待が直に明日の實行となりて現れんもの之を疑ふの餘地なしと雖も然も民間往々にして無謀の埋立計畫を出願せし爲に築港經營の前途を危からしむるの虞あるを以て茲に都市計畫上豫め大和川以北新淀川に至る沿海設備の基本的設計を打定し當然本市の手に其施設運用を左右せずんば非ざる也

（完）



會報

會誌

◉會員の漸次增加し來り、其他の本誌購讀者も次第に增加して發行部數の增々殖へますので、非常に心强く思ふて居ります。隨つて內容に就ても一層の改善と充實を期して、編輯者は獻身的に努力して居りますから、折角、會員諸氏の御諒解と御援助を願ひます。殊に會員各位が今一層本誌を御利用なさいまして、意見なり其他の事なりに就て稿を寄せられ度く切に希望する次第でムいます。

圖書

（交換）

建築雜誌　第三四輯第三九六號（建築學會）
建築世界　第十四卷第二號（建築世界社）
住宅　第五卷第二號（其社）
工業之大日本　第十六卷第二號（工業之大日本社）
鐵と鋼　第六輯第二號（日本鋼鐵協會）
建築新報　第二卷第二號（建築新報社）
通俗衛生　第二二八號（大阪衛生會）
電氣協會雜誌　第三七八號（電氣協會）
木材新聞　（其社）
建築業協會々報　（其會）
建築評論　第二卷第二號（建築評論社）
新住宅　第一卷第二號（其社）
藏前建築　第八號（東京高工建築科）
木材新聞　ペイント商報

會合

△理事會

▲日時　大正九年二月十二日自午後五時半至十一時
▲會場　大阪倶樂部
▲出席者　片岡、葛野、設樂、宗、吉井、江村
▲決議
一、細則第二十一條中「會則變更ハ會

員數ノ二分ノ一以上ノ出席』トアルヲ『會則變更ハ會員數ノ五分ノ一以上ノ出席』ト變更ヲ提案スルコト

二、細則中第八條第三項ヲ削除スルコト

三、以上一、二共通信決議ノ方法ニ據ルコト

四、二月二十七日ヲ以テ二月例會ヲ開クコト

五、二月十五日午前十時ヨリ大阪商品陳列所ニ於テ、改良住宅設計案ノ第一回審査會ヲ催スコト

六、坪井誠一君外十一名ヨリ入會申込ニ對スル詮衡ヲ爲シ別項ノ如ク孰モ入會ヲ承認スルコトヽセリ

七、這回募集ノ改良住宅設計案ニ對スル審査ノ結果ヲ來ル四月號ノ本誌ニ於テ發表スルコトニ變更

八、本誌三月號ヨリ一般書店ニ於テ販賣セシムベク相當書店ニ依囑スルコト

九、二月二十日ヲ以テ建築業協會關西支部タル五日會員ト我建築協會員トノ聯合協議會ヲ催スコト

□改良住宅設計案第一回審査會

▲日　時　大正九年二月十五日自午前十時至午後四時半

▲會　場　大阪博物場參樂館大廣間

▲出席者　宗、葛野、花岡、八尾、池田（宮彦）、柳下の各委員及び江村

▲先づ大体の考査を爲して當日は一先づ閉會せり、但し其詳細は結果發表の節共に報告すべし

□聯合協議會

別項所載の如く、建築業協會關西支部員たる五日會員と我建築協會員とは左記の如く聯合協議會を催せり。

▲日　時　大正九年二月二十日自午後七時至仝十時

▲會　場　大阪市中央公會堂地下室及中二階二、三號室

▲提　案　（一）建築材料を潤澤ならしむる方法奈何

（二）建築業に關する勞資の協調方法奈何

▲出席者　五日會員としては松村當番幹事外二十八名及大井同會書記

我建築協會よりは片岡、葛野吉木、吉井、矢嶋、瀬戸、新澤、佐藤（四）、渡邊の諸氏

▲先づ右記問題に就て各自の意見を交換したる後午後七時過食堂を開いて晩餐を共にし、更に休憩室にて歡談頻りに頗る盛會にてありき。

會員消息

□入　會

▲二月中左記諸君の入會ありたり

終身贊助員　山添繁藏君

會　員　坪井誠一君、澁谷五郎君

山本磯十郎君、松井清足君、

普通贊助員　植松與右衛門君、澁川彦衛君、小林安太郎君、川村香秀君、中村角之助君

谷口兼藏君、高崎齋藏君

西江長藏君、

ブダペスト建築條令

（上）



ブダペスト建築條令（中）

（本誌第三輯第一號に續く）

第五編　家屋取毀ハシ

届出

第五十三條　取毀ハシチナサントスルモノハ開始前少クモ二十四時間内ニ口頭若クハ書面ヲ以テ土木局ニ届出ツベシ實施ノ委任ヲ受ケタル專門家ハ右届出ニ對シ義務ヲ有ス

第五十四條　土木局ハ關係書面上ニ届出事項及月日ヲ記入シ即時當事者ニ向テ證明書ヲ交付シ規定ノ監視ヲ行フ

第五十五條　責任專門家ニシテ右ノ證明書ヲ有セザルニ於テハ取毀作業ヲ開始スルコヲ得ズ

官廳ノ依囑ニ從ヒ取毀ヲナス場合亦同ジ

第五十六條　家屋取毀ニ關スル概則左ノ如シ

概則

1、壁及破毀物ニハ防塵ノ爲メ不斷撒水スベシ

2、破毀物ハ各方面ヲ鎖セル管ヲ使用シタルトキニ限リ地上ニ落下セシムルヲ得

3、破毀物ガ其場ニ於テ利用ノ道ナキ場合ニアリテハ散亂ノ慮ナキ車輛ヲ以テ之ヲ搬棄スベシ若シ當事者ガ自己ノ目的ニ供スルヲ得ザル場合ニアリテハ官廳指定ノ推積場ニ搬去スベシ

4、穴藏下水屋内溝渠ハ掃除ヲナシ之ヲ破壞シ其凹所ハ善ク踏付ケ適當ノ高サマデ土ヲ埋ムベシ

第五十七條　係リ廳ハ必要ノ場合ニ於テ取毀ハシ家屋ノ圍壁ヲ命ズルコヲ得

第五十八條　隣家ニ接スルヲ壁取毀ハスニ當リテハ隣家ノ壁ヲ損セザル樣特ニ注意スベシ

但損害ヲ防グ能ハザル場合ニ於テハ竝壁ノ位置ニ接シテ新タニ築壁ヲナスベシ然ラザル以前ニ境界壁ヲ毀ツコヲ得ズ

共用ノ境界壁

第五十九條　境界壁ガ隣家ノ建物ト共有ニシテ且ツ境界線ノ正否ニ付キ相互間ニ疑念アル場合ニアリテハ取毀人ハ官廳ニ對シ實地檢分ノ申請ヲナスノ義務アリ實地檢分ハ建築委員會ニ於テ之ヲ司トル

利害關係ヲ有スル持主ハ實地檢分ノ際立會ヲ命ゼラルルモノトス

第六十條　建築委員會ニ於テ登記簿又ハ壁ノ構造ヨリスルモ境界線ヲ檢知スル能ハザル場合ニアリテハ共通壁ノ中心線ヲ以テ各所有ノ境界線トナス

第六十一條　當事者ニシテ前條ノ境界線指定ニ滿足セザル場合ニハ正式裁判ヲ仰グヿヲ得

但右當事者ガ檢分ヨリ八日以內ニ裁判所ニ依テ其請求主張ヲ證セザルニ於テハ建築廳ハ指定境界線設定ノ下ニ實施シツヽアル取毀又ハ建築ヲ防止スルヿナシ

等六編　榜示

第六十二條　建築並ニ地形ハ土木局ニ於テ道路又ハ隣地ノ境界線ヲ榜示シ該境界線ニ關係アル人道ノ標高點ヲ檢シタル後チニアラザレバ之ヲ開始スルヲ得ズ

第六十三條　建築ノ認可ヲ得タルトキハ土木局ニ對シ口頭又ハ書面ヲ以テ榜示ヲ申請スベシ

第六十四條　土木局ハ申請後三日內ニ榜示スベシ同時ニ之ニ關スル證明書ヲ當事者ニ交付スベシ

第六十五條　當該建築地ニ關スル規程又ハ道路水平面ガ尙未確定ノ場合若クハ係リ廳ニ於テ之ニ關スル變更ヲ計劃セル場合ニアリテハ榜示期間ヲ三日以上トナスヿヲ得

第六十六條　建築ト同時ニ人道水平高サヲ決スル能ハザル場合ニアリテハ土木局ハ門口及門閾ノ假設方法ヲ榜示スベシ

建築開始ニ付テノ届出

第六十七條　建築（築壁）ノ開始ハ少クモ二十四時間前ニ口頭又ハ書面ヲ以テ土木局ニ届出ヅベシ

實施ヲ引受ケタル專門家ハ右届出ノ義務ヲ有ス

土木局ハ右届出ヲ待テ第五十四條ノ手續ヲ取ルベシ

第六十八條　當事專門家ニ於テ建築開始届出ニ對シ認可アル迄ハ何等工事ニ着手スルヲ禁ズ

傳染病流行建築地

第六十九條　第一及第二區內ノ建築地ガ傳染病毒地ナルトキハ工事開始前繼續住地ニシテ穴藏ナキ建物ノ下部及庭內水平面下一米突半マデ其土砂ヲ除去スベシ

但之ガ爲メ生ジタル空所ニハ第七十條ニ揭ゲタル材料ヲ填充スベシ而メ其上ニ少クトモ厚サ二十珊知ノベトンヲ布置スルヲ要ス

壙充物

第七十條　建築地壙充物トシテハ一般ニ有機性化合物ヲ含有セザル土、碎石、砂、粘土、煉瓦石片等ノミヲ使用スルヲ得

第七十一條　疑ハシキ場合ニアリテハ土木局ハ第一第二區內建築地ノ鑑定檢査命ズベシ而メ該地ガ傳染病地ナルヿヲ認定シタルトキハ第六十九條ノ作業ヲ命ジ其實施ニ付キ監視スベシ

第七十二條　認可ヲ經タル建築圖面及榜示證明書ハ原文ノ儘又ハ此目的ヲ以テ土木局ヨリ無料ニテ證明ヲ受ケタル謄本ハ常ニ建築場ニ之ヲ保管シ係リ廳若クハ其吏員ノ請求ニ依リ之ヲ揭示スベキモノトス

圖面トノ相違

第七十三條　認可ヲ受ケタル圖面及ビ認

可條件ニ付キ任意ノ違背ヲナスコヲ得ズ

認可事件ヲ變更セントスルモノハ市長ニ申請スベシ圖面ニ變更アル場合ニ於テハ變更ノ點ヲ示セル圖面二通ヲ願書ニ添付スベシ

第七十四條 認可又ハ規定ニ反シ若クハ全ク認可ヲ經ズシテ第十八條記載工事ノ一ヲ開始シタルトキハ（必要ノ場合ニハ警察ノ援助ヲ得テ）即時之ガ停止ヲ命ズ市長ニ於テ該命令ヲ發セザル場合ニアリテハ土木局之ヲ行フ

第七十五條 前條ノ不正行爲ヲナシタル場合ニ於テハ係リ廳ハ處罰ノ外必要ニ應ジ原狀ノ回復ヲ命ズルコヲ得

第七十六條 豫メ認可ヲ經ズシテ第十八條工事ノ一ヲ開始セルモ其他ノ條件ガ本令ニ反セザル以上罰則適用ト同時ニ追認ヲ與フルコヲ得

第七十七條 認可ヲ經ズシテ第十八條ノ工事ヲ開始シ加之其他ノ條件モ本令ニ違背シタル場合ニアリテハ係リ廳ハ相當ノ改築又ハ取毀ハシ若クハ除却ヲ命ジ又取毀ハシ工事ニアリトハ第五十八條ニ揭ゲタル境界線ノ新設ヲ命ズルモノトス

右ノ場合ニアリテモ罰則ノ適用ヲ要ス

第七編　足場ノ建設及其他ノ便宜事項

第七十八條 市長ハ交通關係ニ顧ミ建築並ニ取毀認可書ニ於テ足場設置並ニ材料置場ニ要スル幅員ヲ示定ス該幅員ハ之ヲ超過スルコヲ得ズ

（警察上必要ノ場合ニアリテハ）土木局自ラ命令ノ實施ニ任ズ

第七十九條 足場ノ設置並ニ材料積下ノ場合ハ土木局ノ指令ニ從ノモノトス

生命ノ安全又ハ必要已ムヲ得ザル場合ノ外公路ヲ防害セザル樣特別ノ注意ヲ要ス

第八十條 公ケノ區域内ニ足場ヲ設置セントスルトキハ通常其下ヲ自由ニ通行シ得ラルヽ樣ナスベシ

右ノ目的ヲ以テ足場ノ床底ハ人道ノ水平面ヨリ少クトモ二米突半ノ高サヲ有シ塵芥若クハ流動体ノ落下ヲ防止スル爲メ二重ノ床底ヲ備ヘザルベカラズ

足場ハ其外面高一米突ノ手摺ヲ備フベシ

假リ家屋

第八十一條 道路面出來後並ニ一般ニ用濟後ハ即時足場ヲ破却シ公ノ地域ヲ開放スベシ

第八十二條 道路前面ニ使用シタル足場用ノ丸太ハ通常夜間十一時乃至四時ノ間ニ設置若クハ除却スベキモノトス必要ノ場合ニアリテハ土木局ノ命令ヲ以テ右ノ時間内當該道路ヲ閉鎖スベシ

足場ノ設置又ハ除却ハ午前四時半午後十時ノ間ニ於テ之ヲ行フベキモノトス

第八十三條 詰合所、道具物置、作業者ノ便所等ノ如キ建築ニ付キ必要ナル假リ家屋ニ關シテ土木局ハ希望ニ依リ畧式ヲ以テ認可ヲ與ヘ其旨證明書ヲ交附スベシ

第八十四條 前條假リ家屋ガ使用認可ヲ得ザル場合ニアリテハ單ニ建築期間内設置スベキモノニシテ工事終了後ハ除去スベキモノトス

第八十五條 作業者用便所ハ公ノ地域ニ建設スルヲ得ズ

第八十六條 石灰溶解坑ハ隣家ヨリ少ク

トモ三米突ノ地ニ設クベシ

右ノ距離ヲ欠キタル場合ニアリテハ土木局ノ命令ニ基キ隣家ニ對シ「セメント」壁ヲ築設スルヲ要ス

石灰溶解坑ハ公ノ地域ニ設クルヲ得ズ

第八編　隣家ノ利害關係

公有物

第八十七條　道路又ハ建物附近ニ存在セル紀念碑、井戸、轉轍器、樹木及栽植物、街燈、町名、番地札、電信電話線、電柱等ノ如キ公有物ハ建築又ハ取毀工事間汚穢並ニ損傷セシメザル樣注意スベシ

第八十八條　前條公有物ノ損害ニ付キテハ第一ニ工事擔任技師次ニ建築主又ハ賃借人ハ實体上ノ責ヲ有ス

第八十九條　工事ノ實施ニ付キ公有物ノ除却ヲ要スル場合ニアリテハ工事主任其旨土木局ニ届出ヅベシ

然ルトキハ該局ニ於テ遲クモ三日内ニ相當ノ處分ヲナスベキモノトス

第九十條　第八十八條及第八十七條ニ揭ゲタル公有物ニ損害アリタルトキハ（若シ直チニ適當ノ方法ヲ取ル能ハザルトキハ）遲クモ工事終了後土木局ノ指圖ニ從ヒ指定期日内ニ自費ヲ以テ原狀ニ回復シ又不用ニナリタル町名番地札ハ新札ヲ以テ之ニ代ヘ汚レタルモノハ之ヲ洗拭スルノ義務ヲ有ス

第九十一條　人道車道又ハ公溝ガ建築ニ依テ損害ヲ受ケタルトキハ認可證持主ハ遲クトモ建築又ハ取毀工事終了後土木局ノ指圖ニ從ヒ指定期間内ニ自費ヲ以テ之ガ修繕ヲナスベシ

第九十二條　當事者ガ第八十條九十條及九十一條ノ義務ヲ履行セザル場合ニ於テハ市長ハ職權ヲ以テ修繕工事ヲ施シ其費用ヲ義務者ニ負擔セシム

認可證持主ハ右費用支拂以前ニ於テ建設部使用認可ヲ請求スルヿヲ得ズ

發見物

第九十三條　建物ノ取毀ヲ又ハ新築地形ノ際棺、骸骨、貨幣、彫刻物、容器、金屬、化石、碑文等ノ如キ古物ヲ發見シタル場合ニアリテハ主任專門家ハ即時之ヲ土木局ニ届出デ其命令ヲ待チ一時保管ノ任ニ當ルベキモノトス

第九編　隣家ノ利害關係

第九十四條　各種ノ建築ハ自己ノ境界線内ニ於テノミ之ヲ實施スルヲ得ベク從テ隣地又ハ隣家建物ニ利害ヲ及ボスベカラズ

第九十五條　前條ノ意義ヲ以テ工事ヲ實施スルヿ能ハザル場合ニアリテハ必要ノ足場ヲ隣地ニ建設シ建築期間内作業ハ其上ヲ通行スルモ之ニ關シ隣家ハ苦情ナキヲ要ス

第九十六條　第九十五條ニ依リ隣地ヲ要求シ又ハ工事間別ニ隣地ニ損害ヲ與ヘタルモノハ原狀回復並ニ損害賠償ノ責ヲ有ス

第九十七條　隣家ノ境界壁ガ認可證持主ノ地ニ傾斜セル場合ニハ後者ハ境界線ニ應ジテ之ヲ切斷スルノ權ヲ有ス

切斷ニ付キテハ工事主任即時土木局ノ承認ヲ受クベシ

第九十八條　前條ノ場合ニ於テ土木局ハ豫メ隣家ノ承諾ヲ求メ認可ト同時ニ隣家ノ有スル内外境壁權ノ保留ヲ命ズ必要ノ場合ニアリテハ安全ナリト認メ得ベキ厚サヲ有スル副壁ヲ築設セシム

第九十九條　第九十八條ノ副壁ニ關シ認

可證主及利害關係ヲ有スル隣人間ニ同意ヲ得ル能ハザルトキハ市長ハ建築委員會ニ諮問シ該係爭問題ヲ判決ス

第百條　隣家ノ築壁又ハ其殘部ガ第九十八條ノ方法又ハ第五十八條第二項ノ新築壁ニ依ルモ充分ノ保障ヲ認ムル能ハザルトキハ前者ノ取毀ヲ要ス

右ノ場合ニ於テ建築主ハ隣家ニ對シ新タニ境界並ニ圍障トスベキ壁ヲ建設スベキモノトス

新築壁ニ要スル材料（煉瓦石灰砂）ハ所有者ニ於テ建築主ニ對シ原形ノ儘供給ヲナシ建築場ニ送致スルカ若クハ現金ノ補償ヲナスベシ

第百〇一條　建築主ノ隣家ニ境界壁又ハ圍障アラザルトキハ建築ト同時ニ之等ノ築壁ヲ築設スベシ

右ノ場合ニ於テハ利害ヲ有スル隣家ノミ其費用ヲ負擔ス

第百〇二條　係リ聽ガ第百條及第百〇一條ニ述ベタル築壁ノ爲メ隣家建物ノ全部若クハ一部ニ煩累ヲ及シタル場合ニ於テ之ニ對スル抗告ハ單ニ其特別所有權ニ關シテノミ之ヲナスコトヲ得

地下壁

第百〇三條　第九十八條ノ副壁建設ノ場合ナルカ又建築主ガ其建物ノ基礎ヲ隣家ノ基礎下ニ設置セル場合ニアリテモ其費用ハ建築主ノ負擔タルベキモノトス

隣家ノ煙突

第百〇四條　自己ノ家屋ヲ隣家ヨリ高ク建築セントスルモノハ共有境界線ニ於テ且其線ヨリ一米突以内ニ存在セル隣家ノ煙突ヲ自己ノ防火壁ヨリ八十珊知高カラシメテ之ヲ該壁ニ取付クルヲ要ス

第百〇五條　利害關係ヲ有スル隣家ハ煙突積上ゲニ要スル材料ヲ建築主ニ對シ原物ノ儘供給シ建築場ニ送致スルカ又ハ現金ニテ之ヲ補償スベシ

第百〇六條　自己ノ家屋ヲ隣家ヨリ低ク建築セントスル場合ニ於テハ第百〇四條ニ從ヒ自己ニ於テ煙突築設費ヲ負擔スベシ此際隣家ニ苦情ナキヲ要ス

第百〇七條　第百〇四條及百〇六條ノ場合ニアリテハ持主ハ建築中ノ隣家ガ其建物ノ上ニ烟突及忍戸ヲ設クルコトニ付苦情ヲ唱ヘザルノ義務ヲ有ス

雨水權

第百〇八條　或地ノ境界内ニ於テ隣者ガ雨水樋ヲ登記シ其結果トシテ鞍狀屋背ノ家屋ヲ所有シタルモ其土地ニ於テ增築ナシタルカ若クハ其他ノ建物ニ重大ナル改築ヲ施シタル場合ニ於テハ隣者ハ雨水樋ヲ喪失シ其所有地内ニノミ雨水滴落スル樣ナスベシ

第百〇九條　前條記載ノ事項ニ關シテハ建築主ハ工事ヲ引受ケ利害關係ヲ有スル隣者ハ材料（煉瓦、石灰砂、木材及ビ葺屋材料）ヲ建築場ニ供給スルカ若クハ現金ヲ以テ之ガ補償ヲナスベシ

境界線

第百十條　相接セル兩家屋間ニアリテハ（登記簿記載事項ニ反セザル限リ）共有雨水溝ノ中央ヲ境界線ト見做スモノトス

境界線ノ榜示

第百十一條　當事者ガ土木局ノ榜示セル境界線ニ對シテ異議アルトキハ土木局ハ其旨市長ニ届出ツルヲ要ス市長ハ右ノ報告又ハ當事者ノ請求ニ基キ建築委

員會ヲシテ實地ニ就キ榜示ノ正否ヲ檢セシム

裁判上ノ境界線指定

第百十二條 當事者ノ一方ガ建築委員會ノ榜示ノ境界線ニ滿足セザルトキハ裁判所ヲ經テ之ガ決定ヲ仰クベキモノトス

第百十三條 他人ノ法定所有地ニ於テ或所有權ヲ主張セントスルモノハ境界線ノ裁判指定ヲ請求スベキモノトス

但第六十一條記載ノ場合ヲ除ク

第百十四條 裁判手續ヲ踐ムベシトノ命ヲ受ケタル當事者ガ委員會ノ境界指定ノ日ヨリ八日以內ニ訴狀ノ提出ヲ市長ニ對シテ證明セザルトキハ市長ハ事情ヲ配量シ係爭トナレル境界線上ノ工事ノ全部又ハ一部ヲ停止セシム

共同溝渠及井戶

第百十五條 兩隣ノ境界ニ存在セル井溝及下水ハ隣者ノ一方ガ境界ニ於テ建築セントスルトキハ即時埋設スベキモノトス

制　隅

第百十六條 光線交通及其他ノ所有權ハ登記ヲ經タルモノニ限リ係リ隣ノ保護ヲ受クルヿヲ得

第百十七條 隣地ニ排水權ヲ有スルモノハ雨水及純井水ニ限リ排泄スルヲ得

第百十八條 何人ト雖モ濁水、汚水及其他不潔ニシテ惡臭ヲ發スル流液ノ排泄ニ付キテハ自己所有ノ地ニ於テ之ヲ了スベシ

第十編　建築方法

第一及第二區域

第百十九條 第一及第二區域ニアリテハ道路境界線上一例ニ聯結狀ニ於テノミ建築スルヿヲ得

第百二十七條、百二十九條、百三十條百三十一條、百三十二條及第百四十四條ノ3、4及5項ハ右ノ例外ヲ規定ス

後方突出ノ建物

第百二十條 第百十九條ハ建物ノ中部ガ道路線ヨリ內方ニ入ルヲ妨ゲズ然レドモ此場合ニアリテハ道路線ヲ設ケタル各翼ハ直チニ隣地ニ沿ヒ其幅モ亦規則的ナラザルベカラズ

第百二十一條 前條方法ノ場合ニアリテハ道路線ト建物ノ中部間ニ存スル空地ハ庭園トシテ使用スルヲ得ベシ但シ道路ニ對シテハ煉瓦又ハ石造ノ土臺ヲ有スル佳美ナル鐵格子ノ圍障ヲ設クベシ

第一區域內ノ平家

第百二十二條 第一區域內ニアリテハ道路前面上平家ノ建築ハ該家屋ガ一階建ノ通常ノ高サ（十米突）ヲ有スル場合ニ於テノミ之ヲ許可ス

第百二十三條 第一區域內ニアリテハ道路線上住家ノ下部ニ土中室ヲ設クベシ但道路面ニアル土中室ハ住家トナスヲ得ズシテ重量品ノ貯藏又ハ作業場若クハ機械的作業場ノ目的ニ供スルヲ得

第二區域內ノ平家

第百二十四條 第二區域內ニアリテモ道路前面線上ニ通常平家ヲ建築スルヿヲ得

第百二十五條 第二區域內ニアリテハ住家ノ前面線ニ於ケル土中室建築ニ關スル義務ヲ免除ス

湯氣止

第百二十六條 何レノ建築區域ヲ問ハズ

最下層ニ於テ土中室ヲ有セザル住家ヲ建造セントスルトキハ該床ハ鉛アスファルト又ハ其他濕氣ヲ防グニ足ルベキ絶緣物ヲ以テ塗布スルヲ要ス壁ニモ同樣ナリ

市有莊園ヨリ分支シタル地ノ建築法

第百二十七條 市有莊園ヨリ分支シタル「**クリスチーネン**」市場及「**レテク**」小路建築地ニアリテハ五米突ノ前庭ヲ以テ聯結狀ニ建築シ市立建築議會ガナシタル第一區劃ニ準ジ各二ツノ建築地ノ邸園ヲ互ニ相併設スル樣ニナスベシ之等ノ建築地ニアリテハ市有莊園ニ對シテ少トモ一一、三八米(6')ノ奥行アル空地(庭)ヲ存セシムベク又該莊園ニ對シテハ防火壁ヲ設クルコヲ得ズ

第百二十八條 市有莊園ヨリ分支セル土地ニアリテハ一方「**クリスチーネン**」市場及「**レテク**」小路ニ對シ他方市有莊園ニ對シ道路側ニ少クトモ佳美ナル板羅ヲ設クベシ

要塞山腹ノ建築法

第百二十九條 要塞山腹即チ「**フンフアルフイ**」小路ノ兩側及「**ロコヂ**」小路ノ西側ニアリテハ第百三十三條ノ規定ニ從ヒ別莊樣ノ建築ヲナスベシ

第百三十條 「**ロフアス**」小路亞ニ「**ザルロ**」小路及「**ゲムゼン**」坂間ニアリテハ要塞山ノ西側ニ通ズル新道路ノ一部ニアリテハ次ノ如ク二種ノ建築ヲナスコヲ得

1 第百三十三條規定ノ別莊的

2 道路線ニ於ヶ隣地ヨリ少クトモ三米ノ距離ヲ保有スルコト終リノ場合ニアリテハ建物ノ高サハ通常ノ平家ノ高サヲ超ユルコヲ得ズ

第二區域内前庭付家屋

第百三十一條 五、六九米(3')ノ廣サヲ有スル庭付ニテ閉列狀ニ建築スベキ地左ノ如シ

1、「**バイザ**」小路及「**エブレスケルト**」小路間ニ介在セル「**ソンヂ**」小路一部ノ北側

2、「**ソンヂ**」小路及「**クメツチ**」小路間ニ介在セル「**バイザ**」小路一部ノ西側

3「**ソンヂ**」小路ニ達スル「**ボドマニクツキ**」街間ノ「**アレナ**」街

4、「**フエルヂナンド**」橋ヨリ「**アレナ**」小路ニ達スル「**ワイツネル**」街ノ兩側

5、「**ケレペス**」街ト「**ダムヤニツヒ**」小路間ニ介在セル「**ロツテンビル**」街一部ノ東側

6、「**オルクチ**」小路及鐵道堤間ノ「**ユルレー**」街

第百三十二條 「**ダムヤニツヒ**」街及「**イストフアン**」街間ニ介在スル「**アレナ**」街ノ一部ニアリテハ第百三十三條ニ從ヒ別莊的ノ建築ヲ要ス

第三區域内ノ別莊建築法

第百三十三條 第三建築區域ニアリテハ一軒建別莊及其附屬建物ニ限リ建造スルコヲ得但之等ノ建物ハ其最大突出部ガ道路線ヨリ少クモ五米隣地ヨリ三米ノ距離ヲ有セザルベカラズ

之等ノ建物ハ簡易堅牢何レニテモ任意ニ建造スルヲ得ベク又防火壁ヲ除キ常ニ鞍狀屋背トナスベシ

第百三十六條及百三十七條ハ右ノ例外ヲ規定ス

第百三十四條 左岸ノ市區ニ於テ第二建築區域ノ建築ニ從フ地左ノ如シ

1、「アレナ」街及「エブレスケルト」街間ニ介在スル「ゾンチ」小路ノ東南側

2、「ナギヤーノス」小路ノ南側

3、「上ワルドツアイレ」及射的場ノ東側

4、「ダムヤニツヒ」小路ノ北側

第百三十五條 第二建築區ノ建築法ニ從フモ後方隣家ヨリ少クモ三米ノ距離ヲ有シテ建築スベキ地左ノ如シ

1、イストフアン街及**セメール**街間ニ介在セル「アレナ」街一部ノ東側

2、**イストフアン**街ノ南側即チ「アレナ」街並ニ「サクルチオエール」ノ東境ニ通ズル道路間

第百三十六條 此條ハ原書ニナシ

第百三十七條 右岸ノ市區中第二建築區ノ建築法ヲ採ルベキ地

1、前面「ガスツールワイセンブルグ」街ニ向ヘル「ブロツク」山ノ建築地

2、**メツアロス**街ノ「ゾンネン」山ニ向ヒタル方面

オーフエン山眺望ノ保存

第百三十八條 第三區域ニ屬スル右岸丘上ニ已ニ存在セル別莊又ハ今後建造サレベキモノニアリテハ將來ノ建築者ニ重大ナル眺望ノ妨害ヲナサヾル程度ノ境界ヲ開放シ置クベシ

後ノ建築者ガ元建物ノ眺望ヲ害セザル樣適當ニ且合理的ノ建築ヲナシ能ハザル場合ニアリテモ之ガ爲メニ後ノ建築者ニ對シ建築認可ヲ拒絕スルヿヲ得ズ

第百三十九條 前條ニ依リテ右岸ノ丘上ニ設計セラレ且第三**建築區**ニ屬スベキ家屋ニ付キ眺望上利害關係ニ存スル隣者ニ對シテハ建築認可前相當意見書ノ提出ヲ命ジ又右ニ對シテ抗告ヲナセル者アル場合ニ於テハ之ガ調査ヲ行フベキモノトス

建築地ニ付キ認可請求者及利害關係ヲ有スル隣者間ニ協議調ハザル場合ニアリテハ法律上有効ナル認可證ヲ受ケ初メテ建築ヲ開始スルヿヲ得ベシ

第四建築區域内ノ建築法

第百四十條 第四建築區ニアリテハ少クトモ簡易建築法ヲ取ルベキモノトス

第百四十一條 左ノ地方ニ於テハ第百三十三條規定ノ第三(別莊)建築區ノ建築法ニ依ルベシ

1、「アレナ」街及「セグレード」線路間ニ介在セル「セメール」街一部ノ南面

2、「セメール」街「ステフアニー」街及競馬場間ニ介在セル建築地

3、「セメール」街及外部「リング」街間ニ介在セル「ステフアニー」街一部兩側

第百四十二條 廣サ五、六九米(3)ノ前庭ヲ要シ且ツ一列聯結狀ニ建築セラレ得ベキ地左ノ如シ

1、「ギゼラ」街及「セグレード」線路間ニ介立セル「エグレツシ」小路一部ノ兩側

2、「セメール」及「エグレツシ」街間ニ介立セル「ギゼラ」街ノ兩側

3、鐵道線堤ヨリ「ホツテル」境ニ至ル「ワイツエン」街

4、鐵道線堤及「ホツテル」境間ノ「ユルレー」街

5、鐵道線堤及「ホツテル」境間ニ介立セル「ゾロクザール」街ノ東側

6、匈牙利街道ニ通ズル外部「リング」街ノ一部ニシテ「ユルレー」街ニ於テ「ステフアニー」街及「ネーブリゲツ

ト」間ニ介在セル地

第百四十三條　「**ケレペス**」街上ニアリテハ東部停車場ノ翼線ヨリ「**フユヘールウツト**」ニ至ルノ間ハ前庭ノ幅ヲ五、六九米(3ᵀ)トナシ此處ヨリ「**ホツテル**」境ニ至ルノ間ハ三、七九米(2ᵀ)ノ前庭付建築ヲ要ス

アンドラツシー街ノ建築法

第百四十四條　**アンドラツシー**街ノ兩側ニアリテハ第一建築區ノ建築法ニ準ジ左ノ特別規定ニ從フ場合ニ限リ建築スルヲ得ベシ

1、「**ワイツエン**」亜樹及「**オクトゴーン**」間ニアリテハ三階乃至四階ノ家屋ニ限リ建造スルヲ得

2、「**オクトゴーン**」及「**ロンドー**」間ニアリテハ二階乃至三階ナルヲ要ス

3、「**ロンドー**」ニアリテハ家屋ハ閉列狀ニシテ廣五、六九米(3ᵀ)ノ前庭ヲ要ス而メ軒蛇腹ハ一八、九六(6ᵀ)ヨリ高カラズ低カラズ下層床ハ人道ヨリ少クモ一、二六米(4ᵀ)高キヲ要ス

4、「**ロンドー**」ヨリ「**バイザ**」小路ニ至ルノ間家屋ハ閉列建築ニシテ廣五、六九米(3ᵀ)ノ前庭ヲ要ス高サニ付キテハ軒蛇腹ガ少クモ一一、三八米(36ᵀ)ノ高サヲ要ス然レドモ家屋ハ二階以上ノ高サヲ有スルヲ得ズ

5、「**バイ**」小路及町ノ森間ニアリテハ相互連接ヲ有セザル一棟建別莊ニシテ街路線ヨリ少クモ五、六九米(3ᵀ)ノ距離アルヲ要ス

6、前項1、2、3ノ場合ニ於テ高サヲ異ニスルニ從ヒ防火壁モ亦各構造ヲ異ニセザルベカラズ而メ之等ノ防火壁ハ後ニ至リ建築スベキ隣者ニ於テ築設スベキモノトス但隣者モ亦同時ニ建築ヲナス場合ニアリテハ高屋建築者其義務ヲ負フ

簡易建築法

第百四十五條　簡易建築法トハ左ノ如シ

1、最上階ノ本壁ニアリテハ煉瓦壹枚ノ厚サヲ有セシムルヲ得

2、屋根下天井ハ屋根ト分離スルヲ許サズ但床ハ耐火鋪石ヲ使用スベシ

3、家屋ヲ殺ギ板葺キトナスヲ得

4、家屋ハ木石混合壁又ハ兩面ニ石膏板ヲ裝セル木造トナスヲモ得ベシ然レドモ此場合ニアリテハ**隣家境界**線ヨリ少クモ三米突ノ距離ヲ有シ平家ナルヲ普通トス但例外トシテ一階屋ニシテハ總計六室以下ヲ有スル四軒以內ノ**住宅**ヲ收ムルヲ得

5、界壁ハ木製（兩面ヲ蓆漆喰ニナスカ「**モルタル**」塗ニナスベシ）又ハ石膏板造リトナスヲ得

一、軒　建

第百四十六條　各建物ハ（聯結狀建築ノ場合ニアリテモ）獨立構造ヲ要ス

第百四十七條　一家屋ガ登記簿面上二軒以上ノ獨立所有体ヲナセル場合ニアリテハ防火壁ヲ設クベシ

下層床ノ高サ

第百四十八條　營業用ノ下層床ノ高サハ人道亦ハ庭地ノ水平面ヨリ〇、一五米突トナセドモ住宅ニアリテハ少クトモ〇、三〇米ノ高サヲ有セザルベカラズ

庭園ノ高サ

第百四十九條　內庭ハ人道ヨリ少クトモ一〇米ノ高サニ盛リ上グルヲ要ス

家屋外部ノ高サ

第百五十條　家屋外部ノ高サハ人道ノ水平面ヨリ軒蛇腹上端ニ至ルマデヲ計算ス但傾斜地ニアリテハ前面ノ中心ヲ基トス

第百五十一條　一階及二階作リノ家屋ハ市ノ領域内ニアリテハ十七米突ノ高サニ達スルヲ得

三階家屋ノ最高ハ二十一米ニシテ四階家屋ヲ二十五米突ト定ム

家屋ノ高サ

三階家屋ハ十米突ヨリ狭キ道路ニ於テ建築スルヲ得ズ四階家屋ハ十七米以下ノ道路ニ於テ之ヲ許サズ

第百五十二條　四階以上ノ家屋ハ建築スルヲ得ズ所謂低階即チ半階層（メッツアニン）ハ之ヲ一階ト見做ス

角家ノ高サ

第百五十三條　角家ノ高サハ廣キ道路ノ幅ニ比例ス

例外

第百五十四條　二ッノ相異レル廣サノ道路上ノ建築殊ニ道路ノ幅及長サニ準ジ狭キ道路ノ前面高サ及鐵道路上已ニ存在セル家屋ノ高サ並ニ土地ノ大サ及設計シタル道路ノ建築規定ガ前數條ノ家屋ノ高サニ關スル制限ニ相反スルヲ得ル場合ハ市建築會ニ於テ市長ノ意見ヲ參照シ毎時之ヲ決定スルモノトス

住室ノ廣サ

第百五十五條　第一及第二建築區内ノ住室ハ街路面ニアリテハ少クモ奥行五米突庭園面ニアリテハ少クモ奥行四米突ニシテ幅ハ二米突ヲ有セザルベカラズ

厨房及婢僕ノ室ハ之ヲ住室中ニ算ス

第百五十六條　一室及一厨房ヨリ成レル住宅ニアリテハ室ハ少クトモ三米ノ廣サ又ハ四米突ノ奥行ヲ有シ十五米平方以上ノ面積アルヲ要ス

第百五十七條　住室ノ高サハ水平天井ノ場合ニ於テ第一建築區ニアリテハ三米以上トシ第二區ニアリテハ二、八〇米以上第三及第四區ニアテハ二、六〇米以上トナスヲ得

丸天井平均ノ高サハ右ノ尺度ニ準ズ

第百五十八條　一軒建住宅ハ通常厨房ナキ建築ヲ許サズ

第三區及第四區ニ於テ前項ニ反スルヲ得ル場合ニ付キテハ必要條件ノ下ニ係リ廳ニ於テ毎時之ヲ決定ス

本内庭ノ大サ

第五十九條　内庭ニ臨メル室ガ充分ノ日光及空氣ヲ受クルヲ得ル樣ニ設クベキモノトス

右ノ元側ニ從ヒ通常少クモ總地面ノ一割九分ヲ庭地トシ置クベキモノトス但四階建ニアリテハ少クモ二割ヲ要ス

閉鎖式廻廊並ニ一米突以上ノ幅ヲ有スル開放式廻廊及風穴ハ建坪面ト見做シテ之ヲ計算ス

第百六十條　内庭幅員ノ中幅ハ少クトモ六米突ヲ有セザルベカラズ

二箇ノ翼面家屋ガ各々一箇ノ開放式廊下ヲ有スル場合ニ於テハ庭地ノ幅ハ廊下ノ幅ダケ之ヲ取擴ゲベキモノトス

明リ取リ庭ノ大サ及ビ設置

第百六十一條　數箇ノ本内庭ガ存在セル場合ニアリテハ其間ニ通路ヲ設クルヲ要ス

第百六十二條　明リ取リ庭ノ幅ハ最狭部ニアリテ少クモ二米突ヲ有セザルベカラズ

第百六十三條　明リ取リ庭ノ面積ハ少ク

トモ十二米突平方ヲ有セザルベカラズ

第百六十四條 每階單ニ一箇ノ奴婢室、庫、湯殿及厠ヲ限リ之ニ面スベキ光リ取リ庭ハ六米突平方トナスコトヲ得

第百六十五條 光リ取リ庭ノ風通シ及掃除用トシテ該庭地ニハ輕易ニ出入シ得ベキ戸ヲ設クベシ

例外

第百六十六條 左ノ場合ニ於テハ係リ廳ノ檢閱ヲ經タルトキニ限リ前條庭地ニ關スル規定ニ相違スルコトヲ得

1、設計ノ建物ガ住居ノ目的ニ供セザルトキ

2、數棟ノ建物ノ庭地又ハ建坪ガ互ニ隣接セルトキ

3、隅角地ノ場合

4、規定ニ依リ竪止セラレタル建築地ノ場合

屋蓋付內庭

第百六十七條 內庭ハ全ク無蓋ナルヲ要ス公ケノ建物、寺殿、ホテル、料理店珈琲店又ハ其他ノ大營業店ニアリテハ例外トシテ內庭ニ屋蓋ヲ附スルコトヲ得屋蓋ノ實質及種類ニ付キテハ係リ廳ニ於テ每時之ヲ指定ス

風穴

第百六十八條 湯殿及便所ノ風穴ニ供スベキ風穴ハ少クトモ一米突平方ヲ要ス

裝飾

第百六十九條 前面防火壁其他一般ニ街路ヨリ見ラレ得ベキ部分ニシテ天然石又ハ人造石ヲ使用セザルモノハ漆喰塗スルヲ要ス

漆喰

第百七十條 建物ニ光リ強クシテ人目ヲ害スベキ色ヲ用ヒ又ハ之ヲ黑色又ハ白色ニ塗抹スルコトヲ得ズ

建物又ハ圍障ニ公共物ヲ取付ケ

第百七十一條 土地又ハ家屋持主ハ其圍墻ニ公共ノ目的ニ供スベキ點燈、町名札、瓦斯又ハ水道ノ目的又ハ其他ノ公共目的ニ供スベキ札火災報知器又ハ電線ノ取付ヲ拒ム能ハズ

持主ガ前記物体ニ付キ一時若クハ全然ノ取拂ニ關スル變更ヲ欲スル場合ニ於テハ速カニ事情ヲ辯明シ係リ廳ノ處分ニ從フベシ

番地ノ表示

第百七十二條 各家屋又ハ圍障ニアリテハ外部主門ノ傍ニ番地ヲ表示スベク內部門口ニハ登記簿番號ヲ揭グベシ

市長ハ右表札ノ大サ形品質及ビ色ヲ指定シ又其取付ニ關シ注意ヲ與フ

持主ハ使用許可出願前ニアリテモ右番號表札ノ取付ケヲナスベシ

鈴鐘

第百七十三條 各家屋ハ門ノ開閉ニ付キ內外ヨリ合圖トナルベキ相當ノ裝置ヲ備フルヲ要ス

第十一編 出來前ノ建物檢查

第百七十四條 建物ガ屋蓋ヲ用スルニ至リタルトキハ主任技師ハ其旨土木局ニ屆ケ出ヅベキモノトス

1、第一及第二區域內ノ建物ニアリテハ何等工事タリトモ屆出ベシ

2、第三及第四區域內ノ建物並ニ第一及第二區域內比較的大ナル改築工事ニアリテハ建築認可書中ニ屆出ヲ條件トナシタル場合

第百七十五條　土木局ニ届出日ヨリ十五日以内ニ出來前建物ノ檢査ヲ行義ノ務アリ

檢査ハ建物ノ各部ニ及ブモノトス

主任專門家ハ檢査上必要ナル足場ヲ設クベシ

第百七十六條　前條檢査ノ場合ニ於テハ煉瓦造ノ圓天井ヲ組ノ壁ト見做スベシ

土木局ハ檢査ノ成績ニ依リ壁塗開始期日ヲ指定ス

ノ屋根葺後六週以内ニアリテハ漆喰ヲ施スヲ得ズ

第百七十七條　十月一日マデニ屋根ヲ施ス能ハザル建物ニアリテハ來春ニ於テ壁塗ヲ行フベキモノトス

第百七十八條　屋根ヲ施シタル時日ヲ第百七十四條2ニ從テ届出ツベキモノナラザル場合ニアリテハ漆喰開始ノ時期ニ付キテモ制限ナシ

第十二編　建築材料及組ミ合セ

組ミ合セ壁

第百七十九條　天井及屋根ヲ支持スベキ本壁及ビ中壁又ハ其他ノ重量ヲ支持スベキ組合セ壁ハ第一及第二建築區内ニアリテハ瓦質ノ煉瓦、石又ハ鐵等ノ堅牢ナル材料ニ限リ使用スルヲ得ベシ

ベトン壁

第百八十條　第二建築區ニ於テハ一階建ノ家ニ限リベトン壁ヲ築設スルヲ得

石及粘土壁

第百八十一條　第三及第四區内ニアリテハ堅牢ナル地形上ニ人道面ヨリ側リ五十珊知以上ノ所ニ未燒又ハ担付瓦壁又ハ石膏壁ヲ築クヲ得但第百四十五條第四項ノ例外ヲ除キ平家ニ限ル

煉瓦ノ大サ

第百八十二條　建築用煉瓦ノ大サハ長サ二十九珊知幅十四珊知厚サ六五珊知トス

壁引金物

第百八十三條　帶鐵及壁引金物ハ專ハラ煉鐵ヲ以テ作ルベキモノトス

建築木材

第百八十四條　建築木材トシテ基牢ニシテ完全ニ乾燥セル木材ニ限リ使用スルヲ得

屋根葺

第百八十五條　第一第二建築區域ニアリテハ屋根盤及各種金屬板ノ如キ耐火材料ニ限リ使用スルヲ得木製セメント並ニ紙瓦ハ之ヲ耐火材料ト見做スル得但紙瓦ハ第一區域内ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

板葺ハ第三及第四建築區域内ニ限ル

第三區域内ノ氷室第四區域内ノ氷室及農舍ハ葦又ハ藁葺トナスヲ得

葦又ハ藁葺ノ氷室及ビ建物ハ隣地境界ヨリ少クモ六米突ノ距離アルヲ要ス

壁ノ厚サ

第百八十六條　出來前ノ壁ノ厚サノ大サノ單位ハ瓦ニ關スル規定ノ大サニ從ヒ又計算ニ便ナラシメンガ爲メ次ノ如ク定ム

半盛瓦幅ノ壁ノ厚サハ	○、一五米
一枚瓦幅	○、三○米
一枚半瓦幅	○、四五米
二枚瓦幅	○、六○米
二枚半瓦幅	○、七五米
三枚瓦幅	○、九○米

三枚半瓦幅　一、〇五米
四枚瓦幅　一、二〇米
四枚半瓦幅　一、三五米
五枚瓦幅　一、五〇米

第百八十七條　未焼煉瓦ヲ以テ作レル壁ニシテ本壁又ハ圍障トナルベキモノハ二枚瓦ノ厚サヲ要シ本壁間ノ隔壁ハ之ニ反シテ一枚瓦トナシ木材煉瓦混合壁ハ半枚ノ厚サトナスベシ

本　壁

第百八十八條　前條規定ニ從ヒ本壁ニ瓦ヲ使用スル場合ニ於テハ左ノ如ク築造スベシ

1、平家又ハ最上階ニアリテハ道路並ニ内庭ニ面スル兩翼ニ於テ（單翼ノ場合ニハ本壁二個共）奥行六、五米以下ノ場合ニハ一枚半瓦ノ厚サ（〇、四五）米ニシテ六、五乃至八、五米ノ奥行ニヲハ二枚瓦（〇、六〇米）ノ厚サ八乃至十米ノ奥行ニアリテハ二枚半瓦（〇、七五米）ノ厚サトス但右ノ大サハ通常ノ石灰モルタル積壁ニ關スルモノニシテ素瓦造リ外部壁ニアリテハ粧裝又ハ板石ヲ後ロニ至リ壁ニ張付スルモ之ヲ壁ノ厚サ内ニ算入セザルモノトス

2、一階又ハ數階ノ家屋ニアリテ兩翼内ニ存在セル道路及内庭面ノ本壁（單翼ノ場合ニ於テハ兩本壁トモ）デッペル式ノ床ヲ設クル場合ニ於テハ階下毎ニ半枚瓦ノ厚サヲ加フ

第百八十九條　トラム床又ハ直接ニ梁鐵上ニ建造セル圓天井又ハ「モニール」式構造ナル場合ニアリテハ第百八十八條ノ大サニ基キ壁ハ二層丈ケ同一ノ厚サニ建造スルコヲ得但之等ノ天井ニアリテハ本壁ハ二層毎ニ下部煉瓦半枚ノ厚サヲ加フ然レドモ三階建地階ニアリテハ二枚瓦（〇、六〇米）ヨリ薄カラズ四階建地階ニアリテハ三枚瓦（〇、九〇米）ヨリ薄キヲ得ズ

中　壁

第百九十條　中央本壁（煉瓦）左ノ如ク築設スベシ

1、平家並ニ二階以上ノ建家ニ於テ階上ノ中壁ハ煉瓦一枚半（〇、四五米）ノ厚サトナスベシ但シ「デッペル」式幼又ハ圓天井ヲ天井トナシタル場合ニアリテハ中央体壁ハ階下毎ニ兩側面共半枚瓦ツヽノ厚サヲ加フ然レドモ桁床トラフユル式天井又ハ鐵條間ニ取付ウル木製天井又ハ「モヒール」式構造ヲ用ヒタル場合ニアリテハ中壁ハ二層毎ニ下部壁厚ヲ半枚瓦ノ厚サヲ加フベシ即チ此場合ニアリテハ兩隣共同一ノ厚サトナスコヲ得ベシ

2、一階以上ノ建物ニ於テ所謂露國式シリンドル形煙突ヲ使用シタル場合ニアリテハ最上階ノ中央本壁ハ少クトモ二枚瓦ノ厚サヲ有セザルベカラズ之ニ反シ恐ビ煙突ヲ用ヒタル場合ニアリテハ最上階ノ本壁ハ少クモ二枚半瓦以上ノ厚サトナスベキモノトス又前項ニ掲出セル厚サヲ保有セシガ爲メ煙突ノ輳合點ニ於テ積出シヲ設ケテ中央本壁ノ厚サヲ加フルコヲ得

3、壁積込ノ階段ノ場合ニ於テ二階建家楷段ノ側壁ノ厚サハ少クトモ十珊知アルベク三階乃至四階ノ建物ニアリテハ四十五珊知ヲ下ルベカラズ但持出際段ノ場合ニリアテハ層樓ノ

數ニ關セズ其側壁ヲ少クトモ四十糎珊知トナスベシ

穴庫ノ壁

第百九十一條 穴庫壁ハ平窯壁ヨリ厚キヿ煉瓦半枚トシ而メ穴庫ノ根積モ亦土中室壁ノモノヨリ煉瓦半枚丈ケ厚スルベシ

端壁

第百九十二條 端壁ハ建物ノ翼端ニ於テ又ハ兩翼ノ場合ニ於テハ隣家ニ面シテ一枚瓦(〇、三〇米)ノ厚サトナスベシ但此場合ニアリテハ天井ノ重量ヲ荷ハザル場合ニ限ル

仕切壁

第百九十三條 各住家ヲ區分スベキ隔壁ハ半枚瓦(〇、一五米)ノ厚サトナスヿヲ得ベシ但石膏、モニール、及其他同樣ノ構造ノ場合ニ於テハ十五珊知ヨリ薄クナスヿヲ得

圓天井及倉庫內ヲ區分スベキ隔壁ハ少クトモ一枚瓦(〇、三〇米)ノ厚サトナスベシ

天井ヲ有スル隔壁ハ天井ガ桁床又ハ鐵製トラフエルセン式ヨリ構成シタルトキハ奥行六米突マデ一枚瓦ノ厚サ(〇、三〇米)ニシテ六米突以上ハ一枚半瓦(〇、四五米)ノ厚サニ築造スベキモノトス而メ之等ノ隔壁ハ各階ヲ通ジテ同一ノ厚サトナスヿヲ得但ダッベル式床ニアリテ前記ノ室幅ナル場合ニ於テハ下階毎ニ半枚瓦ノ厚サヲ加フベシ

混合材料製壁

第百九十四條 混合材料即ヲ碎石及瓦ヲ以テ造レル壁ハ一階建ノ家屋ニテ奥行五米內部ノ高サ四米以上ノモノニアリテハ總瓦ノモノヨリ半枚瓦ダケ厚味ヲ加フベシ壁ノ厚味增加ニ付キテハ第百八十八條乃至第百九十條規定方法並ニ同條規定ノ割合ニ從フベキモノトス

例外處分

第百九十五條 十米突以上ノ法外ナル奥行ヲ有スル建物又ハ特別構造ノ建物ノ壁ノ厚サニ關シテ係リ廳ハ設計者ノ提出スベキ耐重表ニ基キ每時之ヲ決定指示スベシ

改築

第百九十六條 舊建物ノ改築又ハ高サヲ增スニ當リ舊來ノ地形ノ儘ニテ增築スルヲ許サズ

壁柱

第百九十七條 各壁柱ハ通常良質ノ煉瓦ヲ以テ廣造スベキモノナレドモ該柱ガ窓ノ內部ノ幅ヨリモ廣キ場合ニ限リ混合材料ヲ使用スルヿヲ得

請求ニ依リ壁柱ヲセメントニテ築造シ又ハ硬石又ハ鐵製ノ柱ニ代フルヿヲ得ベシ係リ廳ハ必要ニ依リ右ニ關スル決定ヲナス

役員及職員

理事長　片岡安藏（主記）
理事　宗兵寅（編輯）
　　池田壯一郎（編輯）
　　葛野長七（編輯）
　　吉井舟橋喜一（主計）
編輯補　佐藤四郎
　　波江悌夫
　　江村郊邨
書記　山崎萬壽夫

會員	一七四	會員（地方）	五一
名譽賛助員	七二	終身賛助員	四〇
特別賛助員	九	普通賛助員	二四三
合計	五八九		

本誌及廣告料定價表

本誌	冊數	定價	郵稅
	一冊	金五拾錢	貳錢
	十二冊	六圓	貳拾四錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
	特別頁	貳拾圓
	裏表紙表	貳拾五圓

大正九年二月廿九日印刷
大正九年三月一日發行（毎月壹回一日發行）

發行兼編輯人　大阪市北區相生町一三四　伊藤幸太郎　電話（東一八八三番）
兼印刷人　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地

印刷所　大阪活版所　大阪市東區今橋一丁目十一番地

發行所　日本建築協會　電話本局二二四一番　振替口座大阪三九九七五　大阪市西區京町堀羽子板橋北

特約販賣店　柳々堂書店　電話（土佐堀二四四〇番）

●第三集　第三号　掲載広告一覧（掲載順）

北木島石材株式会社大阪出張所
池田稔事務所
出浦建築事務所
新海工務所
葛野建築事務所
渡辺建築事務所
片岡建築事務所
横河工務所
宗建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
遠藤於菟
木子建築事務所
設楽建築工務所
茂、野村建築事務所
山本窯業商店
池田勘蔵

大倉土木組大阪出張所
橋本料左衛門
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
山本鑑之進工務所
山中建築部
山本組
鴻池組
松村組
小西組
安藤組大阪出張所
清水組大阪支店
木村組
清水工務店
銭高組
東洋コンブレッソル

熊取谷熊次郎
石井定七
矢橋商店
濱恒次郎本店
ホーン大阪支店
巣鴨製作所大阪支店
銀座建築用品店
穴原商会
浅海商店
村井工業所
野沢幸三郎商店
高田商会銀座販売店
明正社大阪支店
山本コンベス商会
大野正営業所
大阪窯業
銀座建築用品店大阪支店

大阪煖房商会
大阪電気商会
高田商会
松尾和助本店
大阪鉄筋混凝土工務所
横河橋梁製作所
高石商会本店
米国貿易会社
浅野スレート大阪出張所
共同建材製作所
栄進社
日本コルク
日本石綿盤製造
コルク工業
砂崎
東洋コンブレッソル大阪出張所
須賀商会
有田製陶所
宇野沢組スティンド硝子製作所

内外土木建築材料
川崎工場
日本建築用製紙
日本建築紙工
南満鉱業
東亜通商
別府ステンド硝子製作所
日本建築協会
日本建築用製紙営業部
茂木